

**2023年度
大学院政治学研究科
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覽

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

政治学専攻_政治学特殊演習 【X5000】 政治学特殊演習 1 [杉田 敦] 春学期授業/Spring	1
政治学専攻_政治学特殊演習 【X5001】 政治学特殊演習 2 [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	2
政治学専攻_修士専門科目 【X5008】 行政学研究 1 [林 嶺那] 春学期後半/Spring(2nd half)	3
政治学専攻_修士専門科目 【X5009】 行政学研究 2 [林 嶺那] 秋学期後半/Fall(2nd half)	4
政治学専攻_修士専門科目 【X5010】 政治史研究 1 [細井 保] 春学期授業/Spring	5
政治学専攻_修士専門科目 【X5011】 政治史研究 2 [細井 保] 秋学期授業/Fall	6
政治学専攻_修士専門科目 【X5012】 日本政治史研究 1 [明田川 融] 春学期授業/Spring	7
政治学専攻_修士専門科目 【X5013】 日本政治史研究 2 [明田川 融] 秋学期授業/Fall	8
政治学専攻_修士専門科目 【X5014】 政治思想史演習 1 [河野 有理] 春学期授業/Spring	9
政治学専攻_修士専門科目 【X5015】 政治思想史演習 2 [河野 有理] 秋学期授業/Fall	10
政治学専攻_修士専門科目 【X5018】 公共哲学研究 1 [宮川 裕二] 秋学期前半/Fall(1st half)	11
政治学専攻_修士専門科目 【X5019】 公共哲学研究 2 [宮川 裕二] 秋学期後半/Fall(2nd half)	12
政治学専攻_修士専門科目 【X5020】 コミュニティ論研究 1 [淵元 初姫] 秋学期前半/Fall(1st half)	13
政治学専攻_修士専門科目 【X5021】 コミュニティ論研究 2 [西谷内 博美] 春学期後半/Spring(2nd half)	14
政治学専攻_修士専門科目 【X5026】 公共政策研究 1 [淵元 初姫] 春学期前半/Spring(1st half)	15
政治学専攻_修士専門科目 【X5027】 公共政策研究 2 [淵元 初姫] 春学期後半/Spring(2nd half)	16
政治学専攻_修士専門科目 【X5032】 行政理論研究 1 [南島 和久] 春学期後半/Spring(2nd half)	17
政治学専攻_修士専門科目 【X5034】 政策学研究 1 [土山 希美枝] 秋学期前半/Fall(1st half)	19
政治学専攻_修士専門科目 【X5035】 政策学研究 2 [鄭 智允] 秋学期後半/Fall(2nd half)	20
政治学専攻_修士専門科目 【X5041】 比較政治論 1 [新川 敏光] 春学期授業/Spring	21
政治学専攻_修士専門科目 【X5042】 比較政治論 2 [新川 敏光] 秋学期授業/Fall	22
政治学専攻_修士専門科目 【X5043】 連帯社会とサードセクター [伊丹謙太郎・柏木宏・禹宗杭] 春学期授業/Spring	23
政治学専攻_修士専門科目 【X5044】 立法学研究 1 [神崎 一郎] 春学期前半/Spring(1st half)	24
政治学専攻_修士専門科目 【X5048】 自治体研究 1 [土山 希美枝] 春学期前半/Spring(1st half)	26
政治学専攻_修士専門科目 【X5052】 公務員制度研究 [森谷 明浩] 秋学期後半/Fall(2nd half)	27
政治学専攻_修士専門科目 【X5057】 雇用・労働政策研究 [濱口 桂一郎] 秋学期前半/Fall(1st half)	28
政治学専攻_修士専門科目 【X5058】 政策法務論 [神崎 一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	29
政治学専攻_修士専門科目 【X5059】 防災危機管理研究 [鍵屋 一] 春学期前半/Spring(1st half)	31
政治学専攻_修士専門科目 【X5063】 ジェンダー政治研究 2 [中野 洋恵] 春学期後半/Spring(2nd half)	32
政治学専攻_修士専門科目 【X5064】 自治体福祉政策論 [鏡 諭] 秋学期前半/Fall(1st half)	34
政治学専攻_修士専門科目 【X5065】 自治体議会論 [鍵屋 一] 春学期後半/Spring(2nd half)	36
政治学専攻_修士専門科目 【X5066】 NPO論 1 [柏木 宏] 春学期前半/Spring(1st half)	37
政治学専攻_修士専門科目 【X5067】 NPO論 2 [柏木 浩] 春学期後半/Spring(2nd half)	39
政治学専攻_修士専門科目 【X5069】 シンクタンク論 [蒔田 純] 秋学期集中/Intensive(Fall)	40
政治学専攻_修士専門科目 【X5073】 国際政治の基礎理論 1 [大中 真] 春学期授業/Spring	42
政治学専攻_修士専門科目 【X5092】 アメリカ外交研究 1 [石川 敬史] 春学期授業/Spring	43
政治学専攻_修士専門科目 【X5094】 日中関係政策論 1 [熊倉 潤] 春学期授業/Spring	45
政治学専攻_修士専門科目 【X5095】 日中関係政策論 2 [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall	46
政治学専攻_修士専門科目 【X5098】 国連・平和構築研究 1 [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	47
政治学専攻_修士専門科目 【X5099】 国連・平和構築研究 2 [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	48
政治学専攻_修士専門科目 【X5107】 国際行政研究 1 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	49
政治学専攻_博士専門科目 【X5202】 博士論文演習Ⅱ A [杉田 敦] 春学期授業/Spring	50
政治学専攻_博士専門科目 【X5203】 博士論文演習Ⅱ B [杉田 敦] 秋学期授業/Fall	51
政治学専攻_博士専門科目 【X5208】 博士論文演習Ⅲ A [犬塚 元] 春学期授業/Spring	52
政治学専攻_博士専門科目 【X5209】 博士論文演習Ⅲ B [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	53

政治学専攻_博士専門科目	【X5210】博士論文演習Ⅲ A [山口 二郎] 春学期授業/Spring	54
政治学専攻_博士専門科目	【X5211】博士論文演習Ⅲ B [山口 二郎] 秋学期授業/Fall	55
国際政治学専攻_選択必修科目 (基礎理論)	【X5500】国際政治理論 [大中 真] 春学期授業/Spring	56
国際政治学専攻_選択必修科目 (基礎理論)	【X5501】アメリカ外交史 [石川 敬史] 春学期授業/Spring	57
国際政治学専攻_選択必修科目 (基礎理論)	【X5506】アジア国際政治史 [福田 円] 秋学期授業/Fall	59
国際政治学専攻_選択必修科目 (基礎理論)	【X5507】国際公共政策研究 1 [坂根 徹] 春学期授業/Spring	60
国際政治学専攻_選択必修科目 (基礎理論)	【X5511】非伝統的安全保障研究 [本多 美樹] 春学期授業/Spring	61
国際政治学専攻_必修科目	【X5512】Academic Reading (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	63
国際政治学専攻_必修科目	【X5513】Academic Reading (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	64
国際政治学専攻_必修科目	【X5514】Thesis Writing (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	65
国際政治学専攻_必修科目	【X5515】Thesis Writing (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	66
国際政治学専攻_必修科目	【X5516】Presentation & Debate (初級) [アラン メドウズ] 春学期授業/Spring	67
国際政治学専攻_必修科目	【X5517】Presentation & Debate (上級) [ザヘル・ハスン] 秋学期授業/Fall	68
国際政治学専攻_選択科目	【X5518】国連・平和構築研究 1 (国連組織) [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	69
国際政治学専攻_選択科目	【X5519】国連・平和構築研究 2 (平和構築) [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	70
国際政治学専攻_選択科目	【X5521】国際公共調達研究 2 [坂根 徹] 秋学期授業/Fall	71
国際政治学専攻_選択科目	【X5522】持続可能な開発のための教育 (ESD) [弓削 昭子] 春学期授業/Spring	72
国際政治学専攻_選択科目	【X5524】地球規模課題政策研究 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	73
国際政治学専攻_選択科目	【X5525】アジア比較政治 [福田 円] 春学期授業/Spring	74
国際政治学専攻_選択科目	【X5529】対外政策研究 (中国) (1) [熊倉 潤] 春学期授業/Spring	75
国際政治学専攻_選択科目	【X5530】対外政策研究 (中国) (2) [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall	76
国際政治学専攻_選択科目	【X5537】国際地域研究 (朝鮮半島) (1) [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	77
国際政治学専攻_選択科目	【X5538】国際地域研究 (朝鮮半島) (2) [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	78
国際政治学専攻_選択科目	【X5539】国際地域研究 (ロシア) (1) [溝口 修平] 春学期授業/Spring	79
国際政治学専攻_選択科目	【X5540】国際地域研究 (ロシア) (2) [溝口 修平] 秋学期授業/Fall	80
国際政治学専攻_選択科目	【X5543】国際地域研究 (ヨーロッパ) (1) [宮下 雄一郎] 春学期授業/Spring	81
国際政治学専攻_選択科目	【X5544】国際地域研究 (ヨーロッパ) (2) [宮下 雄一郎] 秋学期授業/Fall	82
国際政治学専攻_選択科目	【X5545】日本外交研究 1 [高橋 和宏] 春学期授業/Spring	83
国際政治学専攻_選択科目	【X5546】日本外交研究 2 [高橋 和宏] 秋学期授業/Fall	84
国際政治学専攻_選択科目	【X5547】グローバル政治経済特別セミナー [浅見 靖仁] 秋学期集中/Intensive(Fall)	85
国際政治学専攻_選択科目	【X5548】開発援助運営論: JICA講座 [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall	86
国際政治学専攻_選択科目	【X5550】総合講座・外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall	87

POL600A3

政治学特殊演習 1

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習 1 および 2 は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。1 は春学期に開講される。

【到達目標】

最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士 1 年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士 2 年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習 1 は、7 月初旬に行なう論文構想発表会が、将来に向けた重要な発表の経験の機会となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この演習の概要、進め方について説明する。
第 2 回	研究倫理	研究倫理についての研修プログラムを受講する。
第 3 回	論文執筆の心構え	コースワークとは独自にどのように論文を準備していったらよいかを考える。
第 4 回	研究論文の基本	研究論文の基本を学習、確認する。
第 5 回	資料・文献の探索	図書館とオンラインデータベースの使い方に習熟する。
第 6 回	研究テーマと論文構想	自分なりの研究テーマを確定し、どんな論文を書いていくかを考える。
第 7 回	先行研究のフォロー	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第 8 回	資料収集	特に一次資料については、その所在や入手方法を確認し、収集計画を立てる。
第 9 回	主要文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて主要文献ないし重要資料とされているものを読み解く。
第 10 回	問いと視点の明瞭化	資料・文献の読解、分析に基づいて、どのような研究上の問いと視点を採用するのかを検討する。
第 11 回	論文構想づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。

第 12 回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第 13 回	論文構想発表会（精査）	他の院生がおこなう研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第 14 回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要なときに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

1 年次生については、論文構想発表会での出席と報告（80%）、提出物（20%）で評価する。2 年次生については、論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

1 Aim

The Seminar I and II are series of courses, which are instructed by your supervisor and the other members of the Department of Politics. The aim of this course is to provide basic skills and knowledge that are indispensable for writing master's thesis. You have the Seminar I in the spring semester.

2 Method

This seminar is held as workshops by supervisors of each graduate student and other staffs in the Department of Politics. Staffs will make comments and suggestions to reports by students.

3 Requirements

A student must report agenda and outline of his/her thesis once a semester. Credit will be given if students accomplish the requirements.

POL600A3

政治学特殊演習2

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学特殊演習1および2は、指導教員を中心に政治学研究科政治学専攻の教員の総力で、それぞれの院生が修士論文を書き上げていく上で必要な指導を行なう論文指導科目である。2は秋学期に開講される。

【到達目標】

最終目標はもちろんそれぞれが修士論文を完成させることである。修士1年春学期は、政治学の基礎を確立するとともに、修士論文の構想を練り上げること、その秋学期は修士論文執筆に必要な準備を行なっているかどうかを点検すること、修士2年春学期は、修士論文の構想を確定し、先行研究のフォローや必要な資料の洗い出しが終わっていること、その秋学期は、論文執筆が進行中であること、を目標にされたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」「DP3」は特に強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政治学特殊演習2は、12月初旬に行なう論文構想発表会がそれぞれの院生にとって最も重要な発表の機会となる。指導教員の指導を受けながらその準備と事後の振り返りをしっかり行なっていくことで、論文完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	論文テーマの確定	秋学期のはじめには修士2年はもちろん、修士1年の院生もなるべく論文の大まかなテーマは決めるようにしたい。
第2回	先行研究のフォロー、分析	論文で扱うテーマについてどんな先行研究があるかを調べて整理していく。
第3回	文献・資料の読破	論文で扱うテーマにおいて必要な文献ないし重要資料を読み解く。
第4回	問いと観点の設定	資料・文献の読解、分析に基づいて、研究上の問いと観点を設定する。
第5回	研究史における位置づけ	論文で扱う（扱おうとしている）研究内容を、当該分野における研究史の文脈上に位置づける。
第6回	論文構想の彫琢	書こうとしている論文についてのレジュメを作成してみる。特に修士2年生は詳しいレジュメを作る。
第7回	論文執筆開始	書きやすいところから実際に論文を書き進めていく。
第8回	論文構成の調整	執筆過程で新たな考察要素を加えることの必要に気付いた場合などには、必要に応じて論文の構成を調整する。
第9回	文献・資料の補強	研究の深化に対応して、文献・資料の収集、分析を必要に応じて継続する。
第10回	校閲、推敲	論文の執筆過程における校閲、推敲の重要性を理解する。
第11回	論文構想発表会資料づくり	論文の構想をまとめて、報告資料を作成する。目次と参考文献リストは必ず準備する。
第12回	論文構想発表会（報告）	それぞれ構想していることについて報告し、全教員による指導を受ける。
第13回	論文構想発表会（精察）	他者の研究報告を把握、分析し、報告方法や研究の組み立て方などを参考にする。
第14回	論文構想発表会の振り返り	論文構想発表会で指摘されたことを振り返り、論文執筆の準備に生かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上の「授業計画」に示した内容を参考に、普段の授業でのいわゆるコースワークとは独自に、論文執筆の準備を進められたい。そのために要する時間は通常、授業時間を大幅に上回るものになることから、計画的に進めること。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要などに適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

論文構想発表会での出席と報告（100%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの対象外である。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（貸与パソコン等）

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

1 Aim

The Seminar I and II are series of courses, which are instructed by your supervisor and the other members of the Department of Politics. The aim of this course is to provide basic skills and knowledge that are indispensable for writing master's thesis. You have the Seminar I in the spring semester.

2 Method

This seminar is held as workshops by supervisors of each graduate student and other staffs in the Department of Politics. Staffs will make comments and suggestions to reports by students.

3 Requirements

A student must report agenda and outline of his/her thesis once a semester. Credit will be given if students accomplish the requirements.

POL500A3

行政学研究 1

林 嶺那

備考（履修条件等）：公共政策学「行政学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになること、専門的な論文の読解ができるようになること、を本講義の目的とします。行政学における広範なテーマを扱う一方で、特定のテーマに関する専門的な論文も扱います。

【到達目標】

行政学における基本的な研究テーマを理解できるようになり、専門的な論文の読解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

予め指定した論文を読み、担当者が自らの作成したレジュメを元に報告を行います。その後、全体で議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の基本方針と進め方、論文報告の役割分担
第 2 回	論文の報告①	割り当てられた論文についての報告
第 3 回	「論文の報告①」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行 う
第 4 回	論文の報告②	割り当てられた論文についての報 告
第 5 回	「論文の報告②」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行 う
第 6 回	論文の報告③	割り当てられた論文についての報 告
第 7 回	「論文の報告③」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行 う
第 8 回	論文の報告④	割り当てられた論文についての報 告
第 9 回	「論文の報告④」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行 う
第 10 回	論文の報告⑤	割り当てられた論文についての報 告
第 11 回	「論文の報告⑤」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行 う
第 12 回	論文の報告⑥	割り当てられた論文についての報 告
第 13 回	「論文の報告⑥」を踏 まえたディスカッショ ン	報告された論文に関する議論を行 う
第 14 回	まとめ	これまで扱った論文について振り 返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、割り当てられた論文の読解 60 分、論文報告資料準備 120 分で、合計 180 分を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 4290 円
曾我謙悟（2022）『行政学〔新版〕』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパーの提出（50%）

論文の報告（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

行政や政策に関するニュースを見る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The course aims to give students an overview of the primary research themes in public administration and enable them to read and understand research papers on specialized topics. While we will cover a wide range of issues in public administration, we will also deal with papers on specific issues. The standard preparation time for this class is 180 minutes in total: 60 minutes for reading the textbook and 120 minutes for preparing the presentation. 50% of the evaluation will be based on the comment papers, and the remaining 50% will be based on the presentation.

POL500A3

行政学研究 2

林 嶺那

備考（履修条件等）：公共政策学「行政学事例研究の方法」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、行政学における事例研究の理論と実践について、体系書と実証研究を元に理解を深め、事例研究を実践できるようになることを目的とする。なお、本講義では、事例研究を「より大きな事例の集合に、少なくとも部分的に光を当ててを目的とするような単一あるいは複数事例の研究」と定義する。

【到達目標】

行政学における事例研究の理論と実践について理解を深め、事例研究を実践できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定した論文や著作に関する受講者の報告を軸とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の内容について概説する。
第 2 回	研究のタイプと研究論文の構造	記述的な研究と因果的な研究の区別を理解した上で、研究論文の基本的な構造を学ぶ。
第 3 回	事例研究のタイプ	事例研究のタイプに関する著作の一部を読む。
第 4 回	事例選択の基準	事例選択の基準に関する著作の一部を読む。
第 5 回	記述的な事例研究	記述的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 6 回	因果的な事例研究	因果的な事例研究に関する著作の一部を読む。
第 7 回	定性的研究と定量的研究の違い	定性的研究と定量的研究の違いを理解し、両者を組み合わせた混合手法について理解する。
第 8 回	事例研究の評価基準	事例研究の評価基準に関する著作の一部を読む。
第 9 回	論文の報告①	指定した論文の報告を行う。行政改革に関する論文を予定している。
第 10 回	論文の報告②	指定した論文の報告を行う。第一線公務員論に関する論文を予定している。
第 11 回	論文の報告③	指定した論文の報告を行う。リーダーシップに関する論文を予定している。
第 12 回	論文の報告④	指定した論文の報告を行う。ガバナンスに関する論文を予定している。
第 13 回	論文の報告⑤	指定した論文の報告を行う。途上国の行政に関する論文を予定している。
第 14 回	研究構想の発表	事例研究に基づく研究計画の構想を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間・復習時間は、論文報告資料準備 90 分、論文内容の復習 30 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

King, G., Keohane, R. O., & Verba, S., 1994, Designing social inquiry, Princeton university press.

Gerring, J., 2016, Case Study Research: Principles and Practices, Cambridge University Press.

Yin, R.K., 1994, Case Study Research: Design and Methods, Sage.

【成績評価の方法と基準】

議論への参加（70%）

研究報告（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This course aims to deepen students' understanding of the theory and practice of case studies in public administration and enable them to implement case studies. In this course, a case study is defined as a study on single or multiple cases that aims to shed light, at least partially, on a more extensive set of cases. The standard preparation and review time for this class is 120 minutes in total, consisting of 90 minutes to prepare presentations and 30 minutes to review the paper discussed. 70% of the evaluation is based on participation in the discussion; the rest will be on the presentation.

POL500A3

政治史研究 1

細井 保

備考（履修条件等）：学部「政治学特殊講義 1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある院生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる院生であっても、政治学専攻に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学専攻の院生であれば読んでいたことが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、大学院入試などでしばしばとりあげられていて、大学院入試を受ける際に勉強はしたことはあるが、実際には手にとって読んだことのない文献が選定の基準となる。今年度はさしあたりE・H・カーやハンス・モーゲンソーなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	E・H・カー	『歴史と何か』
3	E・H・カー	『歴史と何か』
4	E・H・カー	『歴史と何か』
5	E・H・カー	『歴史と何か』
6	E・H・カー	『歴史と何か』
7	E・H・カー	『歴史と何か』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	E・H・カー	『危機の二十年』
10	E・H・カー	『危機の二十年』
11	E・H・カー	『危機の二十年』
12	E・H・カー	『危機の二十年』
13	E・H・カー	『危機の二十年』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

E・H・カー『歴史とは何か』岩波書店

E・H・カー『危機の二十年』岩波書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keyword: classical works of political science

POL500A3

政治史研究2

細井 保

備考（履修条件等）：学部「政治学特殊講義2」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある院生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる院生であっても、政治学専攻に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学専攻の院生であれば読んでいることが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、大学院入試などでしばしばとりあげられていて、大学院入試を受ける際に勉強はしたことはあるが、実際には手にとって読んだことのない文献が選定の基準となる。今年度はさしあたりE・H・カーやハンス・モーゲンソーなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
3	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
4	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
5	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
6	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
7	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
8	秋学期中間考察	前半をふりかえる
9	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
10	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
11	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
12	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
13	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
14	秋学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

ハンス・モーゲンソー『国際政治』岩波書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keyword: classical works of political science

POL500A3

日本政治史研究 1

明田川 融

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、あらためて日本政治史において対日占領期の持つ意味を問う研究が上梓されている。本授業は、連合国—といっても主力は米国であったが—による対日占領と、米国による琉球／沖縄占領とを比較しながら、第二次大戦後の日本占領について再検討・再評価を試みるものである。いわゆる日本本土占領および琉球／沖縄占領にかかわる一次資料・研究論文・文献の精読を踏まえたうえで、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

受講生は、占領史に関する先行研究を踏まえたうえで、日本政治史における対日、対琉球／沖縄占領の光と影の所産を的確に把握・評価できるようにすることが求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストとしては、福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』（中央公論新社、2014年）および櫻澤誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』（中央公論新社、2015年）を精読し、議論する。

なお、2回目以降となるが、授業のはじめに課題（試験やレポート等）に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	対日占領性政策の立案	SWINCC150 シリーズ、JCS1380 シリーズ、ポツダム宣言、ブラックリスト作戦の形成
第2回	対日占領のはじまり	その究極目的
第3回	統治体制の変革	象徴天皇制と主権在民への道
第4回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄要塞化の相関
第5回	対日早期講和の提唱と安保問題	いわゆる芦田メモと沖縄の将来に関する昭和天皇メッセージ
第6回	戦後政党政治の起動	占領初期における本土と沖縄の政党活動
第7回	対日政策の転換	PPS28 シリーズ～NSC13 シリーズの形成
第8回	講和論争	日米で二分される国論
第9回	講和準備研究作業	NSC60/1 への道、A・B・C・D 作業
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	第3条（潜在主権方式）の形成を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考察する
第14回	日本、琉球／沖縄占領とは何だったのか	日本政治史における占領の意味を考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

福永文夫『日本占領史 1945-1952 東京・ワシントン・沖縄』中央公論新社、2014年。
櫻澤誠『沖縄現代史 米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社、2015年。

【参考書】

思想の科学研究会編『共同研究／日本占領』徳間書店、1972年。
竹前栄治『GHQ』岩波書店、1983年。
五百旗頭真『米国の日本占領政策 戦後日本の設計図』上・下、中央公論社、1985年。
坂本義和・R. E. ウォード編『日本占領の研究』東京大学出版会、1987年。
袖井林二郎『吉田茂＝マッカーサー往復書簡集 1945-1951』法政大学出版局、2000年。
賀茂道子『ウォー・ギルト・プログラム GHQ 情報教育政策の実像』法政大学出版局、2018年。
前田勇樹・古波藏契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ボーダーインク、2021年。
平良好利・高江洲昌哉編『戦後沖縄の政治と社会 「保守」と「革新」の歴史的位相』吉田書店、2022年。

沖縄県教育庁文化財課史料編集班『沖縄県史 各論編 第七巻 現代』沖縄県教育委員会、2022年。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100%）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用したり、オンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2023年2月8日）

新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日米関係史、日本政治外交史

<研究テーマ> 日米地位協定の成立過程

沖縄と日米安保体制の歴史

日本と核兵器との関係史

<主要研究業績および刊行物>

・『日米行政協定の政治史—日米地位協定研究序説—』法政大学出版局、1999年。
・『沖縄基地問題の歴史—非武の島、戦の島—』みすず書房、2008年（第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞【社会科学部門】受賞）。
・『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。
・『核兵器と『国民の特殊な感情』』1～6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「バックス・アメリカナ」か「バックス・アジア」か』NHK出版、2014年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952年 沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。

また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしたくないこと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。

現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, remarkable literatures on Allied occupation of Japan proper and American occupation of Ryukyu (Okinawa) islands have been published. Political history of Japan 1 is an essay to revise and re-evaluate occupation of Japan. In this class, comparison perspective between occupation of Japan proper and that of Ryukyu (Okinawa) is used. Students must read a lot of articles, literatures, and historical documents.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political process of the Allied Occupation of Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution: 100%

POL500A3

日本政治史研究2

明田川 融

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次大戦後を扱った日本政治史において、一見して意外に思われるのが、沖縄・昭和天皇・安保を含む日米関係の連関である。そして、その生成および展開過程についての検証や考察が充分になされてきたとは言いがたい。本授業では、当該期の日本を取り巻く国際環境や日本が置かれた地理的条件などとも関連づけながら、戦後日本政治史においてあまり取りあげられてこなかった未解明の領域について知見を深め広げていきたい。そのような作業は「昭和」の終焉から30年が経ち、平成も終わろうとする今日、不可欠と考える。当該機にかかわる新発見史料、研究論文、文献の精読を踏まえつつ、受講生と議論を行いたい。

【到達目標】

これまで、第二次大戦後を扱った日本政治史研究において最も欠落していたのは、沖縄および昭和天皇という、じつは密接な連関をもつ二つのファクターを十分に分析し、定位するという作業であった。本授業では、近年公開された沖縄をめぐる日米両政府の公文書や、2021年より刊行が始まった『昭和天皇拝謁記 初代宮内庁長官田島道治の記録』（古川隆久ほか編、岩波書店）を読み込みながら、戦後日本政治史についての知見をより深め、広げることが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストとして、田島道治著、田島恭二翻刻・編集、古川隆久・茶谷誠一・富永望・瀬畑源・河西秀哉・舟橋正真編、〈協力〉NHK『昭和天皇拝謁記 初代宮内庁長官田島道治の記録』（岩波書店）および関連資料を精読し、議論する。

なお、2回目以降となるが、授業のはじめに課題に対して講評し、受講生に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長官就任	1949年2月3日の条～同12月29日の条（以下、1949.2.3～12.29などと略記する）を精読する。なお、左記の「テーマ」と当該の条にある記述とは必ずしも一致しない場合もあります。
第2回	拝謁記執筆	1950.1.2～5.25を精読する。
第3回	憲法問題	1950.5.30～10.23を精読する。
第4回	共産主義	1950.10.31～1951.5.27を精読する。
第5回	逆コース	1951.5.29～6.27を精読する。
第6回	レッド・バージ	1951.8.3～9.4を精読する。
第7回	追放解除	1951.9.4～9.22を精読する。
第8回	朝鮮戦争	1951.9.22～10.23を精読する。
第9回	再軍備	1951.10.30～12.14を精読する。
第10回	講和問題	1951.12.17～1952.3.5を精読する。
第11回	安保条約	1952.3.5～1952.4.30を精読する。
第12回	沖縄	1952.5.3～1952.9.16を精読する。
第13回	米軍駐留	1952.9.19～1952.12.19を精読する。
第14回	「拝謁記」が語ること	1952.12.24～1953.12.15を精読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する大学院生は、自ら関連する文献や資料を読んだり、レポート課題に取り組んだりすることにより、各々が適当と判断する時間の、授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

田島道治著、田島恭二翻刻・編集、古川隆久・茶谷誠一・富永望・瀬畑源・河西秀哉・舟橋正真編、〈協力〉NHK『昭和天皇拝謁記 初代宮内庁長官田島道治の記録』1（岩波書店、2021年）、および同2（岩波書店、2022年）。

【参考書】

豊下橋彦『安保条約の成立—吉田外交と天皇外交』（岩波書店、1996年）。
同上『昭和天皇・マッカーサー会見』（岩波書店、2008年）。
同上『昭和天皇の戦後日本—〈憲法・安保体制〉にいたる道—』（岩波書店、2015年）。
吉次公介「知られざる日米安保体制の“守護者”—昭和天皇と冷戦」『世界第755号所収。古川隆久『昭和天皇—「理性の君主」の孤独—』（中央公論新社、2011年）。
宮内庁『昭和天皇実録 第九』（東京書籍、2016年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点のみ（100%）。やや詳しくは、授業への積極的な貢献度（出席等）、報告（レジュメ）の内容やプレゼンテーションぶり、議論のようすなどをみて総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用したり、オンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2023年2月8日）

新型コロナウイルスにより、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日米関係史、日本政治外交史

<研究テーマ> 日米地位協定の成立過程
沖縄と日米安保体制の歴史
日本と核兵器との関係史

<主要研究業績および刊行物>

・『日米行政協定の政治史—日米地位協定研究序説—』法政大学出版局、1999年。
・『沖縄基地問題の歴史—非武の島、戦の島—』みすず書房、2008年（第30回沖縄協会・沖縄研究奨励賞【社会科学部門】受賞）。
・『日米地位協定—その歴史と現在—』みすず書房、2017年。
・波多野澄雄・河野康子監修（明田川補）『沖縄返還関係資料』（第1回配本分、全7巻）現代史料出版、2017年。
・『核兵器と「国民の特殊な感情」』1～6（雑誌『みすず』に2013年6月号より2015年8月まで不定期連載）。
・ジョン・ハーシー『ヒロシマ 増補版』法政大学出版局、2003年（共訳）。
・ジョン・W. ダワー著『昭和 戦争と平和の日本』みすず書房、2010年（監訳）。
・ジョン・W. ダワー／ガバン・マコーマック著『転換期の日本へ 「バックス・アメリカナ」か「バックス・アジア」か』NHK出版、2014年（共訳）。
・『占領期年表 1945-1952年 沖縄・憲法・日米安保』創元社、2015年（監修）。
近年、広島・長崎・ビキニを経験した日本の核兵器に対する「国民感情」と政府の安全保障政策との連関について研究をまとめるべく、資料収集や分析視覚の検討を行っている。
また、1950年代半ばの沖縄で米軍により強行された土地強制収用にさいして、住民代表である立法院（県議会のような組織）がなしたことと、なしえなかったことの実証にも取り組んできた。
現在は、波多野澄雄・筑波大学名誉教授および河野康子・法政大学名誉教授ならびに平良好利・中京大学准教授らによる監修で刊行が進められている沖縄施政権返還交渉関係資料集の編集補佐がおもな仕事となっている。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 2 is an essay to clarify the relation among Okinawa, Showa emperor and U.S.-Japan security arrangements. At a glance, students feel strange about the relation of the three. But recent years, some historical materials were discovered and have shown the evidences of the relation. Today—30 years after the Showa period— it is essential for us to examine newly found historical fact.

【Learning objectives】

The goals of this course are to understand the political history of post-war Japan and the role of Showa Emperor.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
In class contribution: 100%

POL500A3

政治思想史演習 1

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学研究や政治思想研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、原典や学術論文を丁寧に輪読する。

【到達目標】

(1) 原典や学術論文を正確に読解・理解する。(2) 政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の方法と内容
第 2 回	文献読解	文献 1 (1)
第 3 回	文献読解	文献 1 (2)
第 4 回	文献読解	文献 1 (3)
第 5 回	文献読解	文献 1 (4)
第 6 回	文献読解	文献 2 (1)
第 7 回	文献読解	文献 2 (2)
第 8 回	文献読解	文献 2 (3)
第 9 回	文献読解	文献 2 (4)
第 10 回	文献読解	文献 3 (1)
第 11 回	文献読解	文献 3 (2)
第 12 回	文献読解	文献 3 (3)
第 13 回	文献読解	文献 3 (4)
第 14 回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】 大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定する。

【参考書】

使用するテキストに掲載された文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【学生が準備すべき機器他】

念のため Zoom に接続するための情報機器。

【その他の重要事項】

他専攻所属の学生の履修可。

【Outline (in English)】

An introduction to political thought

POL500A3

政治思想史演習2

河野 有理

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学研究や政治思想研究の基礎となるスキルと知識を修得するために、原典や学術論文を丁寧に輪読する。

【到達目標】

(1) 原典や学術論文を正確に読解・理解する。(2) 政治思想・政治理論研究の基礎知識や基礎的方法論を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

指定文献を少しずつ読解する。各回は、担当者による報告と、ディスカッションによって構成される。報告者のみならず、すべての参加者が文献を精読していることを前提にして授業は行われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法と内容
第2回	文献読解	文献1 (1)
第3回	文献読解	文献1 (2)
第4回	文献読解	文献1 (3)
第5回	文献読解	文献1 (4)
第6回	文献読解	文献2 (1)
第7回	文献読解	文献2 (2)
第8回	文献読解	文献2 (3)
第9回	文献読解	文献2 (4)
第10回	文献読解	文献3 (1)
第11回	文献読解	文献3 (2)
第12回	文献読解	文献3 (3)
第13回	文献読解	文献3 (4)
第14回	まとめ	前期の学習の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【参考】 大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上、実験、実習及び実技（1単位）では1回につき1時間以上が標準となる。

【テキスト（教科書）】

受講者の問題関心や研究テーマに即して講読文献を選定する。

【参考書】

使用するテキストに掲載された文献リストを参照。

【成績評価の方法と基準】

平常点（100点）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者のニーズに応じてカスタマイズしたプログラムとします。

【学生が準備すべき機器他】

念のため Zoom に接続するための情報機器。

【その他の重要事項】

他専攻所属の学生の履修可。

【Outline (in English)】

An introduction to political thought

POL500A3

公共哲学研究 1

宮川 裕二

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「公共哲学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。近代以降の社会思想の展開をたどり、「自由」と「公共」という公共哲学の基礎的な概念について理解し、現代の公共的課題を探究できる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

公共哲学の基礎的な概念である「自由」と「公共」、およびそれらの相関について理解し、それを踏まえて現代の公共的課題を探究できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入的講義／文献講読	導入的講義、「社会思想とは何：坂本後掲書序章・第 1 章
第 2 回	文献講読：坂本後掲書 第 2 章・第 3 章	「宗教改革の社会思想」、「古典的『社会契約』思想の展開」
第 3 回	文献講読：坂本後掲書 第 4 章・第 5 章	「啓蒙思想と文明社会論の展開」、「ルソーの文明批判と人民主権論」
第 4 回	文献講読：坂本後掲書 第 6 章・第 7 章	「スミスにおける経済学の成立」、「『哲学的急進主義』の社会思想——保守から改革へ」
第 5 回	文献講読：坂本後掲書 第 8 章・第 9 章	「近代自由主義の批判と継承——後進国における『自由』」、「マルクスの資本主義批判」
第 6 回	文献講読：坂本後掲書 第 10 章・第 11 章	「J・S・ミルにおける文明社会論の再建」、「西欧文明の危機とヴェーバー」
第 7 回	文献講読：坂本後掲書 第 12 章・第 13 章・終章	「『全体主義』批判の社会思想——フランクフルト学派とケインズ、ハイエク」、「現代『リベラリズム』の諸潮流」、「社会思想の歴史から何を学ぶか」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂本達哉『社会思想の歴史——マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014 年）を文献講読のテキストとする。各章とも、社会思想家の思想内容が要領よく整理されていると同時に、まとめとしてその思想が「自由」と「公共」という概念にどのように結び付いているのかが提示されており、本科目の趣旨に相応しい文献と思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：新自由主義統治性の視座からの再定位（仮題）』（風行社、2023 年近刊）

「統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察」（『唯物論研究年誌』第 27 号、2022 年）

「『新自由主義ガバナンス』論による『地方創生』実施スキーム分析」（『唯物論研究年誌』第 23 号、2018 年）

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to understand the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public," by tracing the development of social thought since the modern era, and to cultivate students' ability to investigate contemporary public issues.

(Learning Objectives) The goals of this course are to develop an understanding of the fundamental concepts of public philosophy, namely "freedom" and "public" and their correlations, and to acquire the ability to investigate contemporary public issues based on this understanding.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20 %).

POL500A3

公共哲学研究2

宮川 裕二

備考（履修条件等）：公共政策学「公共哲学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策論の理論的な基礎をなす考え方を培うことを目指して設置されている科目の一つである。「自由」や「リベラリズム」の概念にかかわる文献の講読を行い、受講生が思想的なアプローチから公共そして公共政策にかかわる現代的な課題を把握し議論できる知見を涵養することを目的とする。

【到達目標】

自由やリベラリズムという思想と概念と「法の支配」や「民主主義」といった社会・政治システムとの関わりを理解し、受講生が公共そして公共政策にかかわる現代的な課題について理論的に考察・探究できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

受講生は分担して、指定された文献の箇所について要点と論点を整理して授業のはじめに報告し、教員のサジェストを交えつつ全体で議論と考察をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入的講義／文献講読	導入的講義、「法の支配」：中村後掲書第1章前半
第2回	文献講読：中村後掲書	「法の支配」第1章後半
第3回	文献講読：中村後掲書	「民主主義とリベラリズム」第2章前半
第4回	文献講読：中村後掲書	「民主主義とリベラリズム」第2章後半
第5回	文献講読：中村後掲書	「正義・善・幸福」第3章前半
第6回	文献講読：中村後掲書	「正義・善・幸福」第3章後半
第7回	文献講読：中村後掲書	『「自由」と「合理性」の限界とその後』の先へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は文献を準備学習し、授業の後は復習を行う。また報告（分担制）のためのレジュメ作成を含む準備と、授業の最終回に提示する期末レポートの作成を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

中村隆文『リベラリズムの系譜学』（みすず書房、2019年）を文献講読のテキストとする。思想的潮流や諸論点が要領よく整理され、専門書としては取りつきやすいものと思われる。

【参考書】

必要に応じて授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

レジュメによる報告（30%）及び期末レポート（50%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度授業改善アンケートの結果が得られていないためフィードバックできない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

公共政策の政治社会学

<研究テーマ>

新しい公共、ガバナンス、統治性研究、地方自治

<主要研究業績>

『日本の「新しい公共（空間）」政策言説：新自由主義統治性の視座からの再定位（仮題）』（風行社、2023年近刊）

『統治性研究を用いた現代日本の実証的研究に関する一考察』（『唯物論研究年誌』第27号、2022年）

『「新自由主義ガバナンス」論による『地方創生』実施スキーム分析』（『唯物論研究年誌』第23号、2018年）

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this course is to develop students' ability to understand and discuss contemporary issues related to the public and public policy from an ideological approach by reviewing literature on the concepts of "freedom/liberty" and "liberalism".

(Learning Objectives) The goals of this course are to understand the relationship between the ideas and concepts of "freedom/liberty" and "liberalism" and the social/political systems such as "rule of law" and "democracy", and to be able to theoretically consider and explore contemporary issues related to the public and public policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have read the relevant chapter from the text and review it after the class. In addition, students are expected to share in the preparation of in-class reports, and to write a term-end report to be presented at the end of the class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process; in-class report (30%), term-end report (50%), and in-class contribution(20 %).

POL500A3

コミュニティ論研究 1

淵元 初姫

備考（履修条件等）：公共政策学「市民社会とコミュニティ」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策研究科の「市民社会とコミュニティ」と政治学研究科の「コミュニティ論研究 1」との合併開講で、地域コミュニティに関する政策論を学ぶための科目の一つとして設置されている。本科目ではコミュニティ・レベルで展開している諸主体の公共的な動きを、事例研究を通じて考え、理論的な整理を行う。

日本では、合併によって失われた制度枠組を自治会・町内会が民間的に回復するという特異な経過を辿ったほか、民間（「市民社会」）側の多彩な営為が生活を支えてきたことを論じていく。

【到達目標】

日本のコミュニティの基礎的組織（自治会・町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員協議会、消防団など）や地域で活動する NPO などについて理解し、その現代的、日本的特徴を理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	福祉国家の変容とコミュニティ	福祉国家の形成と変容に伴い、人と人との「つながり」がどのように変化してきたのかを論ずる。
第 2 回	市民社会の概念史	日本人の市民社会意識を考えると、市民社会の概念史を確認する。
第 3 回	都市化とコミュニティ	都市の発展により、コミュニティにおけるネットワークがどのように変化したのかを考える。
第 4 回 前半	日本における自治会・町内会	自治会・町内会の基本的特質と歴史を論ずる。
第 4 回 後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、日本の自治会・町内会に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 5 回 前半	スコットランドの住民組織	スコットランドの地域評議会について説明する。
第 5 回 後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、各国の住民組織に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。
第 6 回 前半	コミュニティにおける「居場所」づくり	近年活発に取組まれているサロン活動、コミュニティ・カフェなどの事例を検討する。
第 6 回 後半	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティにおける居場所作りに関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

第 7 回 前半 コミュニティの「再生」

現代におけるコミュニティの「再生」について事例に基づいて検討を行う。

第 7 回 後半 受講者による課題報告

受講者が設定したテーマ（例えば、コミュニティの「再生」に関する論点など）について報告し、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

市民社会やコミュニティに対する受講生の分析視角が多様であり、その多様性を理解するためにも相互に議論する機会をより多く設けることが必要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
 <主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

Community governance in many countries has gone through great transformations in the last half century. The course seeks to provide an understanding of these changes in community policy and why they have come about. The course analyses the ideological and political factors which have shaped the development of civil society in industrial countries in the past and are shaping it in the present.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500A3

コミュニティ論研究2

西谷内 博美

備考（履修条件等）：公共政策学「コミュニティ制度論」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティとは、合併によって制度的枠組を失った身近な地域のまとまりである。という観点から、このコミュニティを再制度化する政策ないし制度を国際比較的に考察する。これによってコミュニティ政策というものについて基礎的な理解を得ることが目的である。

【到達目標】

・「参加」と「協働」、「地域的まとまり」や「都市内分権」といった概念を用いて、現実のさまざまなコミュニティの制度を比較分析することができる。

・コミュニティの制度について、それぞれの地域の歴史文化的特性を踏まえたうえで、制度の特徴や課題について考察し説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

同時双方型オンライン授業。授業の構成は受講者数に依存しますが、おおよそ、講義が2/3、受講生による課題発表が1/3を予定しています。講義は、think-pair-share等アクティブラーニングの手法を取り入れ、受講生の主体的な参加を促します。課題へのフィードバックは授業内で実施されます。すなわち、課題発表のさいに、発表された内容についてクラス全体で検討・議論をするなかで、課題の取り組みに対する量的・質的なフィードバックが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回前半	オリエンテーション	授業の内容と進め方を共有する。
第1回後半	コミュニティ制度論の視角	たとえば「参加」と「協働」といった、コミュニティの制度を分析するための本授業におけるキー概念を共有する。
第2回前半	日本におけるコミュニティの制度化	日本におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第2回後半	地域運営の条件	ミルトン・コトラーの地域運営の条件について学習する。
第3回前半	ドイツにおけるコミュニティの制度化	ドイツにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第3回後半	自治会・町内会論	日本の自治会・町内会に関して、民間原理の側面と、制度的な側面について考察する。
第4回前半	フランスにおけるコミュニティの制度化	フランスにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第4回後半	期末課題のためのライティング技法	期末レポートの課題を提示するとともに、英米型のライティングメソッドを共有する。
第5回前半	フィリピンにおけるコミュニティの制度化	フィリピンにおけるコミュニティの制度について概観し、考察する。
第5回後半	インドにおけるコミュニティの制度化I	インド農村部におけるコミュニティの制度について概観し、考察する。

第6回前半 スコットランドにおけるコミュニティの制度化

第6回後半 インドにおけるコミュニティの制度化II

第7回前半 期末課題計画の発表

第7回後半 日本におけるコミュニティ政策の展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を予習・復習し理解を深めてください。とりわけ第1回後半で実施するキー概念の共有は極めて重要です。また、各自、担当課題の報告準備（学習、調査、資料作成）をしてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

名和田是彦編, 2009, 『コミュニティの自治』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 35%、課題報告（レジュメ作成を含む）35%、授業内での討論・発言 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業の序盤で学ぶキー概念の共有が意外に難題です。中盤以降でも、事例分析を進めながら、必要に応じて何度でも丁寧に振り返ってキー概念を復習します。今年度は、その用途に見合うようにレジュメを改善いたします。

【学生が準備すべき機器他】

zoom の設備や環境。
 受講者数にもよりますが、たとえば10名以下の場合は、特別の事情がない限り、授業内でカメラと音声を常時ONにしたいだけとやりやすいです。
 その環境が揃わない場合は、大学構内からzoomに入室することもご検討ください。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>環境社会学、コミュニティ論、国際協力論
 <研究テーマ>廃棄物管理、開発と社会
 <主要研究業績>
 2018『白老における「アイヌ民族」の変容』東信堂。
 2016『開発援助の介入論』東信堂。
 2011『デリー準州のバギダリ（Bhagidari）政策』『国際開発研究』67-80。

【Outline (in English)】

I start in this lecture from the theoretical idea that the "community" in the context of Japanese policy making means the neighborhood unit which lost its institutional framework through the merge. I will analyze the history and the recent tendency of Japanese community policy, paying special attention to international comparison with those in European, American and Asian countries.
 The goals of this course are to A, B, and C.
 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
 Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end essay: 35%, in class presentation (including reporting regime): 35%, in class contribution: 30%.

POL500A3

公共政策研究 1

淵元 初姫

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学・連帯社会「政策学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、基礎的な知識と分析手法の習得を目指す、入門的な位置づけの科目である。学部までの段階で政治学を専攻していない受講生も想定し、政治学の基礎概念の習得ができるように配慮する。取りあげる主要な論点は、政策と政治過程の関係、政治的正統性と政策的合理性の関係、制度研究と政策研究の関係などである。

【到達目標】

政策研究一般の中で、政治学からのアプローチの特性を把握し、対象とする政策領域に対する適切な研究設問を立てることができるようになる。その上、学術論文の作成の際に、適切な文脈の中で活用することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究の基本的知識について整理します。受講者は、個人の研究関心に沿って課題を設定して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	政策に関する諸学問分野の中で政治学からのアプローチの特徴とは何か。あわせて政策に関する諸学問分野の中で、政治学の隣接諸学の基本的な特徴を整理する。
第2回	公共政策学の誕生前史	公共政策学の誕生についてそのルーツを探る。
第3回	公共政策学の成立	公共政策がアメリカで成立したことの背景を整理する。
第4回	公共政策学の発展	公共政策学の発展とその挫折について検討する。
第5回	公共政策学の変容	公共政策学の変容と、多様な政策科学のアプローチについて学ぶ。
第6回	公共政策の構成と特徴	公共政策の構成要素及び公共政策がもつ特徴について整理する。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、公共政策学の歴史に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	政策のライフ・ステージと政策過程	政策過程を段階に分けて整理する概念を検討する。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策段階論に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	政策過程における参加者	政策過程におけるアクターの役割について考える。

第11回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策過程におけるアクターに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第12回 政策をめぐる価値の対立 政策がめざすべき諸価値について検討し、それらの対立関係について考える。

第13回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策をめぐる価値の対立に関する論点など）について報告・質疑を行う。

第14回 まとめ 講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

公共政策学を理解するために、その歴史的な成り立ちを丁寧に説明することが重要であると思いました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
 <研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権<主要研究業績>
 「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田是彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社
 「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店
 「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

The overall aim of this course is to introduce students to a range of political theories and concepts used in the academic study of public policy, such as rationalism, incrementalism and institutionalism. The course aims to be accessible for those who have not studied politics before, and is suitable for students looking for a multi-disciplinary experience.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500A3

公共政策研究2

淵元 初姫

備考（履修条件等）：公共政策学「政策学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学からの政策研究へのアプローチについて、政策過程研究の方法論のうち、実証的な政策研究に必要なものを取りあげ、修士課程での研究の中で活用できるように、その特徴、適した分析対象、期待される分析結果などについて考察する。

【到達目標】

政策過程研究の主要な理論、枠組、モデルについて概要を把握し、研究テーマに応じた分析方法の的確な選択、応用ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による講義と受講者による課題報告とで構成します。講義では、政策研究一般におけるアプローチ方法について整理します。受講者は、個人の関心に沿って課題を設定し、政策研究の分析方法を応用して報告します。課題に対しては、授業中に参加者全員による質疑・議論を行い、講評を行うことによってフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	実証的な政策研究とは何か。また、なぜ政策の分析に理論・モデル・フレームワークを用いる必要があるのかを論じる。
第2回	政策研究のフレームワーク	政策研究における理論・モデル・フレームワークの概念を整理し、現代の政策研究の枠組みがどのように展開してきたかを振り返る。
第3回	政策研究におけるモデルの基礎1	アクターに着目したモデルについて学ぶ。
第4回	政策研究におけるモデルの基礎2	方法論に着目したモデルについて学ぶ。
第5回	政策決定における合理性と不確実性	合理性とは何か、合理的な意思決定は可能か検討する。
第6回	政策決定と制度・利益・アイデア	政策決定における3つの「I」について学ぶ。
第7回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、政策決定と3つの「I」に関する論点など）について報告・質疑を行う。
第8回	アリソンの3つのモデル	G. アリソンによる対外政策決定研究のための3つの概念レンズから学ぶ。
第9回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、アリソンの3つのモデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。
第10回	キングダンの政策の窓モデル	J. キングダンの政策の窓モデルから学ぶ。
第11回	受講者による課題報告	受講者が設定したテーマ（例えば、キングダンの政策の窓モデルに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第12回 政策とデータ 政策立案に際してその根拠となる政府統計について考える。

第13回 受講者による課題報告 受講者が設定したテーマ（例えば、政策とデータに関する論点など）について報告・質疑を行う。

第14回 まとめ 講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4時間を標準とします。事前に提示された文献等がある場合は予習を行い、授業の後は、その内容や資料等について復習を行ってください。課題報告のための準備と、授業の最終回に提出する期末レポートの作成を行う必要があります。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告（30%）及び期末レポート（40%）に加え、授業中の質疑や討論における発言（30%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による課題報告については、少しテーマを絞ったほうがよいかと考えました。受講生の皆さんと相談しながら工夫したいと思います。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、コミュニティ政策、福祉政策
<研究テーマ> ポスト福祉国家時代の市民社会論、地域社会における社会的包摂、英国・スコットランドの地方自治・自治体内分権
<主要研究業績>

「スコットランドの地域評議会－制度の基本的構想とその機能の実際」名和田見彦編（2009）『コミュニティの自治－自治体内分権と協働の国際比較』pp.81-118、日本評論社

「スコットランドにおける権限移譲とジェンダー・クォータ」三浦まり・衛藤幹子編著（2014）『ジェンダー・クォータ－世界の女性議員はなぜ増えたのか』pp.203-26、明石書店

「地域社会における社会的連帯の再編：居場所づくりにみる三人称的連帯の可能性」金安岩男・牧瀬稔編著（2019）『都市・地域政策研究の現在』pp.131-42、地域開発研究所

【Outline (in English)】

We now turn to more detail on how policies are actually made. The course will look at how policy agenda is set and how policy issues are constructed and framed. It will also explore how we can evaluate public policy. Important themes will include the role of ideas, institutions and interests in the policy-making process. The course will employ a number of case studies to give life to the theories and concepts explored.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Course presentation 30%, Short Essay 50%, Class contribution 20%

POL500A3

行政理論研究 1

南島 和久

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「政策評価論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990年代後半には日本の公的部門において評価がブームとなった。自治体では行政評価と呼ばれる手法が定着し、国では中央省庁等改革に伴い政策評価制度が導入された。しかし、そもそも政策評価が何であるのか、どのようにすればこれを活用できるのかといった点については、十分な議論が交わされてこなかった。本講義では、これら公的部門の評価のあり方について議論する。その際、歴史を踏まえつつ理論的な検討を行うとともに海外の取組との比較も視野に入れる。

【到達目標】

本科目では、政策評価論を構成する基礎概念を順次紹介する。これら基礎概念の理解を本科目の基礎的な到達目標とする。ポイントは以下の3点である。

- ①政策評価の類型に関する理解
政策分析、業績測定、プログラム評価の概念の理解
- ②政策評価の歴史に関する理解
PPBS、GAOのプログラム評価、GPRA/GPRAMAの史的展開
日本の政策評価の史的展開に関する理解
- ③政策評価の理論に関する理解
ロジックモデル、評価階層、アカウントビリティの理解
政策分析とプログラム評価、業績測定とプログラム評価の論争
政策評価にかかる実用主義と科学主義に関する論争など

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

オンラインにて行う予定である。授業は1回2コマで実施する。スケジュールは授業計画の内容をイメージしているが、各回のテーマは受講生の関心を考慮して変更することがある。テーマに沿った形での討論を交える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この科目について、成績評価の方法についてなど
第2回	政策の概念：公共政策学と評価学の政策のイメージの違い、ロジックモデルについて概説する。	政策の合理性、体系的性、循環性、ロジックモデル
第3回	評価の概念：政策分析、プログラム評価、業績測定の違いを概説する。	政策分析、プログラム評価、業績測定の違い
第4回	政策分析：政策分析に費便益分析、公共事業評価、規制影響分析について学ぶ。	費用便益分析、公共事業評価、規制評価

- 第5回 業績測定と自治体①：事務事業評価、総合計画の評価
自治体評価がどのように組み込まれてきたのか。三重県の事例も含めて概説する。
- 第6回 業績測定と自治体②：計画と評価、マニフェストと評価
自治体評価において用いられる必要性、有効性、効率性の規準を議論する。また、政治と評価について議論する。
- 第7回 業績測定と独立行政法人①：国の独立行政法人の評価とその課題について議論する。
- 第8回 業績測定と独立行政法人②：地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価
地方独立行政法人、公立大学の評価、公立病院の評価とその課題について議論する。
- 第9回 国の府省の評価①：中央省庁等改革と評価、総務省の政策評価制度の導入の経緯を詳細に議論する。政策評価法の構造にも触れる。
- 第10回 国の府省の評価②：府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
府省の自己評価、3つの評価方式、行政事業レビューと政策評価、EBPM
- 第11回 アメリカの評価①：アメリカの政策評価の歴史を概観する。
- 第12回 アメリカの評価②：アメリカの政策評価のうちGPRAの改革過程と論点を議論する。
- 第13回 評価理論①：評価類型を整理する。あわせて評価階層の理論について議論する。
- 第14回 評価理論②：評価に関する学説史について概要に触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

南島和久『政策評価の行政学：制度運用の理論と分析』晃洋書房、2020年。

【参考書】

今村都南雄・武藤博己・佐藤克廣・沼田良・南島和久『ホーンブック基礎行政学（第3版）』北樹出版、2015年。
石橋章市朗・佐野巨・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。
行政管理研究センター編『詳解・政策評価ガイドブック』ぎょうせい、2008年。
南島和久編『JAXAの研究開発と評価』晃洋書房、2020年。
馬場健・南島和久編『地方自治入門』法律文化社、2023年。
益田直子『アメリカ行政活動検査院』木鐸社、2010年。
松田憲忠・岡田浩編著『よくわかる政治過程』ミネルヴァ書房、2018年。
武藤博己編著『公共サービス改革の本質』、2014年。
広田照幸『組織としての大学』岩波書店、2013年。
山谷清志『政策評価の理論とその展開』晃洋書房、1997年。
山谷清志『政策評価の実践とその課題』萌書房、2006年。
山谷清志編著『公共部門の評価と管理』晃洋書房、2010年。
山谷清志『政策評価』ミネルヴァ書房、2012年。
山谷清志監修、大島巖、源由理子編著『プログラム評価ハンドブック』晃洋書房、2020年。
山谷清志編『政策と行政』晃洋書房、2021年。

【成績評価の方法と基準】

討論への参加（40％）、期末レポート（60％）

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回の講義にて案内します。万が一初回講義に欠席する場合には連絡してください。メールアドレスは、**najima ■ policy. ryukoku.ac.jp**（「■」は「@」に、ピリオドは半角にしてください。）

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>行政学、政策学

<研究テーマ>政策評価の制度運用

<主要研究業績>『政策評価の行政学』（単著、晃洋書房）、『英国の諸相』（編著、創成社）、『地方自治入門』（編著、法律文化社）、『協働型評価とNPO』（共著、晃洋書房）、『JAXAの研究開発と評価』（編著、晃洋書房）、『政策と行政』（共著、ミネルヴァ書房）、『プログラム評価ハンドブック』（共著、晃洋書房）、『公共政策学』（編著、ミネルヴァ書房）、『「それでも大学が必要」と言われるために』（共著、創成社）、『ホーンブック基礎行政学（第3版）』（編著、北樹出版）、『公共サービス改革の本質』（共著、敬文堂）、『東アジアの公務員制度』（共著、法大出版）、『組織としての大学』（共著、岩波書店）、『公共部門の評価と管理』（共著、晃洋書房）など

【Outline (in English)】

Since 1990's, policy evaluation system become a boom in the Japanese public sector. In the municipality, performance measurement has become established. In central government, a policy evaluation system was introduced to the ministries and agencies. However, sufficient debate has not been exchanged. We will conduct a theoretical study while considering the history, and also consider comparison with overseas initiatives.

POL500A3

政策学研究 1

土山 希美枝

備考（履修条件等）：公共政策学「政策過程研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。

都市型社会の構造と特質を知り、こんにちにいたるまで歴史的にどのような政策類型が蓄積されてきたかを理解し、政策主体と〈政策・制度〉のありかたを理解する。そのうえで、政策過程がどのように進むのかを学ぶ。

この講義を通じて、各自の研究対象とする政策分野を政策学からとらえるための視角を養うこととなる。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

- ・公共政策が展開される前提であるこんにちの社会構造（都市型社会）の特質を理解する
- ・歴史的に形成されてきた政策類型をふまへ
- ・公共政策の過程の基礎を学び
- ・各自の研究対象とする政策分野をとらえる政策学の視角を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

※初回開講時にはテキスト1章を読了して参加すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	の講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	講義「政治・政策と市民」	都市型社会における〈政策・制度〉と市民の関係を学ぶ（第1章）
第3回	都市型社会の特性	都市型社会と政策の特性を学ぶ（第2章）
第4回	都市型社会の成立	政策の歴史と類型を学ぶ（第3章）
第5回	政策の多元化	政府の三層化と政策（第4章）
第6回	日本と近代化	日本の政策を条件づける近代化を整理（第5章）
第7回	政策の主体	都市型社会における政策主体の多様化を学ぶ（第6章）
第8回	政策の資源：政治技術と政策手法	政治技術と政策手法を学ぶ（第7章）
第9回	政策の資源：政府と資源の調達	政策の資源とその調達、政府の機能の転換を学ぶ（第8章）
第10回	政策型思考の特質	政策型思考の特質と論理を学ぶ（第9章）
第11回	政治思考の特質	政治思考と〈決断〉の特質を学ぶ（第10章）
第12回	政策型思考と政策主体	政策型思考の「習熟」を学ぶ（第11章）
第13回	政策の決定	政策の決定とその過程（第12章）
第14回	総括	振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、配布資料、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『政策型思考と政治』東京大学出版会、1991年。

【参考書】

石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。石

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

講義中、また講義後にコメントを集め、その内容を反映させている。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Policies (and their systems) are the "foundation of life" for people living in today's society (urban-type society).

We'll learn the structure and characteristics of urban-type society, and understand the policy process.

It will develop your perspective for your research from the perspective of policy studies.

Learning Objectives;

- Understand the characteristics of today's social structure ('Urban-type Society'), which is the premise for public policy.
- Understand the policy types that have been formed historically.

- Understand the basics of the process of public policy and gain a policy studying' perspective.

Learning activities outside of classroom;

- Completion of textbook and related papers/books

Grading Criteria /Policy

- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)

- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500A3

政策学研究 2

鄭 智允

備考（履修条件等）：公共政策学「政策過程事例研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政策過程理論を応用して個別行政分野の政策を考察する。まず、『政策形成の過程：民主主義の公共性』を用いて基本的な理論を確認する。次に事例研究を通じて政策過程についての理解を深める。例えば、市町村合併、防災対策、廃棄物処理などの事例から、各々のアクターが制度の中でどのように責任を負い対応していくのか。また、既存制度の中でアクターが外部もしくは内部の環境要因によって政策をどのように形成・漸進させていくのかを分析する。この過程を通じて政策過程に関する理解を高める。

【到達目標】

既存の政策形成過程の理法を理解し、個々の政策過程事例を考察する中で政策過程の視点・考え方など、政策過程に関する幅広い知識を習得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。まず政策過程の全対象について、事例を用いて復習する。その後、参加者の報告順を決め、報告およびそれについて質疑・討論の方法を進める。また、リアクションペーパーにおける質問事項等に対しては、次回の授業で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1.2 回	ガイダンス	授業の概要を説明し、講義の狙いとテーマを確認する。受講生各自の研究テーマ・関心分野を紹介する。
第 3.4 回	政策過程とその主体について	政策過程の理論を確認する。政策過程に参加する主体とその行動について各政策段階で検討する。
第 5.6 回	政策と官僚、そして規制	官僚はなぜ規制したがるのか、その原因について考える。
第 7.8 回	政策事例① 市町村合併と公共施設の再編	市町村合併がもたらしたことについて、公共施設の統廃合問題から考察する。
第 9.10 回	政策事例② 大都市制度と行政区	政令指定都市を事例として行政区のあり方を考察する。
第 11.12 回	政策事例③ 自治体と廃棄物処理	自治体における廃棄物の処理と課題について考察する。
第 13.14 回	政策事例④ コロナ対策と課題	保健所を軸とするコロナ対策と課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

最初の授業で指示する。

【参考書】

C.E. リンドブロム、E.J. ウッドハウス著『政策形成の過程：民主主義と公共性』（東京大学出版会、2004 年）
ハーバート・カウフマン著『官僚はなぜ規制したがるのか』（勁草書房、2015 年）

松本三和夫『構造災』（岩波新書、2012 年）

その他、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業における積極的議論参加（60%）、レポート（40%）を判断して、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 行政学、地方自治、環境政策

<研究テーマ> 国策と地方自治

<主要研究業績>

「合併政令市の引力と遠心力浜松市行政区再編住民投票で問われた行革と自治区意識」『自治総研』2020 年（第 499 号 pp.86 - 122）

「土砂災害危険区域と行政改革による行政の撤退戦略—浜松市北区引佐町鎮玉地域を事例に一」『年報中部の経済と社会』2019 年（pp.69 - 80）

「指定廃棄物処理における自治のテリトリー」『自治総研』2019 年（第 489 号 pp.45 - 82）

「『自区内処理の原則』と広域処理」『自治総研』2014 年（第 428 号 pp.29-46、第 429 号 pp.45-65、第 430 号 pp.35-53）

「災害廃棄物の処理をめぐって」『月刊自治研』2012 年（第 637 号 pp.56-65）

「『漂着ごみ』に見る古くて新しい公共の問題」小原・寄本編著『新しい公共と自治の現場』コモンズ 2011 年（pp.202-216）

「廃棄物問題から考える合併・参加・住民組織の論点」『環境自治体白書 2008 年版』環境自治体会議編 2008 年（pp.40-52）

『市民参加・合意形成手法事例とその検証』（共著）市民がつくる政策調査会 2005 年

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge about policy process. First, we confirm the basic theory by using "Policy-Making Process" (Charles E. Lindblom and Edward J. Woodhouse 2004). Next, we will deepen our understanding of policy processes through case studies. We analyze what kind of responsibility is taken care of in the system and how the main actor forms and progresses policies by external or internal environmental factors in existing system. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 40%、in class contribution: 60%.

POL500A3

比較政治論 1

新川 敏光

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治経済学の主要理論を学ぶ。

【到達目標】

マルクスをはじめとする政治経済学の考えを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

文献講読。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 I	受講者と相談のうえ、決める。
第 2 回	文献講読 II	受講者と相談のうえ、決める。
第 3 回	文献講読 III	受講者と相談のうえ、決める。
第 4 回	文献講読 IV	受講者と相談のうえ、決める。
第 5 回	報告 I	聴講者の研究報告
第 6 回	文献講読 V	受講者と相談のうえ、決める。
第 7 回	文献講読 VI	受講者と相談のうえ、決める。
第 8 回	文献講読 VII	受講者と相談のうえ、決める。
第 9 回	文献講読 VIII	受講者と相談のうえ、決める。
第 10 回	報告 II	聴講者の研究報告
第 11 回	文献講読 IX	受講者と相談のうえ、決める。
第 12 回	文献講読 X	受講者と相談のうえ、決める。
第 13 回	文献講読 XI	受講者と相談のうえ、決める。
第 14 回	報告 III	聴講者の研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数のテキストを読むが、未定。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学

<研究テーマ> 福祉国家・日本政治・多文化主義

<主要研究業績>

『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）

『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）

『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline (in English)】

This course aims to understand major theories of political economy.

POL500A3

比較政治論 2

新川 敏光

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治経済学の主要理論を学ぶ。

【到達目標】

資本主義と民主主義の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

文献講読。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文献講読 I	受講者と相談のうえ決める。
第 2 回	文献講読 II	受講者と相談のうえ決める。
第 3 回	文献講読 III	受講者と相談のうえ決める。
第 4 回	文献講読 IV	受講者と相談のうえ決める。
第 5 回	報告 I	聴講者の研究報告
第 6 回	文献講読 V	受講者と相談のうえ決める。
第 7 回	文献講読 VI	受講者と相談のうえ決める。
第 8 回	文献講読 VII	受講者と相談のうえ決める。
第 9 回	文献講読 VIII	受講者と相談のうえ決める。
第 10 回	報告 II	聴講者の研究報告
第 11 回	文献講読 IX	受講者と相談のうえ決める。
第 12 回	文献講読 X	受講者と相談のうえ決める。
第 13 回	文献講読 XI	受講者と相談のうえ決める。
第 14 回	報告 III	聴講者の研究報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数のテキストを読むが、未定。

【参考書】

随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学

<研究テーマ> 福祉国家・日本政治・多文化主義

<主要研究業績>

『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房、2014）

『国民再統合の政治』（ナカニシヤ、2017）

『田中角栄』（ミネルヴァ書房、2018）

【Outline (in English)】

This course aims to understand major theories of the contemporary political economy.

POL500A3

連帯社会とサードセクター

伊丹謙太郎・柏木宏・禹宗杭

備考（履修条件等）：連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では連帯社会とは何か、それを担うサードセクター（労働組合、協同組合、NPO、社会的企業など）の役割は何かを学ぶ。

【到達目標】

連帯社会は、これまでの社会とはどこが違うのか、また連帯社会の構築と存続を担う主体であるサードセクターはどのような役割を果たし、どう協力しあうのかを理論的、実践的に学ぶことを目標とする。この授業を履修することによって、本インスティテュートの学生にふさわしい姿勢、知識を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は講師（専任、非常勤）および実践家による講義を行ったうえで、討論を行うという形で進める。

授業形式は対面授業を予定しているが状況次第でオンライン実施に変更される。なお、Zoom によるオンライン形式で行う場合は、Zoom の ID・パスワードについては、初回授業前に学習支援 システムに掲載する。

最終授業では、これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かについて、学生が各自報告する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	連帯社会とサードセクター	専任教員による問題提起
第 2 回	NPO 活動（1）、（2）	NPO の実践家による講義
第 3 回	労働組合の活動（1）、（2）	労働組合の実践家による講義
第 4 回	協同組合の活動（1）、（2）	協同組合の実践家による講義
第 5 回	共生と連帯の社会をデザインする	外部講師による特別講義
第 6 回	労働組合の活動（3）、（4）	労働組合の実践家による講義
第 7 回	NPO の活動（3）、（4）	NPO の実践家による講義
第 8 回	協同組合の活動（3）、（4）	協同組合の実践家による講義
第 9 回	フィールドスタディ	NPO を訪問し、実態を学ぶ
第 10 回	労働組合の活動（5）、（6）	労働組合の実践家による講義
第 11 回	協同組合の活動（5）、（6）	協同組合の実践家による講義
第 12 回	NPO の活動（5）、（6）	NPO の実践家による講義
第 13 回	労働組合の活動（7）、協同組合の活動（7）	労働組合の実践家、協同組合の実践家による講義
第 14 回	総括	これまでの授業を踏まえて、連帯社会の構築、存続のために何が必要かを各自が報告する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。「リポート」（最終報告書）の作成は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

特に指定しない。

随時、授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点が 60 %、授業への貢献が 20 %、最終報告 20 %。なお、平常点は、予習をしたうえで授業に出席しているかどうかで測り、授業への貢献は討議への積極的な参加で測る。最終報告は、提出されたレポートとその発表内容で判断する。

【学生の意見等からの気づき】

連帯社会、サードセクターの理論的枠組みを考察するとともに各分野における実践例を提示する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

非常勤講師、実践家に報告をしてもらうために、上記の授業計画を変更することがある。

【担当教員の専門分野等】

禹宗杭

<専門領域>労使関係論

<研究テーマ>労働組合の機能、労働組合の意義、労使関係の国際比較、労使関係のダイナミズム

<主要研究業績>

・『「現場力の再構築へー発言と効率の視点からー』（共編著）日本経済評論社、2014 ほか

伊丹謙太郎

<専攻>

協同組合論、公共哲学

<研究テーマ>

協同組合思想、協同組合運動史、デジタル経済と協同主義、

非営利組織連携論、賀川豊彦研究

<主要研究業績>

『協同組合 未来への選択』（共著）日本経済評論社、2014 ほか

柏木宏

<専門領域> NPO 論、地域社会論、市民社会ガバナンス論

<研究テーマ>社会的企業、社会的協働、NPO プラットフォーム

<主要研究業績>

・『みんなで考える広域複合災害』（共著）大阪公立大学共同出版会、2013 年

【Outline (in English)】

In this course, students learn the concept of solidarity-based society and the roles of third sector actors such as trade unions, co-operatives, NPOs, and social enterprises.

POL500A3

立法学研究 1

神崎 一郎

備考（履修条件等）：公共政策学・サステナビリティ学「立法学研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

我が国の法学は、もっぱら法解釈を中心に発展してきた。昭和 21 年に、既に末弘巖太郎博士は、法令立案の作業がもっぱら関係官僚の職業的な熟練によって行われているのみであって、立法者としての優れた能力とはいかなるものであり、その能力をどのようにして養成すればよいかといった問題についての科学的な考究が全くなされていらないことを指摘している。以降、様々な研究成果が蓄積されてきているが、本講義は、それらを踏まえ、「立法学」を体系化する作業を試みるものである。「立法」を政治評論的に見るにとどまるのではなく、法的視点（法学の基礎知識から立法における憲法・行政法上の比例原則まで）も含めて検討していきたい。

【授業目的】

我が国の国家作用を基礎付ける法律について、企画・制定から運用にいたるまでについて、立体的な知識を得るとともに思考の訓練をする。

【到達目標】

- ・我が国の立法について、企画立案段階から制定施行段階までの正確な知識を得る。
- ・上記のベースとなる法学についての基礎的知識を得る。
- ・法令の構造や政策目的達成手段に関する知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・なお、立法学や政策法務論の現状として、政治的分析や組織論的なものにとどまるものが多く見られる。本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

①本講義においては、立法過程の諸段階の分析にとどまらず、立法作業の際に依拠すべき「立法事実」、規制立法を設計する上での行政手法の選択、実際の立法作業の現場における思考などにも立ち入りたい。

②授業は、講義を中心とするが、必要に応じて、参加者の調査と発表、ディスカッションを組み合わせで行う。

③本講義の最大の特徴は、最後の 2 回に行う立法演習である。講義において会得した発想方法、ツールを用いて、与えられた課題に対し、合理的な法制度設計を行い、自分が設計した法制度について報告し、討議を行う。これに対する講評が学生へのフィードバックの位置付けになる。

※本講義は、原則として対面で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	立法学総論～立法学とは	1. 序論～立法学とは 2. 現代立法の状況と特質～我が国の法体系、法令の数、戦後日本の立法動向など

3-4	立法過程論①～国会提出前の企画立案段階	1. 内閣による法案提出プロセス 2. 政党内の意思決定システム 3. 議員立法のプロセスの特徴 4. 民主党政権下における立法過程の変容～ウエストミンスター・モデルとの比較
5-6	立法過程論②～国会審議段階	1. 国会審議過程の現状と課題 2. 内閣提出法案・議員提出法案それぞれの役割と課題 3. ねじれ国会下における立法傾向 4. ねじれ国会を経験して、ねじれ解消後に何が起きたか
7-10	法律とは何か	1. 「法律」とは何か～歴史的経緯から憲法 41 条の解釈まで 2. 現実の法律の傾向～個別特例法の増加など 3. 「法律事項」とは何か
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	立法を行う上で重要となる政策目的の設定と目的達成手段の選択について検討する（必要に応じて主要判例を検討する）。
13-14	立法演習	提示した事例について制度設計を行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
法制執務・法令用語研究会『条文の読み方 第 2 版』有斐閣（2021 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。

立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。

なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

コンパクトなものでよいので六法を持参することが望ましい（パソコン・タブレットでも対応可）。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）

②「『政策法務』試論～自治体と国のバララックス (1)(2)」（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）

③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Japanese jurisprudence has been developed mainly on the interpretation of laws. Already in 1946, Dr.Suehiro pointed out that the work of drafting laws and regulations is done only by the professional skills of the bureaucrats concerned, and that there has been no scientific study. In this lecture, we will try to systematize "Legislation Studies" based on the results of these studies.

Learning Objectives;

To acquire an accurate knowledge of Japanese legislation, from the planning stage to the enactment and enforcement stage.

To gain knowledge of the structure of laws and regulations and the means of achieving policy objectives, and to be able to design simple systems and draft articles.

Grading Criteria/Policy;

The class will consist mainly of lectures, but will also include a combination of research, presentations and discussions by the participants as necessary.

The most important feature of this course is the legislative exercise held in the last two sessions. Students will design a legal system for a given issue, using the ideas and tools they have acquired in the lectures, and report on and discuss the legal system they have designed. Participation in the legislative exercise is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures

POL500A3

自治体研究 1

土山 希美枝

備考（履修条件等）：公共政策学「地方自治論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、こんにちの社会（都市型社会）で生きるひとびとの「いとなみの基盤」である。

今日的意味での日本の地方自治制度は、1947年の日本国憲法・地方自治法の同時施行を起点とするが、地方自治の実態は、高度成長期の社会変動のなかで進む「自治体の政府化」によって展開していった。2000年地方分権改革は、この「自治体の政府化」を反映する大きな地方自治制度改革であった。しかし、2020年代の地方自治はなお、この制度改革を実態として生かしてきれていないように見える。

本講座は、2000年分権改革直前、また2020年間近の2つの地方自治・自治体論を読んで比較し、地方自治の今日的課題を検討する。

【到達目標】

この講義の到達目標は以下である。

・2000年分権改革における地方自治と自治体改革の到達点を理解する

・こんにちの地方自治と自治体の状況と課題を理解する

・高度成長期以降の歴史的文脈で地方自治をとらえる視線を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

テキストの読解と議論、考察により進行する。受講生はテキストの指定された章について分担して要点と論点をまとめ、教員が解説しながら議論と考察をすすめる。必要に応じて補足資料が提供される。報告、議論とそれらへのコメントによりフィードバックする。なお、原則として対面講義とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	この講義の目的、テキストの概説と進めかた、報告の分担など
第2回	高度成長期と「自治体の政府化」	テキストの理解の前提となる内容の講義
第3回	『自治体は変わるか』第1章	テキスト精読と解題
第4回	『自治体は変わるか』第2章	テキスト精読と解題
第5回	『自治体は変わるか』第3章、第4章	テキスト精読と解題
第6回	『自治体は変わるか』第5章	テキスト精読と解題
第7回	『自治体は変わるか』第6章	テキスト精読と解題
第8回	政『自治体は変わるか』第7章	テキスト精読と解題、テキスト全体の振り返り
第9回	『地方自治講義』はじめにと第1章	テキスト精読と解題
第10回	『地方自治講義』第2章	テキスト精読と解題
第11回	『地方自治講義』第3章	テキスト精読と解題
第12回	『地方自治講義』第4章	テキスト精読と解題

第13回 『地方自治講義』第5章 テキスト精読と解題

第14回 『地方自治講義』第6章 テキスト精読と解題、講義の総括章

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。テキスト、参考資料の精読を期待する。また、日頃から時事問題にたいする関心と良質な情報の収集に勤しむことを期待する。

【テキスト（教科書）】

松下圭一『自治体は変わるか』岩波書店、1999年。

今井照『地方自治講義』ちくま新書、2017年。

【参考書】

土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。
石橋章市朗・佐野亘・土山希美枝・南島和久『公共政策学』ミネルヴァ書房、2018年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：議論への参加（25%）、コメント（25%）の様子、授業の成果：授業内での報告（25%）、期末レポート（25%）の各評価により判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が科目の初年度であるため、反映すべき意見を受け取っていない。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉公共政策、地方自治、政治学

〈研究テーマ〉社会構造と政策・政治の変容、自治体政策、自治体議会議論。

〈主要研究業績〉『高度成長期「都市政策」の政治過程』日本評論社、2007年。『質問力でつくる政策議会』公人の友社、2017年。

【Outline (in English)】

Policy is the "foundation of Itonami" for people living in today's society (urban society).

Japanese local governance system of today starts with the simultaneous enforcement of the Constitution Law and the Local Autonomy Law in 1947. However, the actual development of local governance was started with social structure changing during the high-growth period, as "governmentalization of municipality".

The 2000 decentralization reform was a major reform of the local governance system that reflected this "governmentalization of municipality". However, local government in the 2020s still does not seem to make full use of this institutional reform.

In this lecture, we will read and compare the two textbooks of local autonomy / local government theories just before the 2000 decentralization reform and the 2020s. It'll show us the current issues of local governance.

Learning Objectives;

- Understand the goals of local governance/government reform in 2000 decentralization reform

- Understand the situation and issues of today's local autonomy and local governments

- Cultivate a perspective to understand local governance in the historical context of the high-growth period and beyond

Learning activities outside of classroom;

- Completion of textbook and related papers/books

Grading Criteria /Policy;

- Participation 50% (discussion 25%, Presentation 25%)

- Achievement 50% (report on presentation 25%, the final report 25%)

POL500A3

公務員制度研究

森谷 明浩

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治主導、官邸主導の下における政官関係の在り方が議論される今日の状況も踏まえつつ、日本の国家公務員制度について、国際比較（英米独仏）なども織り交ぜながら、その内容及び実態について考察する。

【到達目標】

日本の国家公務員制度の具体的内容及び制度の背景にある事情について理解を深めるとともに、国際比較の中における日本の国家公務員制度の特色などについても考察する。これらを踏まえ、今後の国家公務員制度の在るべき姿について自ら考える能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は対面で行う。まず、日本の国家公務員制度の成り立ち、全体像について概観する。その上で、採用や昇任、人事評価の仕組み、給与制度の概要などいくつかの主要分野に関する現行制度や運用状況などについて説明するとともに、そのような制度設計に至った背景事情などの解説も行う。その中で、国際比較における日本の特色や近年の公務員制度改革の動向などについても言及していく。

各回の授業の前半では、教員がその回に取り上げる分野について解説を行い、後半では学生が取り上げたい個別のテーマを選んで、自らが考える問題点や今後考え得る方策などについて自由討議を行い、学生が今後更なる研究を進めるに当たっての視座を提供していくことを主眼とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・第2回	公務員制度の全体像及び成立過程	日本の公務員制度の全体像を示すとともに、国家公務員法の成立過程について学習する。
第3回・第4回	採用、昇進、人事評価	国家公務員の採用、昇進、人事評価について考えるほか、諸外国の幹部職員の任用などについても学習する。
第5回・第6回	給与	国家公務員の給与体系全般を説明するとともに、給与の決定過程について、諸外国との比較も交えながら学習する。
第7回・第8回	身分保障、服務・倫理・懲戒、公平審査	国家公務員の身分保障、服務・倫理や懲戒制度、不利益処分の救済制度である公平審査の仕組みなどについて学習する。
第9回・第10回	退職管理、高齢期雇用、研修	国家公務員の再就職に関わる問題をはじめとする退職管理の状況、高齢期の職員の活用の在り方（定年年齢の引上げなど）、研修制度について学習する。
第11回・第12回	勤務環境、非常勤職員制度	ワーク・ライフ・バランスの確保のための勤務環境関連の制度や非常勤職員制度について学習する。

第13回 公務員制度改革の動向 1990年代以降の公務員制度改革の動向を概観し、最後のまとめとして、今後の公務員制度の課題について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

村松岐夫編著「公務員人事改革—最新米・英・独・仏の動向を踏まえて—」（2018年学陽書房）
 村松岐夫編著「最新公務員制度改革」（2012年学陽書房）
 西尾勝著「行政学 [新版]」（2001年有斐閣）
 西尾隆著「公務員制」（行政学叢書⑩）（2018年東京大学出版会）
 森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（2015年学陽書房）
 人事院HP <https://www.jinji.go.jp/>
 内閣官房内閣人事局HP <https://www.cas.go.jp/jp/gaiyou/jimu/jinjikyoku/index.html>
 内閣官房（旧）国家公務員制度改革推進本部HP <https://www.gyokaku.go.jp/koumuin/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（毎回の授業において、その回における課題を理解して自らの理解の上に立って議論に貢献しているか）

小論文（レポート） 50%（自ら選択する課題について考察を行った小論文）

【学生の意見等からの気づき】

学生自らが問題点を発見し考察を深めることができるようになります。

【その他の重要事項】

中央人事行政機関である人事院に在職し、国家公務員の人事行政の制度及びその運用を実際に担当している。さらに内閣人事局などへの出向経験を通じ、人事院以外の角度からも人事行政に関わってきている。

これらを通じた経験や知見を紹介し、近年の公務員制度の動向や将来の在るべき公務員像などについても幅広く議論していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 公務員制度

<研究テーマ> 近年における我が国の公務員制度の動向

<主要研究業績>

森園幸男ほか編「逐条国家公務員法全訂版」（2015年学陽書房）（共著）

吉田耕三編著「公務員給与法精義第五次全訂版」（2018年学陽書房）（共著）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Japanese civil service system including international comparison(U.K.,U.S.A.,Germany and France).

This course deals with detailed explanation of the Japanese civil system and its actual implementation.

Your overall grade in this course will be decided based on the following

Short reports: 50%,In-class contribution: 50%

POL500A3

雇用・労働政策研究

濱口 桂一郎

備考（履修条件等）：公共政策学・連帯社会「雇用労働政策研究」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公労使三者構成の審議会において労使団体と政府（厚生労働省）の間で行われる対立と妥協のメカニズムを中心に、その延長戦としての国会における審議や修正も含め、具体的な労働立法の政策決定過程を跡づける形で、労働法制の内容を説明する。いわば、完成品としての労働法ではなく、製造過程に着目した労働法の講義である。

【到達目標】

現代日本におけるさまざまな雇用労働問題を、表層的なマスコミ報道等に踊らされることなく、雇用システムと労働法制の複雑な関係を踏まえて理解し、説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン授業を予定している。

各コマとも、前半は下記テキスト（『日本の労働法政策』）に沿って概略の説明を行い、後半はそれに基づきフリーディスカッションとする。

あらかじめテキストを読んできたことを前提に、毎回のトピックについて各自の職業経験に基づく意見を尋ねることがあるので、各自用意しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	イントロダクション、労働力需給調整システム、労働市場のセーフティネット	全体の概観、労働者派遣事業と職業紹介事業、雇用保険、生活保護、求職者支援制など
第 3.4 回	雇用政策の諸相、高齢者・障害者の雇用就業政策	雇用政策思想、外国人雇用対策、高齢者、障害者など
第 5.6 回	職業教育訓練政策、労働基準監督システム、労災保険、労働安全衛生政策	職業訓練、職業教育、若年者、過労死・過労自殺、過重労働・メンタルヘルス・受動喫煙など
第 7.8 回	労働時間政策、賃金処遇政策	時間外・休日労働、年休、裁量労働制、最低賃金など
第 9.10 回	賃金処遇政策、労働契約政策	非正規均等待遇、解雇規制、有期契約、労働条件変更、フリーランスなど
第 11.12 回	男女平等政策、ワークライフバランス、ハラ・セクハラ	男女平等、育児・介護休業、セクハラ・パワハラなど
第 13.14 回	集団的労使関係システム	労働組合、労使協議制、個別労使紛争など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『日本の労働法政策』労働政策研究・研修機構（2018 年）

なお、刊行から若干時間が経っているため、アップデートした PDF ファイルを受講者に配布する予定。

【参考書】

濱口桂一郎『新しい労働社会』岩波新書（2009 年）

濱口桂一郎『日本の雇用と労働法』日経文庫（2011 年）

濱口桂一郎『若者と労働』中公新書ラクレ（2013 年）

濱口桂一郎『日本の雇用と中高年』ちくま新書（2014 年）

濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書（2015 年）

濱口桂一郎・海老原嗣生『働き方改革の世界史』ちくま新書（2020 年）

濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か』岩波新書（2021 年）

なお、関連する論文等が講師ホームページにアップされているので、適宜読むこと。

<http://hamachan.on.coocan.jp/>

【成績評価の方法と基準】

参加人数にもよるが、今のところレポート作成を予定している。

レポートの提出先は、次の講師メールアドレスとする。

SGB00231@nifty.com

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

< 専門領域 >

労働法政策

< 研究テーマ >

日本と EU の労働法政策、日本の個別労働紛争の分析

< 主要研究業績 >

『EU の労働法政策』、『日本の労働法政策』、『日本の雇用終了』、『日本の雇用紛争』、『団結と参加』（いずれも労働政策研究・研修機構）

【Outline (in English)】

It is not a lecture on labor law as a finished product, but one on labor law focusing on the manufacturing process.

The goal of this course is to explain the contents of labor legislation in such a way as to trace the decision making process.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

: Grading will be decided based on short reports.

POL500A3

政策法務論

神崎 一郎

備考（履修条件等）：公共政策学、サステナビリティ学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

特に 2000 年の第一次分権改革以降、自治体の法務担当者を中心に、「政策法務」ということが唱えられてきた。しかしながら、国の中央官庁の法務担当者の中で「政策法務」という言葉は一般的ではない。この差に着目し、自治体政策法務について解き明かしつつ、自治体法務が直面する問題点等を検討する。

【授業目的】

現在の自治体法務が直面している問題点を検討するとともに、条例論を学ぶ。

【到達目標】

- ・自治体政策法務のイメージをつかむ。
- ・条例案立案のポイントをつかむ。
- ・条例に関する基礎的な知識を得、簡単な制度設計・条文作成を行うことができるようになる。
- ・本講義では、法律による行政の原則にのっとり、すべての立法面、行政面における事象には条文の根拠があるという発想に立ち、逐一、条文の根拠に立ち戻って考察していきたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

①本講義においては、自治体法務を全般的に取り扱うが、中心は条例論となる。

②授業は、講義を中心とするが、立法演習の回については、参加者をいくつかのグループに分け、グループ内で議論しつつ、与えられた条件において、与えられた政策目的を達成するための行政規制システムを設計し、発表・議論を行う。

③本講義の最後の 2 回を立法演習（条例演習）に当てる。立法演習が、講義内容の総まとめとなる。立法演習において、提示した事例を解決するための制度設計をしてもらい、各学生が報告する。報告に対する講評が学生へのフィードバックとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1-2	政策法務論総論	1. はじめに～「政策法務」とは？ 2. 自治体法務の歴史～戦前から戦後の連続性、第一次分権改革前の自治体法務の実情、自治体の立法技術の課題など
3-4	憲法第八章（地方自治）をめぐる日本政府と GHQ の攻防	1. GHQ 民政局内における条文の変遷とその意味するところ～ホームルール制とチャーター 2. 日本側草案の起草～民政局案との対比 3. チャーター制定権の変貌
5-6	基本法・基本条例について～特に、自治基本条例を中心に	1. 基本法・基本条例の法規規範的品格の稀薄性 2. 法体系上の位置づけ 3. 自治基本条例の意義 4. 民主的契機としての住民投票 5. 議会基本条例の意義

7-8	条例論	1. 条例の定義 2. 条例の類型 3. 法律と条例の関係～徳島市公安条例事件最高裁判決の基準とそのあてはめ
9-10	立法事実と比例原則	1. 分権改革前の判例 2. 比例原則 3. 分権改革後の判例 4. 違憲審査基準論と合理性の基準 5. 合理性を基礎づけるものとしての立法事実
11-12	政策目的の設定と目的達成手段の選択	政策法務にとって重要な「政策目的の設定」と「目的達成手段の選択」について検討する。
13-14	条例案立法演習	提示した事例について制度設計・条文作成まで行う（演習形式）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配付資料又は文献を読むこと。

【テキスト（教科書）】

講義録を配付する予定である。

【参考書】

大森政輔・鎌田薫編『立法学講義（補遺）』商事法務（2011 年）
神崎一郎『「政策法務」試論～自治体と国のパララックス (1)(2)』（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %・立法演習 40 %・報告 30 %。
立法演習は、演習に参加した上で、自分の成果物の発表・他の学生との議論を評価する。自らの設計した法制度の合理性をいかに説得力をもって発表できるか、自らの成果物を踏まえて他の学生の成果物に対する批判や評価を合理的に行うことができるかが評価のポイントである（「授業の到達目標」の 2 点目）。本講義の成績評価に当たり、立法演習への参加は必須である。
なお、随時、指定した課題について事前に検討し、講義において報告する機会を設ける（「授業の到達目標」の 3 点目）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>立法学

<研究テーマ>立法過程論・自治体政策法務論・条例論

<主要研究業績>

- ①「法律と条例の関係における『比例原則』『合理性の基準』『立法事実』」（自治研究 2009 年 8 月・第一法規）
- ②『「政策法務」試論～自治体と国のパララックス (1)(2)』（自治研究 2009 年 2 月・3 月・第一法規）
- ③「地方議会の立法機関性—議会による立法事実の構築・審査の視点から」北村喜宣ほか編集『鈴木庸夫先生古稀記念・自治体政策法務の理論と課題別実践』第一法規（2017 年）
- ④「基本法と基本条例」自治実務セミナー 2018 年 3 月号

【Outline (in English)】

Course outline;

Since the first decentralisation reform in 2000, the term "policy legal affairs" has been advocated mainly by those in charge of legal affairs in local governments. However, this term is not commonly used among legal staff in the central government. We will focus on this difference, and examine the problems faced by municipal legal affairs, while clarifying the concept of policy legal affairs.

Learning Objectives;

To get an idea of "policy legal affairs".

To understand the key points of drafting ordinances.

Grading Criteria/Policy;

The classes are mainly lectures, but for the Legislative Exercise sessions, the participants are divided into several groups, and while discussing within the groups, design an administrative and regulatory system, and present and discuss the results.

Participation in the Legislative Exercise Sessions is mandatory for the evaluation of this lecture.

From time to time, students will be given the opportunity to discuss the assigned topics in advance and report on them in the lectures.

POL500A3

防災危機管理研究

鍵屋 一

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東日本大震災の発生以後、国土強靱化など防災対策の重要性が叫ばれている。そして、災害には大地震、風水害、火山など自然災害、原子力災害など大規模な事故、テロなど人為的災害など多様に存在する。現代は危機の時代であり、防災危機管理は、市民、行政、団体、企業にとって避けて通れないテーマとなっている。本授業は、大学院生が防災危機管理に強い人材になるよう支援する。

【到達目標】

- ①日本の国・自治体の防災危機管理の現状と課題を理解する。
- ②現状の政策と被害軽減の具体例を研究する。
- ③今後の国・自治体の防災危機管理政策のあるべき姿を研究する。
- ④大学院生自身の危機対応力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業

授業では、自然災害を中心に防災対策の現状と課題を理解し、現実的な解決政策を研究する。その際、わが国の防災文化、法制度、行政構造、市民意識を念頭において政策的アプローチを重視した講義を行う。

また、ワークショップ形式も併用し、自らの頭で考え、仲間や講師と議論することで、より深い理解につながるように努めていく。

授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後であってもメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回・2回	ガイダンス及び国・自治体の防災危機管理政策の概観	講師の自己紹介、防災危機管理の講義の狙い、概要の説明。PPTおよび中央防災会議資料を使用して国、自治体の防災危機管理政策の全体像を説明する。
第3回・4回	大災害時の市民、行政の活動	阪神淡路大震災時の対応をした行政職員の生々しい記録を読む。その後、グループワークでKJ法を使用しながら大災害の市民、行政の行動の実態を理解し、課題を抽出する。
第5回・6回	地震防災と耐震化	地震防災の最重要課題である耐震化の政策の変遷について解説する。現在の、専門家や地域の取り組みを紹介しながら、今後の推進方策を検討する。
第7回・8回	災害時の要配慮者支援	高齢者や障害者は、災害時には特別な支援が必要である。事前にどのような準備が必要かを説明し、それが日常生活の延長上にあり、また地域コミュニティの絆を高めた事例を検討する。

第9回・防災教育、ボランティア
10回 ア

東日本大震災では、防災教育に取り組んだ岩手県沿岸地域の子どもの生存率が極めて高かった。防災教育の内容と効果を考える。また被災地においてボランティアの存在感が高まっている。ボランティアがどのように進化したかを議論する。

第11回 地域防災計画、防災条例・12回 例、政策評価
回

東日本大震災を受けて地域防災計画の見直しが進んでいる。その具体例を検討する。また防災条例の制定過程とその効果について議論する。防災の政策評価のあり方と活用について検討する。

第13回 企業、行政等の事業継続
回・14回 続（BC）
回

企業や行政等は災害時に災害対応だけでなく、自らの事業を継続していかなければならない。その計画がBCPであり、その内容と効果について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

防災政策は生きているものであり、最新の状況を把握することが重要である。内閣府「防災情報のページ」「防災白書」を事前に見ておいていただきたい。

また、ボランティアなどの活動体験があれば望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業では、PPTや論文を使用するが、その資料を毎回配付する。

【参考書】

鍵屋一「地域防災力強化宣言」ぎょうせい・2005年

鍵屋一「よくわかる自治体の地域防災・危機管理」学陽書房・2019年
令和4年「防災白書」

【成績評価の方法と基準】

質疑への参加 70%（講義中の質疑、意見表明などを積極的に行ったものを高く評価する）

リアクションペーパー等 30%

【学生の意見等からの気づき】

実務体験が評価されているので、今後もリアリティある講義を行いたい。また、学生と積極的に議論していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

地域防災、危機管理

<研究テーマ>

防災危機管理政策、建築物の耐震化、災害時要援護者支援、防災教育、人材育成、事業継続（BCP）

<主要研究業績>

・『都市災害を生き残る』『現代用語の基礎知識 2009』2008年、自由国民社

・『ひな型でつくる福祉防災計画』（共著）2020年、東京都福祉保健財団

・『地域防災力強化宣言』2005年、ぎょうせい

【Outline (in English)】

(Course outline) The modern age is an age of crisis, and disaster risk management has become an unavoidable theme for citizens, governments, organizations, and businesses.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help graduate students to become strong in disaster prevention and crisis management.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30%, in class contribution: 70%

POL500A3

ジェンダー政治研究2

中野 洋恵

備考（履修条件等）：公共政策学「ジェンダー政策研究」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ジェンダーの視点から政策について考察することを目的とする。1999年に男女共同参画社会基本法が施行されてから様々な分野でジェンダー政策が進められている。しかしGGGI（グローバルジェンダーギャップ指数）で比較すると日本の順位は100位以下が続いている。2022年7月に発表されたランキングは146ヶ国中116位である。政府が出している骨太方針でも男女の賃金格差の是正が課題となっている。また「異次元の少子化対策」も進められ、LGBTQなど多様性に関する議論も進んでいる。本講義では、現在の日本のジェンダー政策の現状と課題を把握し、その要因を分析した上で課題解決の方策についてディスカッションを行う。ディスカッションを通じて考えたことを振り返り、ジェンダー政策の理解を深めるとともに今後を展望する。

【到達目標】

- ・21世紀の我が国社会を決定する最重要課題と位置づけられた男女共同参画社会を実現するための基本法である「男女共同参画基本法」と基本法に基づいて5年ごとに定められる「男女共同参画基本計画」について理解する。
- ・2020年12月に策定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている視点、「あらゆる分野における女性の活躍」、「安全・安心な暮らしの実現」、「男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備」、「推進体制の整備・強化」について理解する。
- ・現在の政策を理解した上で、国際的な動向も踏まえディスカッションにおいて課題を把握し、今後必要とされる改善策を提案する。特に今年度は「多様性」「異次元の少子化対策」についても言及する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進める。課題ごとのレポートを提出する。提出されたレポートをもとにプレゼンテーションとディスカッションで理解を深める。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定である。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本授業の目的、進め方を説明する

- | | | |
|-----|-----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第2回 | 国内外の男女共同参画に関する動向を理解する | ○第2次世界大戦以降の国際社会の動き
国連女性の地位委員会（CSW）、女子差別撤廃条約（CEDAW）国際婦人年（1975年）以降の世界女性会議 持続可能な開発目標（SDGs）世界経済フォーラムが発表するGGGIなどから国際社会の変遷を捉える。
○国内の動向
1975年に総理府に設置された婦人問題企画推進本部、女子差別撤廃条約の批准、国内行動計画、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律、女性の職業生活における活躍推進に関する法律、政治分野における男女共同参画の推進に関する法律などから国内の変遷を捉える。
1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つ分野を選んで報告し議論する。 |
| 第3回 | 女共同参画基本法と男女共同参画基本計画① | 1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つ分野を選んで報告し議論する。 |
| 第4回 | 女共同参画基本法と男女共同参画基本計画② | 1999年に施行された「男女共同参画基本法」の基本理念を理解するとともに、2020年12月に策定された第5次男女共同参画基本計画の12分野のうち一つ分野を選んで報告し議論する。 |
| 第5回 | ワーク・ライフ・バランス 働き方改革① | 勤続年数を重視しがちな年功序列的な処遇、長時間労働や転勤が当然というこれまでの男性中心の働き方を前提とする労働慣行（男性中心型労働慣行）について考える。
また、いわゆる女性のM字カーブ問題等がいまだに解決しない要因を考える。 |
| 第6回 | ワーク・ライフ・バランス 働き方改革② | 女性も男性もワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を実現するためにはどのような解決策があるのか、実態や政策を踏まえて議論する。特に現在政策的課題として関心が高まっている男性の育児休業についても検討する。 |
| 第7回 | 女性の活躍推進 | 003年、男女共同参画推進本部は「社会のあらゆる分野において2020年までに、指導的地位に占める女性の割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する（202030）」との目標を設定した。その後の動向を踏まえて、クオータ制やポジティブアクションについて議論する。 |
| 第8回 | 女性に対する暴力① | 重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイブドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。 |

- 第9回 女性に対する暴力② 重大な人権侵害である女性に対する暴力、性暴力について考える。配偶者等からの暴力、ストーカーなどに加えて、最近ではデートDV、デートレイブドラッグ、JKビジネス、AV出演強要など問題が多様化している。こうした状況を踏まえ、暴力の根絶を図るための方策について議論する。
- 第10回 教育・メディア① 男女共同参画を推進し多様な選択を可能にするために学校教育はどうすればいいのか、教育現場をジェンダーの視点で見たときの課題を捉える。理工系を選択する女子学生が少なく研究者、技術者の女性割合が少ない状況を踏まえ、女子学生・生徒の理工系分野の選択促進及び理工系人材の育成のための方策を考える。また学校現場の管理職の女性割合が少ない要因についても考える。
- 第11回 教育・メディア② 意識形成にメディアの与える影響は大きい。メディアの中で女性がどのように描かれているかについて広報媒体や映像を見ながら分析し、性別役割分担意識の解消のための広報・啓発のあり方について議論する。
- 第12回 新たな課題①－自然災害やコロナなどのリスクに対応するジェンダー政策 東日本大震災等の経験から、性別、年齢や障害の有無等社会的立場によって影響が異なることが明らかにされたことから女性と男性で災害から受ける影響に配慮し、ジェンダーの視点から防災復興体制を確立することが求められている。何が問題だったのかを踏まえ、解決の方策について議論する。
- 第13回 新たな課題②－多様性に対応するジェンダー政策 選択的夫婦別姓や同性結婚、LGBTQをどのように考えるかが政策的な課題となっている。どのような政策的議論が進んでいるのか、どのような方向性を考えればいいのかを議論する。
- 第14回 ジェンダーと政治 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている。特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
- <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
・内閣府男女局 理工チャレンジ (リコチャレ)
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館
<https://www.nwec.jp/research/hqtuvq000002ko2.html>
- 【成績評価の方法と基準】**
授業参加 (ディスカッションでの発言) と課題ペーパーの提出 (40%) レポート (60%)
- 【学生の意見等からの気づき】**
多様な生活経験を持つ受講生がいるので、それぞれの経験を共有することによって、ディスカッションの充実を目指す。
- 【担当教員の専門分野等】**
＜専門領域＞ジェンダー論
＜研究テーマ＞ジェンダーと家族
ジェンダーと教育・学習
＜主要研究業績＞
「教育と学習」『男女共同参画データブック 2015』男女共同参画統計研究会編 ぎょうせい 2015
『国際比較にみる再開の家族と子育て』(編著) ミネルヴァ書房 2010
- 【Outline (in English)】**
Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.
Course outline
This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.
Learning Objectives
The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.
Lecture/Exercise (two-credits)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Grading Criteria /Policies
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

・第5次男女共同参画基本計画

http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html

・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて

<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>

・女性に対する暴力

若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html

NWEC 実践研究第9号「ジェンダーに基づく暴力」

・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト

http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html

・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ

POL500A3

自治体福祉政策論

鏡 論

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会保障給付費は100兆円を超えている。国の予算においては、社会保障関係費として一般会計の4割近くを支弁している。自治体において、介護保険制度や高齢者福祉制度の運営が課題となっている。高齢者の生活を支える自治体政策を通して、これからの更なる高齢社会に向かう人々の暮らしに、どのような給付と負担の関係を構築する必要があるのかを考える。

今日の社会保障制度改革においては、給付の縮減を是とした改正が続いているが、安心できる暮らしを維持していく事が可能かを議論する。財源負担の在り方や世代間の給付と負担のバランス等を学ぶ。

【到達目標】

2000年に制度化された介護保険は、今や10兆円を超える規模の給付となり、この後もさらに拡大を続けようとしている。この介護保険制度を中心とした社会保障における給付と負担の形について研究をして、政策の在り方を理解する。

キーワードは次の通り。

- ・介護保険制度の課題と市町村対応
- ・地域包括ケアの課題
- ・介護予防日常生活支援事業の可能性
- ・介護と医療の連携の課題
- ・判断能力を欠く状況になった場合の意思決定
- ・成年後見制度の効果と課題

上記それぞれの項目について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業はリモート方式で実施する。また、次の各項目等について講義と院生の発表により研究する。

授業における質問やレポートにかかる解説は、質問等があった次の回の授業で対応する。

さらに、映像資料を用いた分かり易い説明を行う。

各項目については、以下の通り。

- ・日本の将来予測から社会保障のあり方について
- ・介護保険制度創設と自治体高齢者福祉行政の変化の理解
- ・措置制度から契約への変化が意味するものの理解
- ・2006年・2012年・2015年・2018年制度改正の課題
- ・介護予防と地域支援事業の課題把握
- ・在宅医療と地域包括ケアの機能と役割の理解
- ・一人暮らし高齢者・認知症高齢者支援の実態把握
- ・意思能力のない人の医療同意についての問題提起

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1.2 回	オリエンテーション	(1) 社会変化と社会保障 (2) 自治体福祉政策の必然性
第 2.1 回	& 高齢者をとりまく諸情報の整理と社会保障	(3) 2020年介護保険改正後の議論 ・自治体福祉政策

第 3.4 回 介護保険制度 (1) ☆介護保険制度の理念と課題 (介護保険によって自治体福祉政策がどのように変わったか)

発表 A
(1) 措置から契約へ
(2) 介護の社会化
(3) サービスの質の担保と効率 (民間サービスの参入と課題・ケアマネジメントの課題)
(4) 介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画の策定
(5) 給付と負担・保険料決定の仕組み

第 5.6 回 介護保険制度 (2) ☆介護保険改正のめざしたもの (介護保険における給付と負担)

発表 B
(1) 介護保険と地方分権 (三位一体改革の影響)
(2) 介護予防・日常生活支援総合事業とは何か (地域支援事業創設)
(3) 崩れた給付と負担のバランス
(4) 自立支援介護とは何か

第 7.8 回 介護保険制度 (3) ☆地域包括支援センターと介護予防の政策的効果

発表 C
(1) 地域包括支援センターの創設
(2) 地域包括ケアとは何か
(3) 介護予防・日常生活支援総合事業の課題
(4) 医療との連携の形
(5) 地域の見守りネットワーク

第 9.10 回 介護保険制度 (4) ☆介護サービス事業の現状と課題 (介護保険外の高齢者ケアの課題は何か・地域ネットワークについて)

発表 D
(1) 高齢者虐待・介護放棄
(2) 独居の認知症高齢者
(3) 生活支援の難しさ
(4) 精神疾患者の支援

第 11.12 回 介護保険制度 (5) ☆施設サービスと地域密着サービス (在宅と施設高齢者サービスの選択)

発表 E
(1) 高齢者福祉施設の種類と目的
(2) 特養を利用する人とは
(3) ユニット個室化の課題
(4) 地域密着サービスとは
(5) 住んでみたい施設づくり

第 13.14 回 高齢者ケア ☆判断能力を欠く状況における権利擁護 (介護保険外の高齢者ケアの課題と地域ネットワークについて)

発表 F
(1) 成年後見制度の概要
(2) 成年後見制度利用支援事業・生活支援事業 (旧地域福祉権利擁護制度)
(3) 市民後見制度の課題
(4) 任意後見制度と法人後見
(5) 判断能力を欠く者の医療侵襲行為の阻却事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。内容としては、テキストを読み問題をまとめる。事後学習は、授業の内容から質問をまとめ、次回の授業時に質問をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は、「介護保険制度の強さと脆さ」、鏡論編著、公人の友社刊、2017年4月発行、定価2600円+税を使用する。さらに適宜参照資料としてプリント配布する。

【参考書】

「総介護社会」岩波新書刊 小竹雅子著
「総括・介護保険の10年～2012年改正の論点～」公人の友社刊 鏡論編著
「自治体現場から見た介護保険」公人の友社刊 鏡論著

【成績評価の方法と基準】

授業での発表及びディスカッションによる総合評価とする。課題発表については、70%以上の配点とする。その他は講義中の発言及び質問、さらにディスカッション等を30%の評価対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートによる要望に沿うように対応する。また、初回のオリエンテーションの際に、院生からの要望について意見を徴収する。

【学生が準備すべき機器他】

PC。適宜映像資料を活用する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、授業終了後実施する。

自治体福祉行政に身を置き、介護保険制度の創設及び運営にかかわった実務経験を生かして、現場での知見を基に院生に情報提供していく。

【担当教員の専門分野】

自治体福祉政策、介護保険制度、地方自治

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline) :This course introduces We discuss and understand issues and responses based on actual issues in local government sites on the issues of care insurance system and the elderly care of local governments and The social welfare policy in the municipality begins with the history that the benefit is provided to the poor and the anti-poverty as the agency delegation clerical work and measures are limited to the target person to students taking this course.

到達目標 (Learning Objectives) : The goals of this course are to The policy that the elderly can live with peace of mind is about the balance of benefits and burdens between generations, In local Government policy "Benefits and Burdens", and discuss the relationship between.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom) : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies) : Final grade will be calculated according to the following process in-class report (70%), and in-class contribution.

POL500A3

自治体議会論

鍵屋 一

備考（履修条件等）：公共政策学と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自治体議会の歴史、意義を学び、議会の課題、国内外における先進事例を調査研究することにより、二元代表機関としての議会・議員のあり方について理解を深める。これにより、執行機関との緊張関係の下で住民福祉の向上を図る議会・議員となることを目指す。

【到達目標】

研究活動の基本となる議会の意義、歴史、先進事例を調査研究し、学生間、講師とともに討議を行いそれぞれの問題意識に合わせて課題を深掘りしていく。これにより、現実の自治体議会の抱える課題と今後の議会改革方策を浮き彫りにできる。学生は洞察力を深め、討議による集合知を紡ぎだすことができる。学生が積極的に討議に参加し、自らと他者の理解を深める主体となっているかを評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業形式☑️対面授業。主として松下圭一「政策型思考と政治」の議会関係部分を講師が解説し、重要部分について討議、集合知の紡ぎ出しを行う。また、現実の自治体議会のニュース、トピックスを積極的に取り上げ、解説、討議を行うことで学生の洞察力を高める。授業の最後には、学生からの質問、コメントを求め、その場でフィードバックを行う。また、授業後にメール等による質問も受け付けてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	1.2 議会の成立、歴史、意義と歴史	議会の成立過程、歴史、意義を学ぶ
第2回	3.4 各国の議会	わが国、および各国の議会の歴史、意義を学ぶ
第3回	5.6 各国の自治体議会の歴史	わが国、および各国の自治体議会の歴史、意義を学ぶ
第4回	7.8 各国の自治体議会の課題	わが国、および各国の自治体議会の現状と課題を学ぶ
第5回	9.10 自治体議会のあり方について	現実の自治体議会の課題、今後の方向性を学ぶ
第6回	11.12 自治体議会改革について	自治体改革の歴史と概要を学ぶ
第7回	13.14 災害時の自治体議会・議員について	災害時の自治体議会・議員のあるべき行動規範について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の住む自治体議会のホームページ、直近の議事録を読む。直近の自治体改革の動向を示す書籍、ホームページ等を調査しておく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

政策型思考と政治、松下圭一、東京大学出版会、1991年、4,644円
なお、講師が必要な部分を資料として提供するので、購入する必要はない。

【参考書】

江藤俊昭「自治体議会学 議会改革の実践手法」等
自治体議会改革フォーラムホームページ、www.gikai-kaikaku.net

【成績評価の方法と基準】

討議への参加など平常点 70 %

振り返りシート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

学生からは、講義内容が濃密であるとの意見があった。理解が難しいと思われる部分については、質疑を促すとともに丁寧に解説していきたい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自治体、防災

<研究テーマ>自治体議会・議員の災害対策

<主要研究業績>紀要論文、議員研修

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire the history and significance of the local council.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to deepen the understanding of the council and members of parliament as a dual representative body.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports :30 %, in class contribution: 70%

POL500A3

NPO論 1

柏木 宏

備考（履修条件等）：公共政策学「NPO論」、連帯社会「NPO論（現状と課題）Ⅰ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO（民間非営利組織）は、サービス活動の提供による社会・地域問題への対応と、社会変革に向けたアドボカシー活動の両輪によって成り立っている。これらの活動により、NPOは、市民セクターの形成・発展の中心的な役割を担うとともに、市民社会を構築するための重要なツールとして機能している。日本におけるNPOは、1998年のNPO法成立によって具体化・顕在化したといえるが、「NPOの先進国、アメリカ」では、1世紀以上前から生成し、1960年代以降、急速に発展している。本授業では、NPOに関する基本的な概念の整理、こうした日米におけるNPOの歴史的背景や意義、現状と課題などについて理解することを目的とする。

【到達目標】

上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、日米を中心としたNPOに関する歴史や制度、社会的な役割、企業や行政との協働を含めた活動の形態などについて基本的な知識を幅広く獲得することができる。また、日本だけでなく、アメリカをはじめとした世界全体におけるコロナ禍の現状や課題を含めた、NPOの今日的課題や意義について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・教員による講義

各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。

・学生の発表

講義への理解度を確認するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジュメに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・オフィス・アワー

講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。

・授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等を学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOに関する知識や関心を聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	非営利と公益の概念整理	NPOにとって最も重要といえる「非営利」と「公益」というふたつの概念を整理、理解する。
第3回	ボランティア活動とNPO	ボランティア活動とNPO活動の同質性と異質性、また関係性について検討、理解する。
第4回	NPO法の成立とその後	阪神淡路大震災後のボランティア活動の広がり、その影響もあり1998年に成立したNPO法の背景と成立過程、法の概要を整理するとともに、同法の成立後のNPOの発展や税制優遇制度の導入など、同法に関連した重要な動きやコロナ禍にNPOが直面した課題などを概観する。
第5回	世界のNPO	ジョンズ・ホプキンス大学の調査をベースに、世界のNPOを概観する。

第6回	アメリカのNPO	世界最大のNPOセクターをもつアメリカで、NPOがどのように発展し、制度が築かれてきたのかについて考える。そのうえで、コロナ禍を含めたアメリカのNPOセクターの現状について最新のデータを用いて把握するとともに、課題についても検討する。
第7回	授業のふりかえり	第2回から6回までの授業で興味を持った点と分りにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第8回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、フィードバックを受ける。
第9回	NPOのサービス活動	NPOのサービス活動とアドボカシー活動が、どのように関連して展開され、NPOのサービスの充実や社会課題に関する政策の形成に寄与しているのか、理論的に検討する。
第10回	NPOのアドボカシー活動	日本とアメリカにおけるNPOのサービス活動とアドボカシー活動について、その実態について事例を含め、検討、理解する。
第11回	NPOの協働に関する理論の検討	NPOと行政・企業の関係の理論的な枠組みを検討する。
第12回	NPO協働に関する事例研究	日米においてNPOと行政・企業の間で、どのように協働が展開されているのか、事例を含め、検討する。
第13回	授業のふりかえり	第9回から12回までの授業で興味を持った点と分りにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第14回	レポートの発表	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPOの社会的役割や現状、課題などについて、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは定めない。授業中に配布する資料を用いて、授業を行う。

【参考書】

柏木宏編著『コロナ禍における日米のNPO』明石書店、2020年。
その他、受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート50%。

レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように授業は対面で実施する予定だが、オンライン授業になる可能性もある。オンライン事業の場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、学習支援システム利用でできる環境の準備が必要。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO論、NPOマネジメント

<研究テーマ>

日米のNPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991年
- ・『企業経営と人権』解放出版社、1993年
- ・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994年
- ・『災害ボランティアとNPO』共編著、朝日新聞社、1995年
- ・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996年
- ・『NPOインターンシップの魅力』共編著、アルク、1998年
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999年
- ・『NPOマネジメントハンドブック』明石書店、2004年
- ・『指定管理者制度とNPO』明石書店、2007年
- ・『NPOと政治』明石書店、2008年
- ・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011年
- ・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013年
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017年
- ・『未来を切り拓く女性たちのNPO活動』共著、明石書店、2019年
- ・『コロナ禍における日米のNPO』編著、明石書店、2020年

【Outline (in English)】

Nonprofit organizations (NPOs) have two primary roles; to deal with social and community problems by providing services and to advocate these problems to solve them. By these works, NPOs take a leading role in developing civil society. NPOs in Japan were recognized in 1998 through the law promoting nonprofit activities. In the US, NPOs started more than a century ago and have developed rapidly since the 1960s. This class analyzes their significance and examines the history and current situations in the US and Japan.

POL500A3

NPO論2

柏木 浩

備考（履修条件等）：公共政策学「市民社会ガバナンス論」、連帯社会「NPO論（現状と課題）Ⅱ」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPO論ⅠをNPOに関する歴史や制度、現状と課題などの概論、入門編とすると、NPO論ⅡはNPOをどのように運営していくのかを示す、マネジメント編として位置づけることができる。したがって、NPOのマネジメントの基本である、ヒト、カネ、プランを中心に、具体的な手法を提示し、議論、NPOの運営能力の基本を獲得する。なお、以上の点について、コロナ禍において、NPOのマネジメントに生じた変化を含めた考察も行う。

【到達目標】

上記の【授業の概要と目的】を踏まえ、NPOマネジメントの基礎となる、ヒューマンリソース、資金、プランニングなどを中心に、マネジメント手法を理解することで、NPOの運営状況の分析や経営を担う基礎的な知識と能力を獲得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

・ 教員による講義
各回の講義の資料は、事前に学習支援システムにアップする。これを読み、講義内容のイメージをえるとともに、質問、意見などを考えておく。この予習を行っていることを前提として、授業を進めていく。毎回の講義は、原則として3分の2程度を教員からのプレゼンテーションとする。残りの時間で学生との質疑応答を含めた議論を行い、最後にまとめる。
・ 学生の発表

講義への理解度を確保するとともに、不明瞭な点を明確にするため、期間中に講義のまとめ（ふりかえり）のセッションを2回実施する。また、授業に関連したテーマのレポートの作成を行う。作成に先立ち、アウトラインを作成し、授業で発表する。レポートは、レジюмеに基づいて発表を行う。ふりかえり、アウトライン、レポートの発表の際には、教員・受講生からフィードバックを受ける。

・ オフィス・アワー
講義の疑問点やふりかえり、レポートの作成に関する指導を受けることができる。
・ 授業の形式

授業は、対面形式で行う予定。ただし、学生の希望や新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンラインで実施する可能性がある。その場合、ZoomのID・パスコード等については、学習支援システムにアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方や評価方法などについて説明するとともに、受講生のNPOマネジメントの知識や関心聞き、今後の授業に反映させる。
第2回	NPOマネジメントの特色	NPOのマネジメントが企業や行政のマネジメントとどう異なるかについて検討することを通じて、その特色を理解する。
第3回	ヒューマンリソースのマネジメント1	NPOが活用するヒューマンリソースは、ボランティアとスタッフ、理事に大別できる。この三者がどのように連携することで、効果的な組織運営が可能になるか考える。
第4回	ヒューマンリソースのマネジメント2	ボランティアとスタッフ、理事のそれぞれに対するマネジメントの手法について考える。
第5回	資金のマネジメント1	NPOの事業の受益者の多くは、十分な支払い能力がない。このため、NPOは、ファンドレイジングが必要となる。ファンドレイジングをどのように行うか、考える。
第6回	資金のマネジメント2	ファンドレイジングで獲得した資金も含め、適切な財務管理を行う必要がある。これらの意義や手法について検討する。

第7回	授業のふりかえり	第2回から6回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる
第8回	レポートのアウトラインの発表	最終回に発表を行うレポートのアウトラインを示し、教員や学生からフィードバックを受ける。
第9回	プログラムプランニング	NPOの実態は、個々の事業、すなわちプログラムである。これをいかに企画し、実施していくのかについて検討する。変化の激しい現代において、NPOも内外の変化に対応していかなければ、継続、発展はできない。このため、組織の内外環境を分析し、優先順位をつけて運営を進めるための戦略計画について検討する。
第10回	戦略計画	組織は、設立しなければ機能しない。営利であれば株式会社、非営利であればNPO法人や一般社団・財団など法人格の取得を行うことになる。ここでは、NPO法人の設立について考える。NPOにおいても、設立から時間が経過すると、世代交代の問題が出てくる。営利企業との比較も含め、これらを進める手法を検討する。
第11回	NPOの設立	第9回から12回までの授業で興味を持った点と分かりにくかった点を事前に提出させ、それらの内容を議論、検討し、授業内容の深化をはかる。
第12回	NPOの世代交代	授業に関連したテーマで作成したレポートを発表し、教員と院生からのフィードバックを受けるとともに、NPOの運営方法や運営の現状、課題などについて、議論する。
第13回	授業のふりかえり	
第14回	レポートの発表	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

柏木宏著『NPOマネジメントハンドブック』明石書店、2004年。

【参考書】

柏木宏編著『コロナ禍における日米のNPO』明石書店、2020年。
柏木宏『未来を切り拓く女性たちのNPO活動』共著、明石書店、2019年
受講生の希望と必要に応じて、随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

配分：平常点（授業中の議論への参加度など）50%、「ふりかえり」とレポート50%。

レポートの評価基準：授業内容との関連性、学術性、創意工夫、表記、論旨。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

前述のように、対面授業を予定しているが、オンライン授業になった場合は、必要なPCやWi-Fi設備などを用意したうえで、Zoomを利用できる環境の準備が求められる。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

NPO論、NPOマネジメント

<研究テーマ>

日米のNPO、社会運動

<主要研究業績>

- ・『アメリカの外国人労働者』明石書店、1991年
- ・『企業経営と人権』解放出版社、1993年
- ・『アメリカのなかの日本企業』日本評論社、1994年
- ・『災害ボランティアとNPO』共編著、朝日新聞社、1995年
- ・『ボランティア活動を考える』岩波書店、1996年
- ・『NPOインターンシップの魅力』共編著、アルク、1998年
- ・『アメリカの労働運動の挑戦』労働大学、1999年
- ・『NPOマネジメントハンドブック』明石書店、2004年
- ・『指定管理者制度とNPO』明石書店、2007年
- ・『NPOと政治』明石書店、2008年
- ・『創造都市経済と都市地域再生』共著、大阪公立大学共同出版会、2011年
- ・『みんなで考える広域複合災害』共著、大阪公立大学共同出版会、2013年
- ・『高齢者が動けば社会が変わる』共著、ミネルヴァ書房、2017年
- ・『未来を切り拓く女性たちのNPO活動』共著、明石書店、2019年
- ・『コロナ禍における日米のNPO』編著、明石書店、2020年

【Outline (in English)】

This class focuses on how to manage a nonprofit organization. By learning management of its human resources, financial resources, and planning methods, students could obtain basic knowledge and skills to manage a nonprofit organization.

POL500A3

シンクタンク論

蒔田 純

備考（履修条件等）：公共政策学、連帯社会と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的要素の概念的な意味と具体的な成り立ちに関する理解を踏まえ、それらにおいてシンクタンクがどのように位置づけられ、どのような役割を果たしているか、について考察する。

【到達目標】

・海外および国内の主要なシンクタンクについて、その機能と政策形成過程における役割について把握することができる。
 ・政策形成過程、統治機構、政官関係、国家－社会関係等、公共政策に関わる基礎的概念を踏まえた上で、シンクタンクという視点を通して、それらの仕組みや特徴、課題等について理解することができる。
 ・「仮説」⇒「検証」という科学的思考の基礎を踏まえて、公共政策の文脈の中で、シンクタンクと他の諸要素との因果関係について論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業前半では、「シンクタンクとは何か」「シンクタンク論を学ぶ意義とは何か」について踏まえた上で、国家－社会間関係や政策形成過程等、公共政策の概念をシンクタンクの視点から考察し、加えて、政策形成への人材供給や資金の在り方等、シンクタンクをめぐる主要な論点について検討する。これに基づき後半では、機能や母体等の観点からシンクタンクを分類した上で、海外・日本のそれぞれにおけるシンクタンクについて、その政策形成における位置づけや役割について具体的に論ずる。

特定の教科書は使用せず、毎回、レジュメを配布する。授業を行う上では、概念的な説明のみではなく、できるだけ具体的に現実における動きを踏まえた講義とすることを心掛けたい。場合によっては、実際にシンクタンクで働く方やその関係者等、各回のテーマに沿うゲストスピーカーを招聘し、実際におけるシンクタンクの動きをお話しいただく。

授業は一方的な講義ではなく、受講者による質問・意見交換を歓迎する。一つの質問を基に教室中に議論が起こるような、参加型の学習空間としたい。授業後半では受講者に何らかのプレゼンテーションを行ってもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容・日程等の説明、講師の自己紹介など
第2回	シンクタンクとは	シンクタンクの定義、歴史、機能など
第3回	国家と社会	国家－社会間関係、「政策ネットワーク論」など
第4回	政策形成とシンクタンク	政策形成過程の基礎、シンクタンクから見た政策形成過程
第5回	シンクタンクの人材	リボルビングドア、政治任用など
第6回	シンクタンクの資金	フィランソपी、501(C)3 など
第7回	シンクタンクの分類	コントラクト、アカデミック、アドボカシーなど
第8回	海外のシンクタンク①	米国を中心に海外のシンクタンクについて

第9回	海外のシンクタンク②	米国を中心に海外のシンクタンクについて
第10回	日本のシンクタンク	日本のシンクタンクについて
第11回	立法補佐機関とシンクタンク	議会の立法活動を補佐する機関としての立法補佐機関とシンクタンクの関係性について
第12回	団体とシンクタンク	利益集団・圧力団体とシンクタンクの関係性について
第13回	自治体シンクタンク	自治体が創設したシンクタンクについて
第14回	まとめ	全体のまとめと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

Alex Abella, 2009. *Soldiers of Reason: The RAND Corporation and the Rise of the American Empire*, Mariner Books.

飯尾潤. 2007. 『日本の統治構造』中央公論新社.

小池洋次（編著）. 2010. 『政策形成』ミネルヴァ書房.

Shimizu, Mika. 2015 “Think Tanks and Policy Analysis: Meeting the Challenges of Think Tanks in Japan”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.14.

Smith, James A. 1991. *The Idea Brokers: Think Tanks and the Rise of the New Policy Elite*, Free Press.

鈴木崇弘. 2007. 『日本に民主主義を起業する—自伝的シンクタンク論』第一書林.

鈴木崇弘. 2011. 「日本になぜ（米国型）シンクタンクが育たなかったのか？」『季刊政策・経営研究』pp.30-50.

鈴木崇弘・上野真城子. 1993. 『世界のシンク・タンク—「知」と「治」を結ぶ装置』サイマル出版会.

鈴木崇弘・風巻浩・中林美恵子・上野真城子・成田喜一郎. 2005. 『シチズン・リテラシー—社会をよりよくするために私たちにできること』教育出版

Smith, James, 1993. *The Idea Brokers: Think Tanks And The Rise of The New Policy Elite*, Free Press.

Suzuki, Takahiro. 2015. “Policy Analysis and Policymaking by Japanese Political Parties”, in Yukio Adachi, Sukehiro Hosono and Jun Iio eds., *Policy Analysis in Japan*, Policy Press at the University of Bristol, Chap.11.

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史. 2008 『比較政治制度論』有斐閣.

横江公美. 2008. 『アメリカのシンクタンク 第五の権力の実相』ミネルヴァ書房.

横江公美. 2004. 『第五の権力 アメリカのシンクタンク』文藝春秋.

宮田智之. 2017. 『アメリカ政治とシンクタンク—政治運動としての政策研究機関—』東京大学出版会.

Weaver, R., 2002. *Think Tanks and Civil Societies: Catalysts for Ideas and Action*, Routledge.

【成績評価の方法と基準】

出席・質疑・討論参加 45 %、レポート 35 %、プレゼンテーション 20 %

<評価基準>

質疑・討論参加：積極性、分析力、批判力等

レポート・プレゼンテーション：分析力、論理性、新規性、簡潔性等

【学生の意見等からの気づき】

基本的な政治学用語、政治学的な考え方についても適宜、解説を行う。

【その他の重要事項】

レポートの提出期限、内容等については適宜指定する。

やむを得ず授業を欠席する際は、事前あるいは事後にその理由につき連絡すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 政治過程、議会、官僚機構、利益団体、地域政策

<研究テーマ> 政治過程における民間アクターの役割、議会における立法補佐機関の機能、政策形成における政策ネットワークの役割など

<主要研究業績>

"Institutional development of legislative supporting agencies (LSAs) from a perspective of difference between presidential and parliamentary systems,"

Asian Journal of Comparative Politics, 2022 (<https://journals.sagepub.com/doi/pdf/10.1177/20578911221138475>).

"The institutional development of Legislative Supporting Agencies (LSAs) focusing on the differences among parliamentary-system countries," *Parliaments, Estates and Representation*, 42(3), 2022, pp.324-340.

"A Study of the Functions of Political Appointees from a Comparative Perspective," *Asian Journal of Comparative Politics*, 7(1), 2022, pp.146-161.

『立法補佐機関の制度と機能－各国比較と日本の実証分析』晃洋書房、2013年。

【Outline (in English)】

Examining how think-tanks play a role in the political process, based on the understandings regarding the concept meanings and concrete structures of fundamental factors about public policy including policy process, political structure, politician-bureaucrats relationship, nation-society relationship.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Class contribution: 45%、Reports : 35%、Presentation: 20%

< Evaluation standards >

Class contribution: positiveness, analytical capability, critical capability

Reports and presentation: analytical capability, logicity, novelty, simplicity

POL500A3

国際政治の基礎理論 1

大中 真

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、国際政治学「国際政治理論」、公共政策学・サステナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学（国際関係論）とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻で国際秩序が大きく動揺していると言われますが、今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。同時に、学生による授業内発表を推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学への誘い	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	国際社会論	英国学派の国際関係論を手掛かりに、我々の生きる国際社会の特質を考えます。
3	西欧国際体系	「ウェストファリアの神話」を考えつつ、西欧国際体系の特徴を探ります。
4	東アジア国際体系	華夷秩序を中心とした東アジアの国際体系を考察します。
5	イスラーム国際体系	イスラーム世界における国際体系の思想を考えます。
6	国際関係思想	国際関係を理解するための思想類型を提示します。
7	ナショナリズム	近代以降の国際関係を動かしてきたナショナリズムについて考えます。
8	外交	外交の基本概念と実践について解説を加えます。
9	国際法	国際法の基礎と国際政治との関連に重点を置いて解説します。
10	国際連合	国際連合の基本的構造と機能について考察します。
11	戦争論	人類の歴史の中で戦争はどのように変遷してきたか、探究します。
12	冷戦とポスト冷戦の国際関係	冷戦を知らずして現在の国際関係を理解することはできません。

- | | | |
|----|-------------|----------------------------------|
| 13 | 現在の国際政治の諸問題 | ロシアのウクライナ軍事侵攻など、現在の国際問題について考えます。 |
| 14 | 学習のまとめ | 半期の学習を振り返り、まとめます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに2時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細は、講義内で紹介します。

E. H. カー『危機の二十年—理想と現実』原彬久訳（岩波文庫、2011年）
 ジョセフ・S. ナイ『国際紛争—理論と歴史、原書第10版』田中明彦、村田晃嗣訳（有斐閣、2017年）

中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）

バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』大中真、佐藤誠、池田丈佑、佐藤史郎ほか訳（日本経済評論社、2017年）
 ヘドリー・ブル『国際社会論—アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳（岩波書店、2000年）

マーティン・ホワイト『国際理論—三つの伝統』佐藤誠、安藤次男、龍澤邦彦、大中真、佐藤千鶴子訳（日本経済評論社、2007年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義終了後に小テストを行います。（50%）

また最後に学期末試験を行います。（50%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業の最後に電子小テストを実施します。スマートフォンでも構いませんが、ノート型パソコンの用意を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

POL500A3

アメリカ外交研究 1

石川 敬史

備考(履修条件等)：学部「アメリカ政治外交史」、国際政治学「アメリカ外交史」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業は、アメリカ的な外交政策が揺籃された背景を歴史的に考察するものです。ヨーロッパ文明に端を発しながらも、ヨーロッパとは異なる世界観を獲得するに至ったアメリカ文明の形成過程を植民地時代から外観します。

受講生は、日々のニュースでもたらされる膨大なアメリカの行動の背景に存在する「原則」を歴史的視座から理解できるようになることを目指していただきます。

【到達目標】

- ①アメリカ合衆国の外交政策を歴史的・文化的背景から考察する視座を涵養する。
- ②アメリカ合衆国の外交を内政の延長上にあるものとして再定位できるようにする。
- ③アメリカ合衆国を題材としつつも、外交政策一般の形成過程を各国の歴史の経緯から理解するよう努める知的習慣を身につける。
- ④外交政策を思想的に理解することができるようになる。
- ⑤アメリカ合衆国の合わせ鏡として最終的には世界の中の日本を考察する材料を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業とします。概ね7回目の授業を目処に簡単なミニレポートの課題を出し、授業前半の理解を確認し足します。質問はメール等で常時受けつけます。その質問内容は、授業に反映することもあります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	重商主義政策下におけるヨーロッパ人のアメリカ大陸への移住とイギリス領北アメリカ植民地の形成史
第2回	フレンチ・インディアン戦争から反イギリス抗争へ	イギリス領北アメリカ植民地とイギリス本国の統治原則の乖離
第3回	国際戦争としてのアメリカ独立戦争	イギリス領北アメリカ植民地の戦時体制と啓蒙主義思想による戦時国際法の変化によるアメリカ合衆国の独立
第4回	フェデラリスト政権の外交(1)	初代大統領ジョージ・ワシントンの外交政策とアメリカ孤立主義外交の契機
第5回	フェデラリスト政権の外交(2)	第二代大統領ジョン・アダムズ政権の外交と内政事情
第6回	フロリダ併合から1812年の米英戦争	アメリカ合衆国における党派対立から政党政治への移行と消滅、その政治哲学的考察
第7回	モンロー・ドクトリンとアメリカ大陸の覇権国家への道	第5代大統領ジェームズ・モンローと国務長官ジョン・クインジー・アダムズによる積極的孤立主義外交

第8回	アメリカの膨張と「マニフェスト・デスティニー」	アフリカ人奴隷制度をめぐる争いを梃子としたアメリカ合衆国の膨張
第9回	共和党の誕生と南北戦争	アメリカ合衆国憲法が棚上げにしてきた問題の解決と内戦期におけるリンカン政権の外交
第10回	フロンティアの消滅と新たな外交思想	第26代大統領セオドア・ローズヴェルト、第27代大統領ウィリアム・タフト、第28代大統領ウッドロー・ウィルソンによるアメリカ外交思想の形成
第11回	アメリカ合衆国と第一次世界大戦	図らずも訪れたアメリカの世紀
第12回	アメリカ合衆国と第二次世界大戦	ニューディール政策がもたらした動員力と冷戦の始まり、および冷戦期の外交
第13回	2001年9月11日とアメリカ合衆国	冷戦終焉後の10年が見落としていた21世紀の諸問題
第14回	21世紀現在のアメリカ外交の外観	保守レジームにおけるアメリカ外交

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・授業で配布した資料、参考文献、授業で紹介した文献を読み込み復習に重点をおいた学習を心がけてください。概ね1時間30分。
・ミニレポートは、減点材料としては使用しません。授業で理解したことを言語化すると同時に、理解していなかったことに気づくためのものです。積極的に活用・提出を心がけてください。
・上記2点を踏まえた上で、次の授業テーマに当たる項目について参考文献に目を通してください。概ね30分。

【テキスト(教科書)】

教科書は特に指定しません。授業毎にテーマに沿った資料を配布します。

授業において必要な参考文献を紹介します。

【参考書】

斎藤真・古矢旬『アメリカ政治外交史[第二版]』(東京大学出版会、2012年)
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』(東京大学出版会、2022年)

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30%

期末試験 70%

※単位取得の必須条件は、期末試験を受験することにあります。
※もしミニレポートを提出してなくても期末試験は受験できます。その際は、最高評価はBとなります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【その他の重要事項】

質問は毎授業後に受けつけます。気軽に声をかけてください。また、下記メールで質問してもかまいません。

t-ishikawa@main.teikyo-u.ac.jp

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカ革命史

<研究テーマ>ジョン・アダムズの思想と行動

<主要研究業績>

・石川敬史「アメリカ革命期における主権の不可視性」『年報政治学』2019-I、96-116頁、2019年

・石川敬史「ジョン・アダムズの混合政体論における近世と近代」『アメリカ研究』(53)、35-37頁、2019年

・石川敬史「『ザ・フェデラリスト』と建国期アメリカの思想対立」『政治思想研究』(12)、24-51頁、2012年

【Outline (in English)】

This class is a historical view of the background of American-style foreign policy. We will look at the formation process of American civilization, which originated in European civilization but came to acquire a worldview different from that of Europe, starting in the colonial period.

Students are expected to be able to understand from a historical perspective the "principles" that exist behind the vast array of American actions brought to us in the daily news.

POL500A3

日中関係政策論 1

熊倉 潤

備考（履修条件等）：国際政治学「対外政策研究（中国）（1）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で議論し、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業を想定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第 2 回	文革前の対外関係（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 3 回	文革前の対外関係（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 4 回	文革前の対外関係（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 5 回	文革前の対外関係（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 6 回	文革前の対外関係（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 7 回	文革前の対外関係（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第 8 回	個人研究発表	院生個人の研究について、各自発表し議論する
第 9 回	文革中の対外関係（1）	受講者の研究報告とディスカッション
第 10 回	文革中の対外関係（2）	受講者の研究報告とディスカッション
第 11 回	文革中の対外関係（3）	受講者の研究報告とディスカッション
第 12 回	文革中の対外関係（4）	受講者の研究報告とディスカッション
第 13 回	文革中の対外関係（5）	受講者の研究報告とディスカッション
第 14 回	フィールドワーク	横浜中華街を訪問して媽祖廟、関帝廟等を実地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。

沈志主主『中关系史：1917-1991』北京：新出版社、2007年、55.80円。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史

<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL500A3

日中関係政策論2

熊倉 潤

備考（履修条件等）：国際政治学「**対外政策研究（中国）（2）**」と
合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的
形成過程等について、ゼミ形式で論じ、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史
に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイ
ティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を
高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問
的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は
特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、
論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマ の紹介
第2回	文革後の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第3回	文革後の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第4回	文革後の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第5回	文革後の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第6回	フィールドワーク	アジア経済研究所図書館を訪問する
第7回	文革後の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第8回	現代の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第9回	修士論文執筆による途 中経過報告会	修士論文執筆による途中経過報告と ディスカッション
第10回	現代の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第11回	現代の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第12回	修士論文執筆による途 中経過報告会	修士論文執筆による途中経過報告と ディスカッション
第13回	現代の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッ ション
第14回	現代の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッ ション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。

沈志超主編『**中関系史**：1917-1991』北京：新出版社、2007年、55.80元。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応
じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史

<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『**民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート**』東
京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and
discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical
process.

POL500A3

国連・平和構築研究 1

弓削 昭子

備考（履修条件等）：国際政治学「国連・平和構築研究 1（国連組織）」、公共政策学・サステナビリティ学「国際機構論」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat's role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General's role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN's relationship with regional actors

11	Civil society	UN's relationship with civil society actors
12	Private sector	UN's relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations Second Edition, Oxford University Press, 2018.

・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

・ United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】

・ Tatiana Carayannis and Thomas G. Weiss, The "Third" United Nations, Oxford University Press, 2021.

・ Stephen Browne and Thomas G. Weiss (ed.) Routledge Handbook on the UN and Development, Routledge Handbook, Routledge, 2021.

・ Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.

・ 日本国際連合学会（編）『持続可能な開発目標と国連』国連研究第 22 号、国際書院、2021 年

・ 日本国際連合学会（編）『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50 %), final report (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

POL500A3

国連・平和構築研究2

弓削 昭子

備考（履修条件等）：国際政治学「国連・平和構築研究2（平和構築）」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on peacebuilding), the students will examine the role and activities of the UN and its various agencies in peacebuilding around the world. The students will analyze peacebuilding and related issues from political, economic, social, environmental, human rights, and security angles thereby deepening understanding on their inter-linkages.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding of conflict prevention, post-conflict reconstruction and peacebuilding and how the UN system and its agencies have addressed the various challenges related to these. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in peacebuilding. Through presentation and discussion in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to conflict prevention, post-conflict reconstruction, and peacebuilding, especially those supported by the UN system and its agencies. Classes will focus on the analysis of different aspects of peacebuilding as well as the roles of various actors in peacebuilding through class presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: what is peacebuilding?	Overview of peacebuilding
2	Conflict prevention	Conflict prevention and the role of UN
3	Peacekeeping	Evolution of UN peacekeeping operations
4	Peacebuilding	Peacebuilding and role of UN
5	Poverty and fragility	Peacebuilding and poverty and fragility
6	Peacebuilding steps	Different phases of peacebuilding
7	Actors in peacebuilding	Cooperation among stakeholders in peacebuilding
8	Humanitarian intervention	Responsibility to Protect (R2P)
9	Humanitarian action	Humanitarian action and coordination

10	Peacebuilding and economic development	Development and peacebuilding nexus
11	Democracy and good governance	Peacebuilding and governance
12	Women and gender	The role of women and gender in peacebuilding
13	Prospects for UN reform	UN reform in peacebuilding
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations, Oxford University Press, 2018.

・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

・ Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), International Development, Ideas, Experiences, & Prospects, Oxford University Press, 2014.

【参考書】

・ Edward Newman, Roland Paris, and Oliver P. Richmond (ed.), New Perspectives on Liberal Peacebuilding, United Nations University Press, 2009.

・ Ramesh Thakur, Reviewing the Responsibilities to Protect: Origins, Implementation and Controversies (Global Politics and the Responsibility to Protect), Routledge, 2019.

・ 稲田十一、『紛争後の復興開発を考える アンゴラと内戦・資源・国家統合・中国・地雷』、創成社、2014年

・ 稲田十一（編）、『開発と平和、脆弱国家支援論』、有斐閣ブックス、有斐閣、2009年

・ 横田洋三（編）『国連による平和と安全の維持 解説と資料 第2巻』国際書院、2007年

・ 日本国際連合学会（編）『平和構築と国連』国連研究第8号、国際書院、2007年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50%)、final report (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】

Same as above text

POL500A3

国際行政研究 1

坂根 徹

備考（履修条件等）：国際政治学「国際公共政策研究 1」と合同
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究 1 では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策（国際行政研究 1 では、以下と上記の国際公共政策の記載を国際行政に読み替えて頂きたい）について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な検討を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EU と、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源について検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概要についての検討
3	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開についての検討
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の推進主体	国連システムについての検討
7	国際公共政策の推進主体	EU についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策の必要資源	国際公共政策の資金についての検討
11	国際公共政策の必要資源	国際公共政策の人材についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表

- 13 調査研究テーマの議論 各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
- 14 調査研究テーマの議論 各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EU と SDGs のグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020 年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を 50%、担当の発表・議論を 50% として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
 <研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
 <研究業績の例（単著論文から 3 篇を抜粋）>
 ・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第 20 号、国際書院、2019 年に所収）
 ・「国連 PKO の財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多角的視点からの再考』国連研究第 13 号、国際書院、2012 年に所収）
 ・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public administration. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies. In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations. Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL700A3

博士論文演習Ⅱ A

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成に向けて、チュートリアルを通じて、それぞれの研究テーマに即した知識を獲得する。

【到達目標】

博士論文執筆に必要な知識の獲得と、執筆上に必要な方法論を獲得するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、受講者から研究の進捗状況について報告し、必要な研究上の助言を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	チュートリアル1	研究状況に沿った助言1
第2回	チュートリアル2	研究状況に沿った助言2
第3回	チュートリアル3	研究状況に沿った助言3
第4回	チュートリアル4	研究状況に沿った助言4
第5回	チュートリアル5	研究状況に沿った助言5
第6回	チュートリアル6	研究状況に沿った助言6
第7回	チュートリアル7	研究状況に沿った助言7
第8回	チュートリアル8	研究状況に沿った助言8
第9回	チュートリアル9	研究状況に沿った助言9
第10回	チュートリアル10	研究状況に沿った助言10
第11回	チュートリアル11	研究状況に沿った助言11
第12回	チュートリアル12	研究状況に沿った助言12
第13回	チュートリアル13	研究状況に沿った助言13
第14回	チュートリアル14	研究状況に沿った助言14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、前回、教員から指定された文献を読み、その内容をまとめると共に、自らの研究の進捗状況をまとめ、報告を準備する。

【テキスト（教科書）】

講義中に、読むべき文献をその都度指定する。

【参考書】

必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点による。

【学生の意見等からの気づき】

今後も、さらに受講者とのコミュニケーションを密にし、必要な改善を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治理論

<研究テーマ>権力論

<主要研究業績>

「権力論」、「境界線の政治学 増補版」（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】

In this class, participants will be given tutorials with regard to their respective research interests for their doctoral theses.

POL700A3

博士論文演習ⅡB

杉田 敦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文作成に向けて、チュートリアルを通じて、それぞれの研究テーマに即した知識を獲得する。

【到達目標】

博士論文執筆に必要な知識の獲得と、執筆上に必要な方法論を獲得するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

毎回、受講者から研究の進捗状況について報告し、必要な研究上の助言を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	チュートリアル1	研究状況に沿った助言1
第2回	チュートリアル2	研究状況に沿った助言2
第3回	チュートリアル3	研究状況に沿った助言3
第4回	チュートリアル4	研究状況に沿った助言4
第5回	チュートリアル5	研究状況に沿った助言5
第6回	チュートリアル6	研究状況に沿った助言6
第7回	チュートリアル7	研究状況に沿った助言7
第8回	チュートリアル8	研究状況に沿った助言8
第9回	チュートリアル9	研究状況に沿った助言9
第10回	チュートリアル10	研究状況に沿った助言10
第11回	チュートリアル11	研究状況に沿った助言11
第12回	チュートリアル12	研究状況に沿った助言12
第13回	チュートリアル13	研究状況に沿った助言13
第14回	チュートリアル14	研究状況に沿った助言14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、前回、教員から指定された文献を読み、その内容をまとめると共に、自らの研究の進捗状況をまとめ、報告を準備する。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてその都度指定する。

【参考書】

必要に応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点による。

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションをより深める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治理論

<研究テーマ>権力論

<主要研究業績>

権力論、「境界線の政治学 増補版」（いずれも岩波現代文庫）

【Outline (in English)】

In this class, participants will be given tutorials with regard to their respective research interests for their doctoral theses.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ A

犬塚 元

備考（履修条件等）：隔週開講（1週目開始）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ニーズやスケジュールをふまえた授業展開とします。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治思想史
<研究テーマ>政治思想史
<主要研究業績>ウェブサイト参考

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire important skills to complete a PhD dissertation.

POL700A3

博士論文演習Ⅲ B

犬塚 元

備考（履修条件等）：隔週開講（1週目開始）

その他属性：

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治思想史

<研究テーマ>政治思想史

<主要研究業績>ウェブサイト参照

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve academic skills.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第2回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第3回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第4回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第5回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第6回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第7回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第8回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第9回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第10回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第11回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第12回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第13回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第14回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

ニーズとスケジュールをふまえた授業展開とします。

POL700A3

博士論文演習Ⅲ A

山口 二郎

その他属性：

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
<研究テーマ>
<主要研究業績>

【Outline (in English)】

This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第 2 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第 3 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第 4 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第 5 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第 6 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第 7 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第 8 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第 9 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第 10 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第 11 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第 12 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第 13 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第 14 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

院生との対話を深めていきたい。

POL700A3

博士論文演習Ⅲ B

山口 二郎

その他属性：

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 <研究テーマ>
 <主要研究業績>

【Outline (in English)】

This seminar aims at building a plan for dissertation and confirming gradual progress for that goal.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、博士論文作成のために必要な技能を学習するとともに、論文の進捗状況を確認することを目的とする。

【到達目標】

博士論文執筆のためのスケジュールを立て、それを自ら達成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」は特に強く関連、「DP1」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

最初に論文のテーマを設定し、毎回、必要な文献の紹介、論文の道筋に関する構想を報告してもらい、教員がそれについて講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 1
第 2 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 2
第 3 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 3
第 4 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 4
第 5 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 5
第 6 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 6
第 7 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 7
第 8 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 8
第 9 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 9
第 10 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 10
第 11 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 11
第 12 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 12
第 13 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 13
第 14 回	構想発表と講評	論文の進捗状況の確認とコメント 14

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点

【学生の意見等からの気づき】

院生との対話を深めていきたい。

POL600A4-1000

国際政治理論

大中 真

備考（履修条件等）：学部「国際政治学入門」、政治学「国際政治の基礎理論1」、公共政策学・サステイナビリティ学「国際政治学基礎」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学（国際関係論）とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻で国際秩序が大きく動揺していると言われますが、今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。同時に、学生による授業内発表を推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学への誘い	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	国際社会論	英国学派の国際関係論を手掛かりに、我々の生きる国際社会の特質を考えます。
3	西欧国際体系	「ウェストファリアの神話」を考えつつ、西欧国際体系の特徴を探ります。
4	東アジア国際体系	華夷秩序を中心とした東アジアの国際体系を考察します。
5	イスラーム国際体系	イスラーム世界における国際体系の思想を考えます。
6	国際関係思想	国際関係を理解するための思想類型を提示します。
7	ナショナリズム	近代以降の国際関係を動かしてきたナショナリズムについて考えます。
8	外交	外交の基本概念と実践について解説を加えます。
9	国際法	国際法の基礎と国際政治との関連に重点を置いて解説します。
10	国際連合	国際連合の基本的構造と機能について考察します。
11	戦争論	人類の歴史の中で戦争はどのように変遷してきたか、探究します。
12	冷戦とポスト冷戦の国際関係	冷戦を知らずして現在の国際関係を理解することはできません。

- | | | |
|----|-------------|----------------------------------|
| 13 | 現在の国際政治の諸問題 | ロシアのウクライナ軍事侵攻など、現在の国際問題について考えます。 |
| 14 | 学習のまとめ | 半期の学習を振り返り、まとめます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに2時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか掲示します。さらに詳細は、講義内で紹介します。

E. H. カー『危機の二十年—理想と現実』原彬久訳（岩波文庫、2011年）
ジョセフ・S. ナイ『国際紛争—理論と歴史、原書第10版』田中明彦、村田晃嗣訳（有斐閣、2017年）

中西寛、石田淳、田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）

バリー・ブザン『英国学派入門—国際社会論へのアプローチ』大中真、佐藤誠、池田丈佑、佐藤史郎ほか訳（日本経済評論社、2017年）
ヘドリー・ブル『国際社会論—アナーキカル・ソサイエティ』臼杵英一訳（岩波書店、2000年）

マーティン・ホワイト『国際理論—三つの伝統』佐藤誠、安藤次男、龍澤邦彦、大中真、佐藤千鶴子訳（日本経済評論社、2007年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義終了後に小テストを行います。（50%）

また最後に学期末試験を行います。（50%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業の最後に電子小テストを実施します。スマートフォンでも構いませんが、ノート型パソコンの用意を推奨します。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

<研究テーマ>

<主要研究業績>

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics / international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

POL600A4-1010

アメリカ外交史

石川 敬史

備考（履修条件等）：学部「アメリカ政治外交史」、政治学「アメリカ外交研究1」と合同

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アメリカ的な外交政策が揺籃された背景を歴史的に考察するものです。ヨーロッパ文明に端を発しながらも、ヨーロッパとは異なる世界観を獲得するに至ったアメリカ文明の形成過程を植民地時代から外観します。

受講生は、日々のニュースでもたらされる膨大なアメリカの行動の背景に存在する「原則」を歴史的視座から理解できるようになることを目指していただきます。

【到達目標】

- ①アメリカ合衆国の外交政策を歴史的・文化的背景から考察する視座を涵養する。
- ②アメリカ合衆国の外交を内政の延長上にあるものとして再定位できるようにする。
- ③アメリカ合衆国を題材としつつも、外交政策一般の形成過程を各国の歴史的経緯から理解するよう努める知的習慣を身につける。
- ④外交政策を思想的に理解することができるようになる。
- ⑤アメリカ合衆国の合わせ鏡として最終的には世界の中の日本を考察する材料を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業とします。概ね7回目の授業を目処に簡単なミニレポートの課題を出し、授業前半の理解を確認し足します。質問はメール等で常時受けつけます。その質問内容は、授業に反映することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	重商主義政策下におけるヨーロッパ人のアメリカ大陸への移住とイギリス領北アメリカ植民地の形成史
第2回	フレンチ・インディアン戦争から反イギリス抗争へ	イギリス領北アメリカ植民地とイギリス本国の統治原則の乖離
第3回	国際戦争としてのアメリカ独立戦争	イギリス領北アメリカ植民地の戦時体制と啓蒙主義思想による戦時国際法の変化によるアメリカ合衆国の独立
第4回	フェデラリスト政権の外交(1)	初代大統領ジョージ・ワシントンの外交政策とアメリカ孤立主義外交の契機
第5回	フェデラリスト政権の外交(2)	第二代大統領ジョン・アダムズ政権の外交と内政事情
第6回	フロリダ併合から1812年の米英戦争	アメリカ合衆国における党派対立から政党政治への移行と消滅、その政治哲学的考察
第7回	モンロー・ドクトリンとアメリカ大陸の覇権国家への道	第5代大統領ジェームズ・モンローと国務長官ジョン・クインジー・アダムズによる積極的孤立主義外交

第8回	アメリカの膨張と「マニフェスト・デスティニー」	アフリカ人奴隷制度をめぐる争いを梃子としたアメリカ合衆国の膨張
第9回	共和党の誕生と南北戦争	アメリカ合衆国憲法が棚上げにしてきた問題の解決と内戦期におけるリンカン政権の外交
第10回	フロンティアの消滅と新たな外交思想	第26代大統領セオドア・ローズヴェルト、第27代大統領ウィリアム・タフト、第28代大統領ウッドロー・ウィルソンによるアメリカ外交思想の形成
第11回	アメリカ合衆国と第一次世界大戦	図らずも訪れたアメリカの世紀
第12回	アメリカ合衆国と第二次世界大戦	ニューディール政策がもたらした動員力と冷戦の始まり、および冷戦期の外交
第13回	2001年9月11日とアメリカ合衆国	冷戦終焉後の10年が見落としていた21世紀の諸問題
第14回	21世紀現在のアメリカ外交の外観	保守レジームにおけるアメリカ外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で配布した資料、参考文献、授業で紹介した文献を読み込み復習に重点をおいた学習を心がけてください。概ね1時間30分。
・ミニレポートは、減点材料としては使用しません。授業で理解したことを言語化すると同時に、理解していなかったことに気づくためのものです。積極的に活用・提出を心がけてください。
・上記2点を踏まえた上で、次の授業テーマに当たる項目について参考文献に目を通してください。概ね30分。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。授業毎にテーマに沿った資料を配布します。

授業において必要な参考文献を紹介します。

【参考書】

斎藤真・古矢旬『アメリカ政治外交史 [第二版]』（東京大学出版会、2012年）
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022年）

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30%

期末試験 70%

※単位取得の必須条件は、期末試験を受験することにあります。
※もしミニレポートを提出してなくても期末試験は受験できます。その際は、最高評価はBとなります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【その他の重要事項】

質問は毎授業後に受けつけます。気軽に声をかけてください。また、下記メールで質問してもかまいません。

t-ishikawa@main.teikyo-u.ac.jp

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>アメリカ革命史

<研究テーマ>ジョン・アダムズの思想と行動

<主要研究業績>

・石川敬史「アメリカ革命期における主権の不可視性」『年報政治学』2019-I、96-116頁、2019年

・石川敬史「ジョン・アダムズの混合政体論における近世と近代」『アメリカ研究』(53)、35-37頁、2019年

・石川敬史「『ザ・フェデラリスト』と建国期アメリカの思想対立」『政治思想研究』(12)、24-51頁、2012年

【Outline (in English)】

This class is a historical view of the background of American-style foreign policy. We will look at the formation process of American civilization, which originated in European civilization but came to acquire a worldview different from that of Europe, starting in the colonial period.

Students are expected to be able to understand from a historical perspective the "principles" that exist behind the vast array of American actions brought to us in the daily news.

POL600A4-1011

アジア国際政治史

福田 円

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、現代における東アジア諸国・地域の歴史について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者が東アジア近現代史について既に基本的な知識を持っているという前提のもと、特定の時期、諸国・地域について研究した文献を精読する。そして、精読した文献が東アジア近現代史を理解する上で、どのような意味を持つのかについて議論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度の授業においては、戦後東アジア国際政治史について、まず教員が講義を行う。その後、そのなかで特定の国の現代史について論じた文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と文献の紹介
第2回	戦後東アジア国際政治史（1）	冷戦期の東アジア
第3回	戦後東アジア国際政治史（2）	デタント期の東アジア
第4回	戦後東アジア国際政治史（3）	新冷戦期の東アジア
第5回	戦後東アジア国際政治史（4）	ポスト冷戦期の東アジア
第6回	戦後東アジア国際政治史（5）	米中競争期の東アジア
第7回	戦後東アジア国際政治史（6）	グローバルな国際政治と東アジア国際政治史
第8回	文献精読（1）	各章担当者の報告と議論
第9回	文献精読（2）	各章担当者の報告と議論
第10回	文献精読（3）	各章担当者の報告と議論
第11回	文献精読（4）	各章担当者の報告と議論
第12回	文献精読（5）	各章担当者の報告と議論
第13回	文献精読（6）	各章担当者の報告と議論
第14回	まとめの議論	精読した文献の論点をまとめ、発展させるための議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する精読文献の該当部分および配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

森聡・福田円編『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年

このほか履修者の顔ぶれを見て、精読する文献を決定する

【参考書】

田中明彦・川島真編『20世紀の東アジア史』全3巻、東京大学出版会、2020年

福田円『中国外交と台湾―「一つの中国」原則の起源』慶應義塾大学出版会、2013年

和田春樹ほか編『東アジア近現代通史』第7巻～第10巻、岩波書店、2011年

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会、2007年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業への変更も想定されるので、オンライン講義や課題にアクセスできる環境を準備しておくこと。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは火曜3限なので、この時間に個別の相談などを必要とする学生は、事前にメールにて連絡をすること。

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline (in English)】

This course aims to introduce and analyze the history of international relations in East Asia since 1945.

POL600A4-1005

国際公共政策研究 1

坂根 徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共政策研究1では、「グローバル・リージョナルな国際公共政策：Global and Regional International Public Policy」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共政策（国際行政研究1では、以下と上記の国際公共政策の記事を国際行政に読み替えて頂きたい）について、グローバル・リージョナルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国際公共政策に関して全般的な検討を行い、これを歴史的視点からみていく。その後、国際公共政策の推進主体としてよく取り上げられる国連システム・EUと、推進する上で必要となる資金・人材という代表的な資源について検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国際公共政策	グローバル・リージョナルな国際公共政策の概要についての検討
3	国際公共政策の歴史	国際公共政策の史的展開についての検討
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	国際公共政策の推進主体	国連システムについての検討
7	国際公共政策の推進主体	EUについての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	国際公共政策の必要資源	国際公共政策の資金についての検討
11	国際公共政策の必要資源	国際公共政策の人材についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論

14 調査研究テーマの議論 各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充たしてしっかり行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EUとSDGsのグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020年。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を50%、担当の発表・議論を50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の数や関心テーマ等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
 <研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
 <研究業績の例（単著論文から3篇を抜粋）>
 ・「国連システム諸機関の財政の変容—加盟国からの財政収入に焦点を当てた分析」（日本国際連合学会編『変容する国際社会と国連』国連研究第20号、国際書院、2019年に所収）
 ・「国連PKOの財政支出構造と政府・企業からの調達」（日本国際連合学会編『日本と国連—多角的視点からの再考』国連研究第13号、国際書院、2012年に所収）
 ・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., International Handbook of Public Procurement, Taylor and Francis, 2008)

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is to learn and consider about global and regional international public administration. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies. In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations. Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A4-1012

非伝統的安全保障研究

本多 美樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現在の国際社会を理解するうえで不可欠な「非伝統的安全保障研究」の最前線について学ぶ。非伝統的安全保障研究とは、多くは非軍事的ではあるが、国家や人にとって「安全を脅かす」とみなされる事象について、事象の性質を見極めたうえで、どのような視点から分析できるかを考察する研究分野である。主権国家を単位とする近代の国際社会において、安全保障はもっとも重要視される価値のひとつであるが、その概念はもともと状況依存的であることから、国際秩序の状況に応じて対象となる問題領域は変化してきた。とくに冷戦後は、経済危機、環境、難民・避難民、感染症などが安全保障上の重要な問題として顕在化したことによって安全保障をめぐる概念は多義化し、民主主義、人権、責任などの価値の広がりを背景に大きく変容してきた。授業では、変容してきた安全保障概念について整理した後、「誰が誰をどのような脅威からどう守るのか」という点に注目して、非軍事的で越境的な脅威とそれらに取り組み国際社会がどのように研究されてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・変容する安全保障概念について理解する。
- ・非伝統的安全保障問題の分析方法について学ぶ。
- ・非伝統的安全保障を扱った研究論文を通じて、現在の安全保障研究の最前線を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

担当教員が理論の整理などを行ったあと、クラス⑥からは、受講生がそれぞれ関心のある非伝統的安全保障問題を選択し、報告を行い、議論を持つ。事前の文献購読（英書）を必須とする。報告の回数は受講者の人数による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と講読文献についての説明、安全保障概念の変遷①
第2回	安全保障概念の変遷	安全保障概念の変遷②
第3回	非伝統的安全保障とは何か	非伝統的安全保障研究の系譜
第4回	非伝統的安全保障問題へのアプローチ I	理論と方法①
第5回	非伝統的安全保障問題へのアプローチ II	理論と方法②
第6回	民族紛争と安全保障	理論と事例
第7回	貧困と経済の安全保障	理論と事例
第8回	環境と安全保障	理論と事例
第9回	食糧と安全保障	理論と事例
第10回	エネルギーと安全保障	理論と事例
第11回	人の移動と安全保障	理論と事例
第12回	グローバル・ヘルスと安全保障	理論と事例
第13回	組織犯罪と安全保障	理論と事例
第14回	テロリズムと安全保障	理論と事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定された文献を必ず購読してから授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Mely Caballero-Anthony, "Negotiating Governance on Non-Traditional Security in Southeast Asia and Beyond" (Columbia Univ Press, 2018)

【参考書】

Barry Buzan, Ole Wæver, and Jaap De Wilde, "Security: A New Framework for Analysis" (Lynne Rienner Publishers, 1997), Mely Caballero-Anthony, "An Introduction to Non-Traditional Security Studies: A Transnational Approach" (SAGE Publications, 2016), 山田満・本多美樹編著『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か（明石書店、2021年）、篠田英朗『国際社会の秩序』（東京大学出版、2007年）。その他、授業内で随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

発表報告（40%）、議論への参加（10%）と期末レポート（50%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「地球規模課題政策研究」を秋学期に開講する。「地球規模課題政策研究」は、国家や国際機構、市民社会などのさまざまなアクターがグローバル・イシューを解決するために取り組んでいる政策と実践について、国際機構論の視点から考察するものである。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

近著に、『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022); "Smart Sanctions' by United Nations and Financial Sanctions," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020); "Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating 'universal' norms and values on the local," Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018); "The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874," East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、「国際機構論 総合編」（国際書院、2015年）、「国際学のすすめ」（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline (in English)】

Who secures safety of whom from what kinds of threats and how? – Concept of security has changed with the times. The objective of this course is to know the changes in security concepts from the historical perspective and to learn "securitization theory." With the end of the Cold War era, the international community met the decrease in interstate conflicts but the increase in intrastate conflicts originated from religious/ethnic frictions. And states have faced newly-emerged threats, so-called non-military issues or "non-traditional" security issues which include infectious diseases, environment degradation, and displaced persons. States recognize those non-traditional issues as "threats" to their national safety, and politicize them, and then securitize them by formulating national policies. This course analyzes non-traditional issues by using securitization theory to know usefulness and limitations of the theory.

POL600A4-0100

Academic Reading (初級)

アラン メドウズ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This lower-level graduate course aims to help students acquire the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

Although the main focus will be on reading, the course will enable students to develop all four language skills: speaking, listening, writing and reading.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of sources, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals will be studied. The aim throughout will be to boost academic reading and critical thinking skills, together with the acquisition, and active use of, the academic vocabulary necessary to function at this level of study. Interaction with classmates in pair, small group and whole class activities will offer ample opportunity to exchange information and opinions. Students will also undertake reading exercises leading to a variety of oral and written assignments to be submitted throughout the course.

* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. It is your responsibility to check for updates and announcements both (i) on the course page within Hoppii, and (ii) in emails sent to your registered email address.

If classes are conducted online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.

Feedback for homework and other assignments will be provided via Zoom and email, as well as during class (if the lessons are face-to-face)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation and Introductions	Overview of course.
2	How to be an Active Reader	Advice on practical reading skills. Introduction to the Academic Word List.
3	Reading Theme I: Learning Styles	Reading based on analysis of different learning styles.
4	Reading Theme II: College Life	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world.
5	Reading Theme II: College Life (continued)	Readings based on overseas student life at universities in the English speaking world
6	Reading Theme III: Political Science	Readings on issues related to Political Science
7	Reading Theme IV: Environmental Science	Readings on issues related to Environmental Science.
8	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
9	Reading Theme: To be announced	Reading on a global political issue.
10	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
11	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
12	Reading Theme: To be announced	Reading on a topical global political issue.
13	Make-up Class (if necessary)	Reading on a topical global political issue.
14	Make-up class (if necessary)	Reading on a topical global political issue

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course.

【参考書】

Materials will be provided by the instructor or accessible via the internet or through the university library / bookshop.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written.

Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The length and level of difficulty of the selected reading materials will increase as the course proceeds. Students will be expected to have thoroughly read specific reading materials before each lesson, and will be encouraged to engage in an active analysis and evaluation of those materials during class time.

Grades will be based on a combination of attendance, attitude, in-class quizzes and the quality of the submitted work, both oral and written. Further details relating to the grading criteria will be provided during the first lesson.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A4-0101

Academic Reading (上級)

ザヘル・ハスン

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This higher-level graduate course aims to help students improve the skills needed to be able to read texts related to Global Politics in English with increasing levels of efficiency, comprehension and critical judgement.

【到達目標】

The main focus is to improve student's reading comprehension, critical thinking skills regarding the content and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course will attempt to utilize and improve all four language skills to increase comprehension and vocabulary development through interaction with increasingly complex reading material. The course is thematically organised, thereby enabling concepts, topics and vocabulary to be recycled and reinforced. A wide variety of media, including magazine and newspaper articles, essays and papers published in academic journals and web-based material will be utilized and studied with the aim of boosting academic reading and critical thinking skills, along with vocabulary acquisition. Interaction with classmates in pair work, small group and whole class activities will offer ample opportunities to exchange information and opinions in an interactive manner. Reading circles will be used for discussions based on reading material with group member having various responsibilities to perform.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第 2 回	Reading Preparation Discussions	Reading practice
第 3 回	Reading Assignment Discussions	Reading Practice
第 4 回	Reading Tasks Discussions	Reading exercises
第 5 回	Reading abstracts Discussions	Reading exercises
第 6 回	Reading tasks Discussions	Reading tools
第 7 回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第 8 回	Reading articles Discussions	Reading tasks
第 9 回	Reading tools Discussions	Reading exercises
第 10 回	Global Politics Reading Theme II	Action Plans and global and local problems
第 11 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 12 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 13 回	Global Politics Reading Theme II (continued)	Action Plans and global and local problems
第 14 回	Global Politics Reading Theme II Final Presentations Final Essay exam	Action Plans and global and local problems Final exam and course feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

30% Advanced academic reading and negotiation. 20% Action Plans on global and local problems. 30% Active class participation and homework. 20% Final Essay Exam

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare papers, action plans and presentations on various topics and learn from each other.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This level of reading is advanced and is meant to make the student read and understand complex texts. Different reading material will be provided and skills taught.

POL600A4-0102

Thesis Writing (初級)

アラン メドウズ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is the lower-level G-GAP Thesis Writing course.

【到達目標】

The course aims to give students the necessary tools to be able to write in a precise and logical manner in English. They will be challenged to construct ideas and arguments in a logical manner, and to employ critical thinking skills when considering a range of contemporary global political issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

This lower-level graduate course will enable students to become familiar with the fundamentals of the writing process: from brainstorming and note-making, through the organisational stages to the final editing and proofreading of a completed piece of work. During the course, students will be expected to hone their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Regular 'language clinics' will help to minimize common organizational, grammatical and stylistic errors. Most of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, peer group evaluation and a variety of other activities.

* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. If online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.

Feedback for homework and other assignments will be provided via Zoom and email, as well as during class (if the lessons are face-to-face)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	The Writing Process I	Narrowing down a topic and writing an outline.
3	The Writing Process II	Writing the introduction. Working on the thesis statement.
4	The Writing Process III	Writing the conclusion
5	Paragraph Structure I	Unity within a paragraph.
6	Paragraph Structure II	Unity between paragraphs.
7	Supports I	Illustrative examples.
8	Supports II	Paraphrasing.
9	Supports III	Summarising.
10	Supports IV	Quotations.
11	Supports V	Facts and statistics. In-text citations and the bibliography.
12	Academic Style I	Formality
13	Academic Style II	Hedging and tentative language
14	Academic Style III	Synonyms and modal verbs.
	Course Wrap up	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments

40% Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

This syllabus is flexible and subject to change in line with the ability level and particular needs of the students, as assessed by the instructor.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The course aims to help students acquire the fundamental skills needed to write an academic thesis in English.

Grading criteria:

60% Classwork, in-class quizzes and homework assignments

40% Report

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A4-0103

Thesis Writing (上級)

ザヘル・ハスン

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

【到達目標】

The goal of this course is to help students expand and formalize the skills needed to write an academic thesis in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

During the course, students will be expected to develop their writing skills by submitting regular summaries and discussion documents on topical global political issues. Grammatical mini-clinics will attempt to minimize common stylistic, grammatical and organizational errors. Much of the actual writing will be done outside of the classroom, with time set aside during the lessons for discussion, self and peer group evaluation and a variety of other activities.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Overview of the course and self-introductions
第 2 回	Pre-writing	Topic generation and brainstorming
第 3 回	Writing the Introduction	The Thesis Statement
第 4 回	Paragraph Structure	Review of the three parts of a paragraph
第 5 回	Unity and Coherence	How to unify the content within a paragraph
第 6 回	Supporting Details	How to find and explain facts quotations and statistics
第 7 回	Facts vs. Opinions	How to decide what is fact and what is opinion
第 8 回	Paraphrasing and Quotations	The differences between paraphrasing and quoting
第 9 回	Summarizing	How to state the main idea in your own words
第 10 回	Argumentation	Investigating collecting generating and evaluating evidence
第 11 回	Types of sentences	Writing dependent and independent clauses
第 12 回	Parallel Structures	Showing how two or more ideas have the same level of importance
第 13 回	Opposition Clauses	Focusing on adverb clauses showing unexpected results
第 14 回	Participial Phrases Course Review and Evaluation	How to make your sentences more powerful and richer Summary of ideas covered and individual conferences

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on a combination of attendance, in-class participation, and the quality of in-class and submitted written work. Further details relating to the grading criteria will be announced during the first class.

The final Thesis product will comprised 50% of the final grade

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other.

The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This higher-level graduate course will guide students from the fundamentals of the writing process; pre-writing including brainstorming and note-making, paragraph structure, and concepts of unity and coherence to more complex written structures; paraphrasing and summarizing and argumentation.

POL600A4-0104

Presentation & Debate (初級)

アラン メドウズ

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is the lower-level Presentation and Debate course.

The course will present students with a range of topical global issues that lend themselves to discussion, debate and formal presentations. It is designed to give students the ability to identify, analyze, explain, summarize and evaluate the key arguments that underpin a variety of global political issues. Practical advice will be given advice on how to give academic presentations, Students will learn the mechanics of debate and how to hone their analytical and delivery skills so as to more effectively defend their case within an academically challenging environment.

【到達目標】

This course aims to develop students' presentation and debating skills so that they are able to exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making abilities. The focus will be on building, presenting and evaluating arguments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to global politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. Students will be offered guidance in their research and information gathering activities, instruction in using appropriate language and delivery techniques, and help in developing their critical listening and evaluation skills.

By the end of the course students will have an improved understanding of the procedures and constrictions of making academic presentations and should be able to conduct debates with increased confidence and effectiveness.

* Important: Depending upon the COVID-19 situation, part or all of this course may be conducted online. As such, this syllabus is flexible and changes may occur. If online, Zoom will be the main platform used. Students will need a device that is connected to the internet and familiarity with Zoom protocol.

Feedback for homework and other assignments will be provided via Zoom and email, as well as during class (if the lessons are face-to-face).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Orientation	Explanation of the course requirements and self-introductions.
2	Key Presentation and Debate Skills	Voice control, body language, content. Organizing, explaining and supporting opinions. Challenging supports and organizing your refutation.
3	News briefs (1)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
4	News briefs (2)	Presentation on a topical news story in the field of global politics.
5	Case Study	Examination of the arguments relating to a debate topic to be decided in consultation with the students.
6	Case Study	Continuation of the previous lesson.
7	In-class Debate	Debate.
8	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
9	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
10	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
11	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.
12	Presentation and/or Debate	Topic to be decided in consultation with students.

13	Presentation and/or Debate	Continuation of previous lessons.
14	Course wrap up	Reflection of progress made during the course

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this class.

【参考書】

All necessary materials will be provided by the instructor. More information will be given during the course orientation.

【成績評価の方法と基準】

A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.

Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【その他の重要事項】

Note: This syllabus is flexible and subject to change. The amount of time needed for the class to complete assignments and each round of presentations and debates is difficult to predict. Stay alert in class for precise dates for assignments.

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

English Language Education.

Environmental Politics.

<研究テーマ>

Environmental Politics

<主要研究業績>

The International Politics of Whaling

【Outline (in English)】

The emphasis throughout the will be on the active engagement by students in all aspects of the course. To this end, thorough preparation and a willingness to participate actively at all stages of any given debate and/or presentation will be expected.

The final grade will be based upon:

i. A total of two graded presentations and two graded debates each worth a maximum of 20% =80%.

ii. Class participation 20%.

Students are expected to play an active role in all aspects of this class in order to foster and maintain an academically challenging environment throughout the course.

POL600A4-0105

Presentation & Debate (上級)

ザヘル・ハスン

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

【到達目標】

For students to develop critical thinking skills regarding the global political environment. Cooperative learning will be a main focus with students learning about various content areas from each other. Teamwork, autonomy, and research skills will be developed.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」「DP2」は特に強く関連、「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

A variety of topical issues related to Global Politics will be examined, with students given the opportunity to investigate topics related to their own particular interests as the course progresses. In the early stages of the course, students will prepare for the debate process through topic identification, research into that topic, both for and against a position, write either affirmative or negative case positions and anticipate problems with their positions and then present their position in formal class debates and presentations. Following the debates, specific proposals will be written, discarding some of the weaker aspects of their position and incorporating some of the stronger aspects of the opposition. Finally, formalized debates will take place with a goal of seeking a solution agreeable to the interests of both parties.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Orientation	Explanation of course content and introductions
第 2 回	Presentation 1	Three greatest accomplishments
第 3 回	Presentation 1 (cont.)	Three greatest accomplishments
第 4 回	Presentation 2 preparation	Future Nobel Peace Prize winners
第 5 回	Presentation 2	Future Nobel Peace Prize winners
第 6 回	Presentation 2 (cont.)	Future Nobel Peace Prize winners
第 7 回	Persuasive Presentations	Persuasive presentations introduction
第 8 回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第 9 回	Persuasive Presentations (cont.)	Persuasive presentations
第 10 回	Problem solving presentations	Problem solving presentations
第 11 回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第 12 回	Problem solving presentations (cont.)	Problem solving presentations
第 13 回	Final Presentation Preparation	Final Presentation Preparation
第 14 回	Final Presentations	Final Presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト (教科書)】

There is no set text for this course.

【参考書】

Relevant materials will be provided by the instructor in the early stages of the course. Students will be responsible for gathering and organizing their own research materials as the course proceeds.

【成績評価の方法と基準】

20% First In-Class debate and presentation.

20% Second In-Class debate and presentation.

20% Third In-Class debate and presentation.

20% Fourth In-Class debate and presentation.

20% Active class participation and homework.

【学生の意見等からの気づき】

This course will focus on cooperative learning. Students will research and prepare debates and presentations on various topics and learn from each other. The syllabus is flexible and subject to change. The choice of topics to be studied may change in line with the particular interests of the students. Please be aware of such changes along with date for homework assignments and in-class activities and quizzes.

【学生が準備すべき機器他】

n/a

【その他の重要事項】

n/a

【担当教員の専門分野等】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This higher-level graduate course aims to help students practice fluency, formulate and exchange opinions and enhance critical thinking and reasoned decision making skills through the study of debate and presentation.

POL600A4-2200

国連・平和構築研究 1 (国連組織)

弓削 昭子

その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding on how the UN system and its agencies have evolved to address the changing global issues. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in addressing major global issues bearing in mind the political and socio-economic contexts at different times. Through presentation and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, especially the UN and its development and peacebuilding activities. Classes will focus on the analysis of different roles and functions of the UN through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Definition and types of international organizations
2	The UN: continuity and change since 1945	Establishment of the UN and its evolving role
3	Political work of the UN	Multilateralism and the UN
4	General Assembly (GA)	Role and issues of General Assembly
5	Security Council	Role and issues of Security Council
6	Economic and Social Council (ECOSOC)	Role and issues of ECOSOC
7	UN Secretariat	UN Secretariat's role, independence, and reform
8	UN Secretary-General	UN Secretary-General's role, authority, and challenges
9	International Court of Justice	Role and issues of International Court of Justice
10	Regional groups and alliances	UN's relationship with regional actors
11	Civil society	UN's relationship with civil society actors

12	Private sector	UN's relationship with the private sector
13	UN reform	Issues and progress in UN reform
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト (教科書)】

・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), The Oxford Handbook on the United Nations Second Edition, Oxford University Press, 2018.

・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), The UN Security Council in the 21st Century, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.

・ United Nations, Our Common Agenda, Report of the Secretary-General, 2021.

【参考書】

・ Tatiana Carayannis and Thomas G. Weiss, The "Third" United Nations, Oxford University Press, 2021.

・ Stephen Browne and Thomas G. Weiss (ed.) Routledge Handbook on the UN and Development, Routledge Handbook, Routledge, 2021.

・ Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, eighth edition. Westview Press, 2018.

・ 日本国際連合学会 (編) 『持続可能な開発目標と国連』 国連研究第 22 号、国際書院、2021 年

・ 日本国際連合学会 (編) 『国連：戦後 70 年の歩み、課題、展望』 国連研究第 17 号、国際書院、2016 年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50 %), final report (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on UN organizations), the students will examine the roles and activities of various UN agencies. They will analyze the different roles and activities of various international organizations in tackling global issues, and examine how they can effectively deal with the challenges of today's world.

POL600A4-2201

国連・平和構築研究2（平和構築）

弓削 昭子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this graduate course on United Nations and peacebuilding studies (with focus on peacebuilding), the students will examine the role and activities of the UN and its various agencies in peacebuilding around the world. The students will analyze peacebuilding and related issues from political, economic, social, environmental, human rights, and security angles thereby deepening understanding on their inter-linkages.

【到達目標】

In this course, the students will deepen their understanding of conflict prevention, post-conflict reconstruction and peacebuilding and how the UN system and its agencies have addressed the various challenges related to these. The students will develop the ability to critically analyze UN policies and practices in peacebuilding. Through presentation and discussion in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to conflict prevention, post-conflict reconstruction, and peacebuilding, especially those supported by the UN system and its agencies. Classes will focus on the analysis of different aspects of peacebuilding as well as the roles of various actors in peacebuilding through class presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by the UN and other international organizations. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: what is peacebuilding?	Overview of peacebuilding
2	Conflict prevention	Conflict prevention and the role of UN
3	Peacekeeping	Evolution of UN peacekeeping operations
4	Peacebuilding	Peacebuilding and role of UN
5	Poverty and fragility	Peacebuilding and poverty and fragility
6	Peacebuilding steps	Different phases of peacebuilding
7	Actors in peacebuilding	Cooperation among stakeholders in peacebuilding
8	Humanitarian intervention	Responsibility to Protect (R2P)
9	Humanitarian action	Humanitarian action and coordination

10	Peacebuilding and economic development	Development and peacebuilding nexus
11	Democracy and good governance	Peacebuilding and governance
12	Women and gender	The role of women and gender in peacebuilding
13	Prospects for UN reform	UN reform in peacebuilding
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Advance reading of assigned materials; participation in symposiums and seminars in related topics.

【テキスト（教科書）】

- ・ Thomas G. Weiss and Sam Daws (ed.), *The Oxford Handbook on the United Nations*, Oxford University Press, 2018.
- ・ Sebastian von Einsiedel, David M. Malone, and Bruno Stagno Ugarte (ed.), *The UN Security Council in the 21st Century*, Lynne Rienner Publishers, Inc., 2016.
- ・ Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), *International Development, Ideas, Experiences, & Prospects*, Oxford University Press, 2014.

【参考書】

- ・ Edward Newman, Roland Paris, and Oliver P. Richmond (ed.), *New Perspectives on Liberal Peacebuilding*, United Nations University Press, 2009.
- ・ Ramesh Thakur, *Reviewing the Responsibilities to Protect: Origins, Implementation and Controversies (Global Politics and the Responsibility to Protect)*, Routledge, 2019.
- ・ 稲田十一、『紛争後の復興開発を考える アンゴラと内戦・資源・国家統合・中国・地雷』、創成社、2014年
- ・ 稲田十一（編）、『開発と平和、脆弱国家支援論』、有斐閣ブックス、有斐閣、2009年
- ・ 横田洋三（編）『国連による平和と安全の維持 解説と資料 第2巻』国際書院、2007年
- ・ 日本国際連合学会（編）『平和構築と国連』国連研究第8号、国際書院、2007年

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussion (50%)、final report (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, International organizations

【Outline (in English)】

Same as above text

POL600A4-2203

国際公共調達研究 2

坂根 徹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この国際公共調達政策 2 では、「国連システムの公共調達政策：Public Procurement Policy of the United Nations System」をテーマとする。そして以下の諸項目で記載した要領で学んでいくことを通して、標記のテーマに関して、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考力も涵養していくことを目的とする。

【到達目標】

本科目の到達目標は、国際公共調達政策について、特に国連システムに焦点を当てて理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について調査研究を行い、その考察結果を発表し議論するとともに文章にまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

まずガイダンスで、本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心や関連科目・文献等の既習状況を確認する。そして、国連システムに関して全般的な説明を行い、国連システムの物資・サービスの調達について検討する。その後、個別機関の調達政策に関して、国連の PKO、WFP の食糧援助、UNICEF の保健衛生支援、UNHCR の難民支援等を具体例として取り上げて検討する。また、履修者が各自の関心に基づき選定したテーマについて、調査研究を行い、その中間及び最終結果を発表し、あわせて発表後に検討・議論等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本科目のテーマや進め方について説明した後、各自の問題関心を述べる
2	国連システム	国連システムについての検討
3	国連システムの調達	国連システムの調達についての検討
4	調査研究テーマの選定	調査研究テーマについての各自の説明を踏まえた選定
5	調査研究テーマの中間発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関する中間発表に向けての検討
6	個別機関の調達政策	国連の PKO に関する調達政策についての検討
7	個別機関の調達政策	WFP の食糧支援に関する調達政策についての検討
8	調査研究テーマの中間発表	各自の調査研究テーマに関する進捗状況についての中間発表
9	調査研究テーマの最終発表に向けての検討	各自の調査研究テーマに関して中間発表を踏まえて最終発表に向けての検討
10	個別機関の調達政策	UNICEF の保健衛生支援に関する調達政策についての検討
11	個別機関の調達政策	UNHCR の難民支援に関する調達政策についての検討
12	調査研究テーマの最終発表	各自の調査研究テーマに関する最終発表
13	調査研究テーマの議論	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論
14	調査研究テーマの議論の継続と全体のまとめ	各自の調査研究テーマに関して最終発表を受けての議論と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業テーマの学習に加えて、特に調査研究発表に向けての事前準備にまとまった時間を充当してしっかり行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

開講時やその後の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な貢献度（出席等）・平常点を 50%、担当の発表・議論を 50%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進捗、履修生の人数や関心テーマ・予備知識等により修正・変更されることがある。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際公共政策・国連研究・行政学等
<研究テーマ>国際公共政策・国連システムの行財政・国際行政・調達行政等
<研究業績の例（単著論文から 3 篇を抜粋）>

・「国連システムにおける調達行政の意義と企業・NGO の役割」（日本国際連合学会編『国連研究の課題と展望』国連研究第 10 号、国際書院、2009 年に所収）

・“Public Procurement in the United Nations System” (in Khi V. Thai ed., *International Handbook of Public Procurement*, Taylor and Francis, 2008)

・「国連 PKO における民間企業の役割と課題—調達の側面に焦点を当てて」（国際安全保障学会編『国際安全保障』第 35 巻第 2 号、内外出版、2008 年に所収）

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Procurement Policy 2) is to learn and consider about public procurement policy of the United Nations System. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations. Grading will be decided based on presentations and discussion (50%), and in-class contribution (50%).

POL600A4-2211

持続可能な開発のための教育（ESD）

弓削 昭子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, the students will examine the various elements of the 2030 Agenda for Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs) as well as education for sustainable development (ESD). The role of various stakeholders including governments, international organizations, civil society, the private sector, and the academic community in the implementation of SDGs will be analyzed with a view to strengthening partnerships among them to accelerate SDGs implementation. The students will also explore how they can contribute to the achievement of the SDGs.

【到達目標】

The students will deepen their understanding of the 2030 Agenda and SDGs and key issues related to its implementation. They will examine how they can participate towards the achievement of SDGs in concrete terms and will take actions accordingly. Through presentations and discussion in English, the students will also improve their English language proficiency thereby enhancing dialogue and action at the global level in SDGs implementation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to the 2030 Agenda and the SDGs. Classes will focus on analysis of different aspects of SDGs as well as implementation issues and role of different actors through presentation and discussion. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study SDG-related materials produced by the UN and other countries and international organizations.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Meaning, elements, and evolution of ESG
2	Meaning of sustainable development	Evolution of concept of sustainable development
3	Issues related to sustainable development	Global Action Program of ESD
4	SDGs issues	Critical issues for SDGs implementation
5	SDGs issues (continued)	Critical issues for SDGs implementation
6	Poverty	SDGs and poverty eradication
7	Human rights	SDGs and human rights
8	Environment and climate change	SDGs and environment and climate change
9	Disaster reduction	SDGs and disaster reduction
10	Gender issues	SDGs and gender
11	Peaceful societies	SDGs and peace and security

12	Global partnerships	SDGs and global partnerships
13	Human resources	SDGs and human resources
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

- ・ Bruce Currie-Alder, Ravi Kanbur, David M. Malone, & Rohinton Medhora (ed.), *International Development – ideas, experience & prospects*. New York: Oxford University Press, 2014.
- ・ United Nations, *Transforming Our World: The 2030 Agenda for Sustainable Development*, 2015.
- ・ United Nations, *Our Common Agenda, Report of the Secretary-General*, 2021.
- ・ Documentation of the UN and other sources will be distributed in class.

【参考書】

- ・ Raj M. Desai, Hiroshi Kato, Homi Kharas, John W. McArthur (ed.), *From Summits to Solutions: Innovations in Implementing the Sustainable Development Goals*, Brookings Institution Press, 2018.
- ・ United Nations Development Programme (UNDP), *Human Development Report 2019: Beyond income, beyond averages, beyond today: Inequalities in human development in the 21st century*, New York, United Nations Publications, 2019.
- ・ 日本国際連合学会（編）『持続可能な開発目標と国連 SDGs の進歩と課題』（国際書院 2021年）

【成績評価の方法と基準】

Class presentation and participation in discussions (50%), final report (50%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to sustainable development.

【担当教員の専門分野等】

International development and peacebuilding, international organizations.

【Outline (in English)】

As written above.

POL600A4-2222

地球規模課題政策研究

本多 美樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、国際機構論の視点から、国際機構、地域的機構、企業、市民社会などの重要な行為主体（アクター）が、国際社会の秩序を回復・維持するためにどのような工夫を凝らして機能してきたのか、あるいは機能してこなかったのかについて考察する。授業では安全保障をめぐる問題、開発問題、貧困問題、環境問題、感染症問題などの地球規模の問題（グローバル・イシューあるいはトランスナショナル・イシュー）を取り上げ、それらを解決するための各アクターの役割と機能、政策、課題について考察する。その際に、各アクター間の協働と確執について注目し、各問題領域で形成されつつある「ガバナンス」の現状と今後の課題を展望する。

【到達目標】

・時代とともに変容してきた国際機構、企業、市民社会の役割・機能についての知識を身に付ける。
 ・地球規模の問題を解決するために、協働と確執を繰り返しながら取り組むさまざまなアクターの政策と活動について理解する。
 ・国際社会が直面する地球規模の問題に対して自分の問題意識を明確にし、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、受講者間で議論する時間を毎回設ける。対面での授業を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては Zoom を利用して行う。詳しくは、Hoppii でお知らせする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的と進め方
第2回	国際社会の平和と安全への協働①	国連とその他の国際機構の協力
第3回	国際社会の平和と安全への協働②	国際機構と企業、市民社会の協力
第4回	国連による集団安全保障①	軍事的措置と非軍事的措置
第5回	国連による集団安全保障②	平和構築
第6回	核不拡散	政策と実践
第7回	軍備管理と軍縮	政策と実践
第8回	人権と民主主義	人権の国際的保障をめぐる政策と実践
第9回	人の移動	難民・避難民、就労移民をめぐる政策と実践
第10回	感染症	政策と実践
第11回	開発協力①	政策と実践
第12回	開発協力②	政策と実践
第13回	環境保護	政策と実践
第14回	資源の管理	政策と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

詳しくは授業内で提示する。

【参考書】

渡部茂己・望月康恵編著『国際機構論 総合編』国際書院、2015年。
 吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論 活動編』国際書院、2021年。
 その他、各回の関連文献・資料については、授業の際に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での議論への参加（30%）と期末レポート（70%）から総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

関連科目として、「非伝統的安全保障研究」を春学期に開講する。「非伝統的安全保障研究」は、伝統的安全保障との考え方の違いや分析アプローチの違いに重きを置いた内容であり、「人間の安全保障」や「保護する責任」など国際規範についてもより深く考察する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

近著に、『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か（明石書店、2021年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索」（国際書院、2013年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか」（勁草書房、2012年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバルイゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012年）、Japan: COVID-19 and the Vulnerable, M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022); "Smart Sanctions' by United Nations and Financial Sanctions," United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020); "Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating 'universal' norms and values on the local," Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018); "The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874," East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013年）などがある。

【Outline (in English)】

The international community faces diversified transnational issues such as security issues, poverty, refugees, human rights abuse, organized crimes, financial crisis and so on. No single nation can control them anymore. And those issues cannot be understood within the nation-centered narratives. This course provides students with opportunities to become acquainted with "global issues" and learn that diversified actors have made efforts to tackle with the issues. Students will know that nations make contributions to the settlement of those issues in cooperation with regional and international institutions, businesses, civil society, and other entities. These efforts and social movements by the diversified actors can be called "global governance." Students will understand how the international community tries to formulate and manage "global governance."

POL600A4-2301

アジア比較政治

福田 円

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、東アジア諸国・地域の政治制度の比較について学ぶ。

【到達目標】

この授業では、受講者がアジア諸国における政治体制の違いについて既に基本的な知識を持っているという前提のもと、各国・地域における特定の政治制度を比較政治学的な視点から理解する。そして、東アジア諸国・地域における同政治制度のよりよいあり方について議論を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度の授業においては、対象とするアジア諸国の政治制度と社会との関係に関する基礎知識を確認するという意味で、まず教員が講義を行う。その後、東アジア各国・地域の社会における人口動態について比較した文献や論文を精読し、議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業概要の説明と精読文献の紹介
第2回	文献精読の準備（1）	比較政治学とは何か
第3回	文献精読の準備（2）	東アジア諸国の政治体制
第4回	文献精読（1）	日本・インドネシア
第5回	文献精読（2）	マレーシア・フィリピン
第6回	文献精読（3）	ビルマ・ラオス
第7回	文献精読（4）	インド・パキスタン
第8回	文献精読（5）	スリランカ
第9回	文献精読（6）	ここまでのまとめと議論
第10回	文献精読（7）	韓国・北朝鮮
第11回	文献精読（8）	台湾・中国
第12回	文献精読（9）	タイ・ベトナム
第13回	文献精読（10）	カンボジア
第14回	議論：まとめ	精読した文献の論点をまとめ、発展させるための議論を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の部分では、事前に指定する配布資料を読んでから、次の授業に臨む必要がある。また、輪読に際しては担当部分の報告資料を準備し、担当ではない箇所についても事前に読んでおいて、質問や論点を積極的に発表して欲しい。学期末にはレポートを提出してもらう。

【テキスト（教科書）】

輪読文献の他には特に指定しない。2023年度は以下の文献と別途配布する論文（英語論文を含む）を輪読する予定である。ただし、輪読文献は履修者の顔ぶれによっては変更する可能性もある。
粕谷祐子『アジアの脱植民地化と体制変動』（白水社、2022年）

【参考書】

（比較政治学の分析枠組みを理解するための文献）
粕屋祐子『比較政治学』ミネルヴァ書房、2014年
建林正彦編『比較政治制度論』有斐閣、2008年
河野勝・岩崎正洋編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、2002年（過去に輪読した文献）
粕屋祐子編『アジアにおける大統領の比較政治学』ミネルヴァ書房、2010年
末廣昭・大泉啓一郎編『東アジアの社会大変動—人口センサスが語る世界』名古屋大学出版会、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業における報告とディスカッションへの貢献度（50%）、および期末レポート（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当しない

【担当教員の専門分野等】

東アジア国際政治（史）、中国・台湾論

【Outline (in English)】

This course teaches students about comparative political systems in East Asian countries.

POL600A4-2306

対外政策研究（中国）（1）

熊倉 潤

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で議論し、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業を想定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	文革前の対外関係（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	文革前の対外関係（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	文革前の対外関係（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	文革前の対外関係（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	文革前の対外関係（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第7回	文革前の対外関係（6）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	個人研究発表	院生個人の研究について、各自発表し議論する
第9回	文革中の対外関係（1）	受講者の研究報告とディスカッション
第10回	文革中の対外関係（2）	受講者の研究報告とディスカッション
第11回	文革中の対外関係（3）	受講者の研究報告とディスカッション
第12回	文革中の対外関係（4）	受講者の研究報告とディスカッション
第13回	文革中の対外関係（5）	受講者の研究報告とディスカッション
第14回	フィールドワーク	横浜中華街を訪問して媽祖廟、関帝廟等を実地見学する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。

沈志主主編『中国关系史』：1917-1991 北京：新出版社、2007年、55.80円。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生のディスカッションの時間を多くとる

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史

<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A4-2307

対外政策研究（中国）（2）

熊倉 潤

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の対外政策及び現代中国史について学ぶ。中国の政治・社会の特徴、歴史的形成過程等について、ゼミ形式で論じ、理解を深める。

【到達目標】

本授業の目標は、中国語の研究書、論文等の読解を通じて、中国政治、現代史に関する学術論文を執筆する基礎的な力を養うことにある。また中国語がネイティブでない学生の中国語力、日本語がネイティブでない学生の日本語力を高めることにある。研究者を目指す学生に関しては、特に本授業での学問的修練を経て、次代の中国地域研究を担う人材となることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミ）形式で、【授業計画】に沿って中国語、日本語の研究書、論文等を輪読する。

授業形式は、ひとまず対面授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	文革後の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第3回	文革後の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第4回	文革後の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第5回	文革後の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第6回	フィールドワーク	アジア経済研究所図書館を訪問する
第7回	文革後の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッション
第8回	現代の中国外交（1）	受講者による文献の読解とディスカッション
第9回	修士論文執筆による途中経過報告会	修士論文執筆による途中経過報告とディスカッション
第10回	現代の中国外交（2）	受講者による文献の読解とディスカッション
第11回	現代の中国外交（3）	受講者による文献の読解とディスカッション
第12回	修士論文執筆による途中経過報告会	修士論文執筆による途中経過報告とディスカッション
第13回	現代の中国外交（4）	受講者による文献の読解とディスカッション
第14回	現代の中国外交（5）	受講者による文献の読解とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下の重要文献から抜粋を配布する。価格は参考まで。
沈志華主編『中関史』1917-1991 北京：新出版社、2007年、55.80円。

【参考書】

参考書は指定しないが、参考となる論文等については授業内で適宜必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（50%）、議論への参加度（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

中国語の文献を扱うため、中国語が読めることが望ましい。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>中国、旧ソ連の政治、現代史
<研究テーマ>中ソ関係、民族問題

<主要研究業績>『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。

【Outline (in English)】

In this class, we will study Chinese politics and modern history, and discuss characteristics of Chinese politics and society, and the historical process.

POL600A4-2314

国際地域研究（朝鮮半島）（1）

権 鎬淵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、韓国における政治社会の諸問題を検討する。

大統領選挙の仕組と投票分析、リベラル勢力と保守派の対立、慶尚道と全羅道間の地域対立、兵役制度の仕組みと社会的影響、経済制度の特徴、北に対する認識と政策、反共教育、歴史認識、市民運動などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は、韓国における政治社会の諸問題の存在とその対処方法などを見て、それらを自国の例と比較検討しながら教訓を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論点や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	韓国政治の特徴	渦巻型構造論（中央集権、首都集中、科举制の影響）
第 2 回	大統領選挙の仕組み、歴史、投票分析	5 年 1 期だけ制度の長短所 改憲の歴史、地域基盤の差異
第 3 回	国会議員選挙の仕組み、歴史、投票分析	国会の権限を含む
第 4 回	リベラル勢力 1（政治勢力）	リベラル勢力の変遷を含む
第 5 回	リベラル勢力 2（市民運動）	市民運動、学生運動
第 6 回	保守派の分析	自由党、共和党、民正党、ハンナラ党、自由韓国党
第 7 回	地域対立問題	慶尚道と全羅道の反目
第 8 回	兵役制度の仕組みと社会的影響	兵役の歴史を含む
第 9 回	教育制度の問題点	入試制度
第 10 回	不動産問題	価格高騰及び格差や少子化への影響
第 11 回	経済制度 1（就職・雇用関係）	就職状況と賃金、正規職と非正規職
第 12 回	経済制度 2（年金、弱者対策）	貧困対策、老人政策を含む
第 13 回	少子化問題	少子化の原因と対策
第 14 回	北朝鮮・南北統一に関する認識	世論調査をみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は事前に指定テキストを 2 回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を 1 枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に伝達する必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席 40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策

南北朝鮮情勢

東アジアの軍事情勢

【Outline (in English)】

This course introduces the political and social issues of contemporary South Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of presidential elections, the confrontation of liberals and conservatives, the social influence of compulsory military service, the perception of North Korea issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to cope with those issues.

POL600A4-2315

国際地域研究（朝鮮半島）（2）

権 鎬淵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域研究課目の一環として、北朝鮮における政治社会の諸問題を検討する。

朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係と「先軍政治」、核やミサイル戦力の現状と配置状況、兵役制度の仕組みと社会的影響、食糧事情、エネルギー（特に電気）事情、ジャンマダン（市場）経済の状況、通常軍勢力の陳腐化、歴史認識などを取り上げ、その実態を分析するとともに、それに対する政治社会的な施策を比較検討する。

【到達目標】

学生は北朝鮮の社会構造の基本とその問題点を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による授業が行われたあと、院生側が事前に用意してきた論文や疑問点が発表され、それらについて自由討議を行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	権力機関の構成	国家保衛省・人民武力省・人民保安省
第2回	朝鮮労働党、行政府、軍の3者関係	役割分担と相互関係
第3回	兵役制度の仕組みと社会的影響	10年説、13年説？ 女性の兵役は？
第4回	教育制度	学年制、カリキュラム、学費について
第5回	経済制度1	就職・雇用・住宅・配給・老後政策
第6回	経済問題1	食糧事情、ジャンマダン経済の状況
第7回	経済問題2	工業生産、エネルギー事情
第8回	改革開放の経済政策の試み	特区制度、農業制度、利益配分システム、私営企業
第9回	国連による経済制裁	経済制裁の内容と効果
第10回	核・ミサイル戦力の状況	戦力分析
第11回	通常戦力の状況	通常戦力の南北比較
第12回	韓国や南北統一に関する認識	権力者と一般人の認識
第13回	米国、中国に対する政策	対ロシア政策も
第14回	日本に対する政策	対日政策の歴史も含む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

院生は指定テキストを2回以上熟読し、討論したいテーマと質問事項を1枚の紙にまとめ、授業開始の際に教員に伝達する必要がある。

【テキスト（教科書）】

開講の際に開示する

【参考書】

開講の際に開示する

【成績評価の方法と基準】

出席 40 %、討論参加度 30 %、レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【担当教員の専門分野等】

日本の防衛政策
南北朝鮮情勢
東アジアの軍事情勢

【Outline (in English)】

This course introduces the political and social issues of contemporary North Korea. It includes the issue of basic political structure, the analysis of communist party, government and military. Recent situation of North Korea's nuclear weapon capability, ballistic missiles and conventional weapons will be checked. It also will check current social and economic situation; food and energy situation, the social influence of compulsory military service, the perception of unification issues, etc.

The aim of this course is to help students understand the political and social issues in North Korea, compare them with similar issues in Japan and get a good idea to cope with those issues.

POL600A4-2316

国際地域研究（ロシア）（1）

溝口 修平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ロシアは欧米諸国との対立を深めています。クリミア併合やウクライナへの軍事侵攻に代表されるように旧ソ連諸国に対する介入を強める一方で、これらの国々でおこる政治変動に対しては「西側の陰謀」として強く反発しており、国際社会からは「国際秩序への挑戦者」とみなされています。

このようなロシアの行動は、国際社会からは民主主義や人道的介入などの「国際規範」に反するとされますが、それではロシア自身は、どのような論理によって自身の行動を正当化しているのでしょうか。本科目では、ロシア外交に関する近年の主要文献を購読しながら、この問題について考察します。

【到達目標】

- 1) 冷戦終結後のロシア外交の変化について説明することができる。
- 2) 近年の欧米諸国との対立について、ロシアがどのような論理に基づいて行動しているかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による簡単な講義の後に、ロシア外交に関する著作や論文（主に英語文献）を参加者全員で講読します。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業は進めます。また、課題等に対するフィードバックは各回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要説明、論文入手の方法、各回の発表担当者決め
第2回	ロシア外交の基礎	冷戦終結後のロシア外交の展開に関する講義
第3回	ロシアの2つの「主権」観	小泉（2019）第1章を読む
第4回	ロシアと欧米諸国との関係（1）	小泉（2019）第2章を読む
第5回	ロシアと欧米諸国との関係（2）	小泉（2019）第3-4章を読む
第6回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（1）	Toal(2017), Introduction を読む
第7回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（2）	Toal(2017), ch.1 を読む
第8回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（3）	Toal(2017), ch.2 を読む
第9回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（4）	Toal(2017), ch.3 を読む
第10回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（5）	Toal(2017), ch.4 を読む
第11回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（6）	Toal(2017), ch.5 を読む
第12回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（7）	Toal(2017), ch.6 を読む
第13回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（8）	Toal(2017), ch.7 を読む
第14回	ロシアと旧ソ連諸国との関係（9）	Toal(2017), ch.8 を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、その文献に対するコメントを用意した上で授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小泉悠（2019）『「帝国」ロシアの地政学―「勢力圏」で読むユーラシア戦略』

Gerald Toal, (2017), Near Abroad: Putin, the West, and the Contest over Ukraine and the Caucasus, Oxford: Oxford U.P.

【参考書】

授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の完成度（30%）

文献に関する報告（20%）

授業中の討論への貢献（50%）

【学生の意見等からの気づき】

当該分野のこれまでの研究の流れがわからないと専門的な文献を十分に理解できないという意見があったので、教員が研究史の概要を説明する回を設けました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ>旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

<主要研究業績>

①『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年（共著）。

②『ロシア連邦憲法体制の成立－重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。

③『連邦制の逆説？——効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。

など

【Outline (in English)】

This course aims to understand the logic of Russia's foreign policy, which has experienced deep conflict with the "standard" norms of the international community, such as democracy and humanitarian intervention.

All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading

for each week. In addition, each student will be asked at least once to

present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2317

国際地域研究（ロシア）（2）

溝口 修平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、ロシアは欧米諸国との対立を深めています。クリミア併合やウクライナへの軍事侵攻に代表されるように旧ソ連諸国に対する介入を強める一方で、これらの国々でおこる政治変動に対しては「西側の陰謀」として強く反発しており、国際社会からは「国際秩序への挑戦者」とみなされています。

今学期は、ロシア・ウクライナ戦争に関する2冊の書籍を読んで、この戦争がなぜ起きたか、そして今後どのような展開が生じるかを考えます。

【到達目標】

- 1) ロシア・ウクライナ戦争の背景と経過について説明することができる。
- 2) 戦争終結のあり方について理論的に議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

教員による簡単な講義の後に、ロシア・ウクライナ戦争に関する文献を参加者全員で講読します。担当者が論文の内容を簡単に報告し、その内容について全員で議論する形で授業は進めます。また、課題等に対するフィードバックは各回の授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	今学期の授業計画について
第2回	ロシア・ウクライナ戦争の背景	戦争の背景について講義を行う
第3回	ウクライナ戦争（1）	小泉（2022）はじめに、第1章を読む
第4回	ウクライナ戦争（2）	小泉（2022）第2章を読む
第5回	ウクライナ戦争（3）	小泉（2022）第3章を読む
第6回	ウクライナ戦争（4）	小泉（2022）第4章を読む
第7回	ウクライナ戦争（5）	小泉（2022）第5章、おわりにを読む
第8回	戦争の終わり方（1）	千々和（2021）序章、第1章を読む
第9回	戦争の終わり方（2）	千々和（2021）第2章を読む
第10回	戦争の終わり方（3）	千々和（2021）第3章を読む
第11回	戦争の終わり方（4）	千々和（2021）第4章を読む
第12回	戦争の終わり方（5）	千々和（2021）第5章を読む
第13回	戦争の終わり方（6）	千々和（2021）第6章、終章を読む
第14回	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献を読み、その文献に対するコメントを用意した上で授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小泉悠（2022）『ウクライナ戦争』ちくま新書。
千々和泰明（2021）『戦争はいかに終結したか—二度の大戦からベトナム、イラクまで』中公新書。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の完成度（30%）
文献に関する報告（20%）
授業中の討論への貢献（50%）

【学生の意見等からの気づき】

当該分野のこれまでの研究の流れがわからないと専門的な文献を十分に理解できないという意見があったので、教員が研究史の概要を説明する回を設けました。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交
<研究テーマ>旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割
<主要研究業績>

- ①『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022年（共著）。
 - ②『ロシア連邦憲法体制の成立—重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016年。
 - ③『連邦制の逆説？—効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016年（共編著）。
- など

【Outline (in English)】

This course aims to understand the logic of Russia's foreign policy, which has experienced deep conflict with the "standard" norms of the international community, such as democracy and humanitarian intervention.

All students in the course are expected to come to each seminar having read and prepared to discuss a considerable portion of the reading

for each week. In addition, each student will be asked at least once to

present and/or comment upon some of reading.

POL600A4-2322

国際地域研究（ヨーロッパ）（1）

宮下 雄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、一次史料を利用できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

原則、履修者による報告によって講義を実施する。

対面を軸としつつも、Zoom などオンライン形式での授業を行う可能性もある。

なお、最終回の講義では、春学期に扱った史料に関する説明、そしてレポートなどに対する講評を実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／受講者の研究テーマの紹介
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	戦間期に関する外交①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	戦間期に関する外交②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	戦間期に関する外交③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	戦間期に関する外交④
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	戦間期に関する外交⑤
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	第二次世界大戦期の外交①
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	第二次世界大戦期の外交②
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	第二次世界大戦期の外交③
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	第二次世界大戦期の外交④
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	第二次世界大戦期の外交⑤
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	第二次世界大戦期の外交⑥
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	第二次世界大戦期の外交⑦
第14回	講義で扱った史料に関する説明／レポートに関する講評	国際関係史と史料分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】

瀬畑源『公文書をつかう—公文書管理制度と歴史研究』（青弓社、2011年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70%）、議論への参加度（30%）

【学生の意見等からの気づき】

学術論文を執筆する際に、必要となる技法の習得に直結する講義の実施

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

履修するに際しては、国際関係史・国際政治史・外交史の基礎的な文献を読んでおくこと。

なお、報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline (in English)】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods.

POL600A4-2323

国際地域研究（ヨーロッパ）（2）

宮下 雄一郎

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：一次史料としての外交文書の分析

授業の目的：本講義の目的は、ヨーロッパ国際関係の問題について歴史的観点から研究する際に必須となる史料読解に習熟することである。国際地域研究（ヨーロッパ）（1）をすでに履修していることを前提とする。

【到達目標】

本授業の目標は、国際関係史に関する学術論文を執筆するに際し、必須となる一次史料の利用に習熟することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

授業は、履修者の報告に基づく演習形式で実施する。

対面での演習とする。なお、オンライン演習も実施する予定である。

最終回の演習で、秋学期に扱った史資料の解説や履修者が執筆したレポートなどに関する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進行方法／報告者の順番決め
第2回	受講者による史料読解・報告（1）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想①
第3回	受講者による史料読解・報告（2）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想②
第4回	受講者による史料読解・報告（3）	第二次世界大戦終焉直後のヨーロッパ統合構想③
第5回	受講者による史料読解・報告（4）	冷戦期の外交①
第6回	受講者による史料読解・報告（5）	冷戦期の外交②
第7回	受講者による史料読解・報告（6）	冷戦期の外交③
第8回	受講者による史料読解・報告（7）	冷戦期の外交④
第9回	受講者による史料読解・報告（8）	冷戦期の外交⑤
第10回	受講者による史料読解・報告（9）	脱植民地化と外交①
第11回	受講者による史料読解・報告（10）	脱植民地化と外交②
第12回	受講者による史料読解・報告（11）	脱植民地化と外交③
第13回	受講者による史料読解・報告（12）	脱植民地化と外交④
第14回	史資料に関する解説／レポートなどに関する講評	外交史研究の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各国の外交文書からの抜粋（Foreign Relations of the United States, 『日本外交文書』など）

【参考書】

モーリス・ヴァイス（細谷雄一・宮下雄一郎監訳）『戦後国際関係史—二極化世界から混迷の時代へ』（慶應義塾大学出版会、2018年）

【成績評価の方法と基準】

報告の内容（70%）、議論への参加度（30%）

【学生の意見等からの気づき】

秋学期に開催する授業ということもあり、修士論文の執筆を念頭に置いた演習を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

報告に際し、利用する外交文書の言語は、日本語・英語・フランス語のいずれかであることが望ましい。その他の言語の利用も可能だが、事前に相談すること。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>国際関係史／戦争史

<研究テーマ>フランス外交史／ヨーロッパ統合論

<主要研究業績>『フランス再興と国際秩序の構想—第二次世界大戦期の政治と外交』（勁草書房、2016年）など

【Outline (in English)】

Outline: Analyzing diplomatic papers

Objectives: The aim of this course is to learn how to use archival materials, which is the most important skill for research of international relations based on historical methods. It is required to take "International Area Studies (Europe) (1)" in the spring semester.

POL600A4-2324

日本外交研究 1

高橋 和宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、外交文書公開の進展や政治家等に対するオーラルヒストリーの蓄積により、戦後日本外交史上の様々な争点を実証的に解明されつつある。本講義では、戦後期の日本外交に関する文献講読を通じて、こうした研究の最前線を理解するとともに一次史料の利用方法といった方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

戦後日本外交の主要な論点について一次史料に基づく専門知識を習熟する。また、そうした論点が現代の外交課題にどのようにつながっているのかを考える学問的素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習方式。講読対象文献を基に議論する。当該テーマに関する一次史料の読解を課題に課すことがある。

学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第 2 回	方法論（1）	戦後日本外交史の研究動向
第 3 回	文献講読（1） （受講生による報告）	敗戦と占領（1945-50 年） （教科書 第 1 章）
第 4 回	文献講読（2） （受講生による報告）	冷戦下の講和と日本外交（1950 年代〈1〉） （教科書 第 2 章）
第 5 回	文献講読（3） （受講生による報告）	戦後体制の成立（1950 年代〈2〉） （教科書 第 3 章）
第 6 回	文献講読（4） （受講生による報告）	経済大国日本の外交（1960 年代） （教科書 第 4 章）
第 7 回	文献講読（5） （受講生による報告）	デタント下の日本外交（1970 年代） （教科書 第 5 章）
第 8 回	文献講読（6） （受講生による報告）	国際国家日本の外交（1980 年代） （教科書 第 6 章）
第 9 回	文献講読（7） （受講生による報告）	冷戦後の日本外交（1990 年代） （教科書 第 7 章）
第 10 回	文献講読（8） （受講生による報告）	小泉外交から民主党外交へ（2000 年代） （教科書 第 8 章）
第 11 回	文献講読（9） （受講生による報告）	第二次安倍政権の外交（2012 年 - ） （教科書 第 9 章）
第 12 回	方法論（2）	一次史料（外交文書）の探し方、使い方
第 13 回	論文指導（1） （受講生による報告）	受講生に対する修士論文作成指導
第 14 回	論文指導（2） （受講生による報告）	受講生に対する修士論文作成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』慶応義塾大学出版会、2019 年

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】

日本外交史、経済外交論、国際関係史

【研究テーマ】

冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

【主要研究業績】

『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969 年』（千倉書房、2018 年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

This course aims to help students understand Japan's diplomatic history since the end of the Second World War. Through intensive document reading, students will learn the latest research findings as well as basic research methodology on historical archives.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the in-class contribution(100%).

POL600A4-2325

日本外交研究2

高橋 和宏

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、外交と内政との連関という視点から冷戦期の日米関係を展望し、その特質を理解することを目的とする。戦後日米関係は占領期という特殊な時期を起点として、政治、経済、安全保障、文化と多層的な関係を築いてきた。経済摩擦や基地問題の例に顕著にみられるように、この間のプロセスは外交と内政とが密接に絡み合うものであり、双方の視点からその歴史的位置を見定めることが必要である。講義ではまた、実践的な史料の使い方や研究の方法論についても議論していく。

【到達目標】

戦後日米関係史上の主要な論点について専門的知識を習熟するとともに、そうした論点が現代日本の政治外交にどう繋がっているかを実証的に考察できる学術的知見を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

演習方式。博士論文をベースとして刊行された戦後日米関係（日米安保体制の確立、安保条約改定、沖縄返還、核、経済摩擦）に関する研究書を輪読する。一つの研究書を2回の授業で読していく。対象とする研究書の選定は初回のガイダンスを行う。学生による報告に対して教員からコメントや質疑を行い、その問題点や評価点をフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、講読文献の紹介
第2回	文献講読（1） （受講生による報告）	日米安保体制の確立①
第3回	文献講読（2） （受講生による報告）	日米安保体制の確立②
第4回	文献講読（3） （受講生による報告）	安保条約改定①
第5回	文献講読（4） （受講生による報告）	安保条約改定②
第6回	文献講読（5） （受講生による報告）	沖縄返還①
第7回	文献講読（6） （受講生による報告）	沖縄返還②
第8回	文献講読（7） （受講生による報告）	核をめぐる諸問題①
第9回	文献講読（8） （受講生による報告）	核をめぐる諸問題②
第10回	文献講読（9） （受講生による報告）	経済摩擦①
第11回	文献講読（10） （受講生による報告）	経済摩擦②
第12回	文献講読（11） （受講生による報告）	冷戦後の日米安保①
第13回	文献講読（12） （受講生による報告）	冷戦後の日米安保②
第14回	論文指導 （受講生による報告）	受講生の修士論文作成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習に要する時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講読対象文献については初回の授業の際に確定する。

【参考書】

授業において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告及び議論への参加（100%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の関心に応じて、国内外の外交文書やその他の一次史料の具体的な入手方法を説明する。また、それらを用いた学術論文の執筆についても指導を行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【専門領域】

日本外交史、経済外交論、国際関係史

【研究テーマ】

冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交

【主要研究業績】

『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

The main purpose of this course is to provide a basic perspective on the Japan-U.S. relationship during the Cold War era, with a special focus on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered: formulation of the security arrangements, amendment of the Security Treaty, Okinawa reversion, nuclear problems, and economic friction.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the in-class contribution(100%).

POL600A4-2400

グローバル政治経済特別セミナー

浅見 靖仁

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This one-week intensive course will be held in the "autumn session" period, September 13-19, and taught by a guest lecturer, Ms. Him Sothearoth, one of the deputy directors in the General Department of ASEAN, Ministry of Foreign Affairs and International Cooperation, Cambodia. She has also been teaching International Relations in Royal University of Phnom Penh.

This course will focus on Cambodia's approaches and foreign policy in conducting bilateral and multilateral relations with other ASEAN member states and ASEAN dialogues partners such as Japan, China, and the U.S.

Cambodia, as the ASEAN Chair in 2022, has played a pivotal role in ASEAN's efforts to deal with the five sensitive issues, namely the Myanmar issue, the Ukraine crisis, the Taiwan strait, the South China Sea and the Korean Peninsula.

The guest lecturer's first-hand experiences as a Cambodian diplomat in this crucially important period for ASEAN will enrich the contents of this course.

【到達目標】

This course seeks:

- To broaden students' knowledge on how international relations actually works in real world, particularly within ASEAN.
- To deepen students' understanding on how state's geopolitical position and economic power determine ASEAN member countries' foreign policy.
- To equip students with theoretical frameworks to analyze ASEAN member countries' relations with China, the U.S., and Japan.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

Classes will combine lectures, discussions, presentations and short reports.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Self-introduction of the lecturer and the overview of international relations theories related to ASEAN
2	ASEAN's Achievements and Challenges	Historical background, recent achievement, and future challenges of ASEAN
3	Position of each ASEAN Member State	Overview of ASEAN member states' diplomatic policies
4	Cambodia's Foreign Policy in ASEAN	Discussion on factors that influence Cambodia's roles in ASEAN
5	Cambodia-US Relations	Lecture on Cambodia-US Relations
6	Cambodia-Japan Relations	Lecture on Cambodia-Japan Relations

7	Group Discussion	Group discussion and short presentation on Cambodia's relations with US and Japan
8	Cambodia-China Relations	Lecture on Cambodia-China Relations
9	Cambodia-EU Relations	Lecture on Cambodia-EU Relations
10	Group Discussion	Group discussion and short presentation on Cambodia's relations with China and EU
11	Presentations	Students will deliver a 10-minute presentation on a topic related to ASEAN
12	Presentations	Students will deliver a 10-minute presentation on a topic related to ASEAN
13	Presentations	Students will deliver a 10-minute presentation on a topic related to ASEAN
14	Conclusion	Feedback to students' presentation and course wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 56 hours outside of class for this course on average.

【テキスト（教科書）】

There is no set text for this course. Relevant materials will be provided by the instructor.

【参考書】

References will be introduced by the instructors in class as needed.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be calculated as follows:

- Class Participation: 10%
- Homework: 20%
- Topic Presentation: 30%
- Analysis Paper: 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students can bring in any digital tools that may help classroom discussions.

【その他の重要事項】

Undergraduate students can also take this course.

【Outline (in English)】

Class Schedule:

Sept. 13 (Wed)	13:10-14:50 Session 1
	15:00-16:40 Session 2
	16:50-18:30 Session 3
Sept. 14 (Thu)	10:40-12:20 Session 4
	13:10-14:50 Session 5
	15:00-16:40 Session 6
	16:50-18:30 Session 7
Sept. 15 (Fri)	13:10-14:50 Session 8
	15:00-16:40 Session 9
	16:50-18:30 Session 10
Sept. 19 (Mon)	10:40-12:20 Session 11
	13:10-14:50 Session 12
	15:00-16:40 Session 13
	16:50-18:30 Session 14

POL600A4-2401

開発援助運営論：JICA講座

弓削 昭子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「実践講座クラスター」（現実とのダイアログを目的とした科目群）のひとつとして設置されている本講座は、日本の政府開発援助（ODA）を実施する「国際協力機構（JICA）」の業務と開発協力・援助の主要課題について、JICA 現役職員がオムニバス方式で講義するものである。この講義では、開発途上国が抱える諸問題と、それらに対する国際協力・開発援助の役割と活動について日本政府 ODA と JICA 事業を中心に学ぶ。国際協力・開発援助の在り方、種類、課題について、さらに日本の ODA の特徴についての理解も深める。

【到達目標】

開発途上国の諸問題と国際協力・開発援助、特に日本の ODA と JICA 事業の役割と活動についての知識を身に付ける。また、開発協力・援助の主要課題と問題解決手法について、そして JICA の事業実施におけるさまざまなパートナーとの連携についても理解を深める。この授業を履修することで、地球規模や開発途上国の諸問題に対する観察力と分析力を高めることを目指す。そして、日本の ODA と JICA 事業の在り方について考え、自分なりの意見を持ち、提示できる能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

1. 授業の進め方：毎回異なる講師によるオムニバス形式の授業である。このため、講義ごとにテーマや説明内容が完結する。
2. 授業の方法：毎回の授業（100分）はゲスト・スピーカーによる講義（70分）と質疑応答（30分）で展開する。このため、質問・コメントしたい学生は、予め発言内容を準備しておくことが望ましい。
3. 授業計画：秋学期初回の授業において、「2023年度授業計画」（ゲスト・スピーカー講義日程表）を配布・説明するので、必ず出席すること。ちなみに、2022年度に開講した本講座内容は次のとおりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論1	開発援助政策論
第2回	JICAの業務内容	JICA職員による講義と質疑応答
第3回	コロナ危機とは何か、それは世界と開発援助をどう変えるのか？	同上
第4回	日本型援助とは何か、それはどこから来たのか、どこへ行くのか？	同上
第5回	気候変動・環境問題	同上
第6回	ウクライナ危機に対するJICAの取組	同上
第7回	サブサハラ・アフリカ援助の現状と課題	同上
第8回	平和構築支援	同上
第9回	新たな援助潮流～民間ビジネスを通じた社会課題解決	同上
第10回	JICA ボランティア事業（含む青年海外協力隊）	同上

- 第11回 途上国における法の支 同上
配：東南アジアを例に
- 第12回 外国人材の受け入れ 同上
- 第13回 JICAが求める人材と 同上
仕事
- 第14回 総括 学生プレゼンテーションと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。ただし、講義に先立ち、「JICA年報」、「JICA事後評価報告書」および「外務省 ODA・JICA ホームページ」をレビューしておくこと。

【参考書】

- ・紀谷昌彦、山形辰史『私たちが国際協力する理由 人道と国益の向こう側』日本評論社、2019年
- ・南博、稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』岩波新書、2020年
- ・蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
- ・黒崎卓、大塚啓次郎（編著）『これからの日本の国際協力：ビッグ・ドナーからスマート・ドナーへ』日本評論社、2015年
- ・勝間靖（編）『持続可能な地球社会をめざして』jfUNU レクチャー・シリーズ 10、国際書院、2018年
- ・下村泰民・辻一人・稲田十一・深川由起子『国際協力ーその新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年
- ・西垣昭・下村泰民・辻一人『開発援助の経済学ー共生の世界と日本のODA』第四版：有斐閣、2009年
- ・OECD, Development Cooperation Peer Reviews, Japan 2020, OECD, 2020
- ・Yasutami Shimomura, John Page, Hiroshi Kato (eds.), Japan's Development Assistance: Foreign Aid and the Post-2015 Agenda, Palgrave Macmillan, 2016
- ・Michael P. Todaro and Stephen C. Smith, Economic Development Thirteenth Edition, Pearson, 2020.

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内での発言、討論への参加・貢献度）（40%）、およびプレゼンテーションとレポート（A4サイズ、5枚）（60%）に基づいて評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

担当教員は、国連職員として長年の開発援助の実務経験を有しており、授業では開発途上国の現場での活動を重視して開発援助運営の理論と実践を学ぶ。

【担当教員の専門分野等】

国際開発と平和構築、国際機構論

【Outline (in English)】

The aim of this course is to deepen understanding of the role and activities of Japan International Cooperation Agency (JICA), which undertakes Japan's ODA activities. The lectures will be delivered by various JICA staff on topics including: characteristics of Japan's ODA, JICA's role and main activities, human security, peace building, partnership with the private sector, volunteer activities including Japan Overseas Cooperation Volunteers (JOCV), evaluation of development cooperation activities, role of emerging donors, and other areas.

POL600A4-2403

総合講座・外交総合講座

本多 美樹

備考（履修条件等）：学部「外交総合講座」と合同
 ※学部卒で学部在籍時に履修済みの場合は履修不可

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO からの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことにより、政府間関係からでは知れない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に付ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は特に強く関連、「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではなく広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）

毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppii を通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	アジア太平洋における日本の外交政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	国連と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	国際 NGO/NPO と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

13	日本と国際人権	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には 2 時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

講義や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出（60%）から総合的に判断する。なお、4 回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

近著に、『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か（明石書店、2021 年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して」『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』（明石書店、2016 年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013 年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012 年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して」『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、Japan: COVID-19 and the Vulnerable,” M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022); “Smart Sanctions’ by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020); “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018); “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

